

14. 5-171
1200501211440

14.5
171



始



14.5
174

滿鐵調查資料第一六九編

滿洲金石志稿

第一冊

南滿洲鐵道株式會社
總務部資料課

序

發行所寄贈本

古來滿洲の地たるや、幾多の民族が據つて以て互に雄を競ひ覇を争へるところ、其の盛衰興亡の跡は載せて史乘に在り、肅愼夫餘の上古は暫らく措き、高句驪渤海遼金元清の歴朝、相踵いて國を斯土に建つ。此間春風秋雨幾千百年國已に滅びたるも山河依然として在り矣。今や新興滿洲國の發展に伴ひ、更に新たに滿洲自體の歴史を闡明し、其の認識を一層深むべき時期にあり。此時に方り滿洲史關係の内外文献を見るに、其の數少小に非らざるも、其の史實は尙ほ幾多研究の餘地あることは説くまでもない。然も滿洲には之が研究の傍證史料としての古文書、古記録の遺存するものなく、是に代るものとしては是を古今の金石文に求めざるを得ない。所謂白山黒水の間、山中の古廟に、又は山峽の廢寺に、或は曠野の丘墳に、或は又江岸の摩崖に、到るところ、寒烟荒草に封ぜられたる古碑斷碣こそ、萬古不朽の石の文献にて、之れすべて滿洲史の古文書とも申すべき貴重なる史料である。是に因り始めて史乘の闕如を裨補し、史實を確認し得るものである。

惟ふに滿洲に於ける金石文は從來殆んど閑却され、斷片的には二三の文献を見るも未だ之を一括して集成せるものを見ない。従つて滿洲金石志の編纂は多年學者の翹望するところなるも、進んで之が編纂に當るの人なく、今日に及ぶ。當課茲に鑑みるところあり、囑託園田一龜氏を煩はして本書編纂の業に當らしむ。同氏は篤學の士、夙に滿洲史の研究者



として令名あり、又金石の學に造詣深し。昨春來之が編纂に着手し、東奔西走多大の勞苦を厭はず、少からざる危険を冒し、資料の蒐集に努め、遂に本書を成すに至る。

其の收むるところは舊來の文献に載すものは勿論のこと、近年出土或は發見されしもの、竝に編者自身の新發見に係るもの等を載録し、之に簡單なる解説と關係文献を擧ぐ、かくて滿洲に於ける既出の古金石文は盡く本書に網羅せりと謂ふも過言に非らず、以て歷史上の闕如を裨補し、或は地理上の誤謬を正し得べく、之れ單に學界を裨益するのみならず、滿洲郷土史の研究に寄與貢獻するところ、蓋し尠からざるべきを信ずる。たゞ凡そ世に完成せられたる業績なるもの無し、すべての研究は大方の協力を俟つて、よりよきものとせらるべきである。偶本書は滿洲金石の整理に於て、第一着手の光榮を擔ふと雖も、その到らざるを補ふて之を大成することは切に之を四方の賢者及び後代に待つものである。

茲に本書を公刊するに當り一言以て序と爲す。

昭和十一年三月十五日

南滿洲鐵道株式會社

總務部資料課長

松 本 豊 三

凡 例

- 14.5-17.1
- 一、本書ハ滿洲ニ於ケル碑碣墓誌、石幢及ビ其他ノ石刻文ヲ蒐集編纂セルモノニ係リ、第一冊ハ上代ヨリ元代ニ至ルマデヲ收録ス。
 - 一、名稱ニハ原來ノ地名ヲ冠シ、各本文ヲ舉グルト共ニ、是ニ對シテ簡單ナル解説ヲ附シ、其ノ所在、現狀、出土地等ヲ記シ、且ツ主要ナル關係文献ヲ列擧シ、之ガ研究ニ便セリ。
 - 一、各本文ノ採録ニハ嚴正ヲ期シ、主トシテ原石若クハ拓本ニ據レリ。但シ原石既ニ所在ヲ失シ、或ハ交通不便ナル遠隔僻遠ノ地ニアリ、或ハ又匪賊ノ危険アリテ拓本ト雖モ亦容易ニ入手シ難キモノハ已ムヲ得ズ、假ニ舊來ノ文献ニ據レリ。
 - 一、原文ノ闕字ハ推讀ヲ用ヒズ、總テ□ヲ以テ不明ナルコトヲ示ス。
 - 一、原文ノ面目ヲ存スルタメ、字數ノ許ス限リ、原文ノ一行ハ本書ニ於テモ之ヲ一行トシ、字數超過スルモノハ行末ニ「」符ヲ附シ之ヲ示セリ。
 - 一、編纂ノ順序ハ總テ年次ニ依レリ。但シ年代ノ明瞭ナラザルモノハ是ヲ其ノ時代ノ終ニ編入セリ。
 - 一、解説ニ用ヒタル距離ハ總テ滿洲國ノ里程ニ據レリ。又尺度ハスベテ曲尺ヲ採用セリ。
 - 一、原石及ビ拓本中、若干ヲ選ビ寫眞版トシテ挿入セリ。尙ホ契丹國書、女直國書ハ轉寫ノ誤リヲ恐レ寫眞版ヲ以テ本文ニ代ヘタリ。

一、梵字ハ筆寫困難ナルヲ以テ之ヲ略シ假ニ〇ヲ以テ之ニ代ヘタリ。
 二、今後發見若クハ出土スルモノ、及び未見拓本ノ分ハ更ニ他日増補訂正スルコトアル
 ベシ。

目次

第一期 高句麗及渤海時代

- 一 輯安毋丘儉丸都山紀功碑……………一
- 二 輯安廣開土境平安好太王陵碑……………二
- 三 義縣萬佛堂元景造像記……………六
- 四 義縣萬佛堂韓貞造像記……………八
- 五 旅順鴻臚卿崔忻鑿井記……………一〇

第二期 遼時代

- 六 凌南彭城郡王劉繼文墓誌銘……………一一
- 七 義縣朔州順義軍節院使張正嵩墓誌銘……………一四
- 八 朝陽內客省使檢校太傅贈太尉韓瑜墓誌銘……………一六
- 九 平泉岳州刺史太原公墓誌銘……………一八
- 十 平泉檢校太師瑯琊公墓誌銘……………二一
- 十一 朝陽佛頂尊勝陀羅尼石幢記……………二三
- 十二 奉天貴德州觀察判官孫允中石棺銘……………二五

十三	凌源北安州興化縣令宋匡世墓誌銘	二六
十四	林東聖宗文武大孝宣皇帝哀册文	二八
十五	熱河太保張哥墓誌	三一
十六	朝陽宣徽南院使韓椅墓誌銘	三二
十七	義縣濟州刺史張思忠墓誌銘	三六
十八	朝陽鐵舍利塔碑記	四〇
十九	林東聖宗欽愛皇后哀册文	四〇
二十	平泉蘭陵郡夫人蕭氏創建靜安寺碑銘	四二
二十一	林東興宗仁懿皇后哀册篆蓋	四五
二十二	林東聖宗仁德皇后哀册文	四六
二十三	撫順尊勝陀羅尼經幢	四八
二十四	平泉遼相國賈師訓墓誌銘	四九
二十五	朝陽玉石觀音像唱和詩碑	五四
二十六	林東道宗仁聖大孝文皇帝哀册文	六〇
二十七	林東道宗宣懿皇后哀册文	六二
二十八	義縣太和宮副使耶律弘益妻蕭氏墓誌銘	六五
二十九	朝陽興中府安德州勅建靈巖寺碑銘	六七

三十	朝陽釋迦定光二佛舍利塔記	七〇
三十一	平泉李祐墓幢記	七一
三十二	朝陽興中府靈感寺釋迦佛舍利塔碑銘	七二
三十三	義縣城隍廟石經幢	七五
三十四	奉天佛說佛頂尊勝陀羅尼經幢	七七
三十五	林東石經幢殘石	八一
三十六	朝陽佛頂尊勝陀羅尼幢塔	八三
三十七	鳳城石幢連名記	八六
三十八	寧城遼中京址寺僧捐資碑	九一

第三期 金 時代

三十九	赤峰靈峰院千佛洞碑	九三
四十	撫順瀋州雙城縣令劉唐明堂碑記	九五
四十一	朝陽宜州廳峪道院復建藏經千人邑碑記	九六
四十二	遼陽贈光祿大夫張行願墓誌	九八
四十三	錦西安昌縣永和村重修舍利塔碑銘	九九
四十四	遼陽宣武將軍高松哥墓誌	一〇一

四十五	朝陽興中府尹銀青改建三學寺及供給道糧千人邑碑銘	一〇二
四十六	雙陽壯義王完顏婁室神道碑	一〇六
四十七	舒蘭貞憲王完顏希尹神道碑	一一三
四十八	朝陽大悲心陀羅尼梵真言寶塔	一一八
四十九	農安趙景興石棺銘	一二〇
五十	扶餘大金得勝陀頌碑	一二一
五十一	阿城上京寶勝寺前管內都僧錄寶嚴大師塔銘誌	一二四
五十二	遼陽東京大清安禪寺英公禪師塔銘	一二六
五十三	義縣宜州大奉國寺續裝兩洞賢聖題名記	一二八
五十四	賓縣道士曹道清碑	一三〇
五十五	凌源利州精嚴寺第一代蓋公和尚行狀銘	一三一
五十六	義縣開義縣淨勝寺碑	一三二
五十七	朝陽關帝廟石經幢	一三四
五十八	金州佛頂尊勝陀羅尼經幢	一三七
五十九	海龍女直國書摩崖碑(一)	一四〇
六十	海龍女直國書摩崖碑(二)	一四〇
六十一	阜新金同昌縣里墩碑	一四一

第四期 元 時代

六十二	凌源雲峰真人康泰真墓碑	一四三
六十三	凌源利州長壽山玉京觀地產傳後弭訟碑	一四六
六十四	承德重修敵樓山天宮禪院碑記	一四八
六十五	義縣義勇武安王廟碑	一四九
六十六	北鎮北鎮廟聖詔之碑	一五三
六十七	凌源月華山林泉禪寺地產碑	一五四
六十八	義縣大寧路義州重修大奉國寺碑記	一五六
六十九	遼陽關帝廟碑記	一五九
七十	義縣鎮國上將軍王廷墓碑	一六二
七十一	北鎮北鎮廟御香碑記	一六三
七十二	北鎮代祀北鎮之記	一六五
七十三	赤峰全寧路新建儒學記	一六八
七十四	北鎮北鎮廟御香碑記	一七〇
七十五	阜新尖山單家寨創建大玄真宮祖碑	一七二
七十六	赤峰大元同知徽政院事張氏先德之碑	一七五

七十七	阜新蘇州城南學田碑	一七七
七十八	赤峰武德將軍王篤魯班墓志	一七九
七十九	赤峰追封薊國公張應瑞墓碑	一八〇
八十	朝陽達魯花赤也先公平治道塗碑記	一八四
八十一	赤峰中順大夫竹溫台墓碑	一八五
八十二	北鎮北鎮廟御香代祀記	一八八
八十三	北鎮北鎮廟御香代祀記	一八九
八十四	北鎮北鎮廟代祀記	一九一
八十五	北鎮北鎮廟代祀記	一九二
八十六	朝陽川州重修東嶽廟記	一九四
八十七	北鎮北鎮廟御香代祀記	一九六
八十八	凌源瑞州海濱鄉雲谿觀碑	一九八
八十九	北鎮北鎮廟御香代祀記	二〇〇
九十	北鎮北鎮廟代祀記	二〇一
九十一	金州敦武校尉管軍上百戶張成墓碑	二〇三
九十二	奉天瀋陽路城隍廟記	二〇六
九十三	義縣大奉國寺庄田記	二〇九

九十四	北鎮北鎮廟代祀之碑	二二二
九十五	朝陽興中府大通法寺常住上下院地產碑記	二二三
九十六	承德宜興州金谷峪靈峰禪寺碑	二二五
九十七	赤峰烏丹城聖旨斷碑	二二七
	跋	二二九

各省別目次

奉天省

奉天省

遼貴德州觀察判官孫允中石棺銘……………二五

遼佛說佛頂尊勝陀羅尼經幢……………七七

元瀋陽路城隍廟記……………二〇六

撫順

遼尊勝陀羅尼經幢……………四八

金瀋州雙城縣令劉唐明堂記……………九五

遼陽

金贈光祿大夫張行願墓誌……………九八

金宣武將軍高松哥墓誌……………一〇一

金東京大清安禪寺英公禪師塔銘……………一二六

元關帝廟碑記……………一五九

海龍

安徽省

安徽省

輯安

金女直國書摩崖碑(一)……………一四〇

金女直國書摩崖碑(二)……………一四〇

高句驪毘丘儉丸都山紀功碑……………一

高句驪廣開土境平安好太王陵碑……………二

鳳城

遼石幢連名記……………八六

吉林省

吉林省

雙陽

金壯義王完顏婁室神道碑……………一〇六

扶餘

金大金得勝陀頌碑……………一二一

農安

金趙景興石棺銘……………一二〇

舒 蘭

金貞憲王完顏希尹神道碑……………一三三

濱 江 省

阿 城

金上京寶勝寺前管內都僧錄寶嚴大師塔銘誌……………一三四

寶 縣

金道士曹道清碑……………一三〇

錦 州 省

北 鎮

元北鎮廟聖詔之碑……………一五三

元北鎮廟御香碑記……………一六三

元代祀北鎮之記……………一六五

元北鎮廟御香碑記……………一七〇

元北鎮廟御香代祀記……………一七八

元北鎮廟御香代祀記……………一八九

元北鎮廟代祀記……………一九一

元北鎮廟代祀記……………一九二

元北鎮廟御香代祀記……………一九六

元北鎮廟御香代祀記……………二〇〇

元北鎮廟代祀記……………二〇一

元北鎮廟代祀之碑……………二一二

錦 西

金安昌縣永和村重修舍利塔碑銘……………九九

義 縣

北魏萬佛堂元景造像記……………六

北魏萬佛堂韓貞造像記……………八

遼朔州順義軍節院使張正嵩墓誌銘……………一四

遼濟州刺史張思忠墓誌銘……………三六

遼太和宮副使耶律弘益妻蕭氏墓誌銘……………六五

遼城隍廟石經幢……………七五

金宜州大奉國寺續裝兩洞賢聖題名記……………一二八

金開義縣淨勝寺碑……………一三二

元義勇武安王廟碑……………一四九
元大寧路義州重修大奉國寺碑記……………一五六
元鎮國上將軍王廷墓碑……………一六二
元大奉國寺庄田記……………二〇九

朝 陽

遼內客省使檢校太傅贈太尉韓瑜墓誌銘……………一六
遼佛頂尊勝陀羅尼石幢記……………二三
遼宣徽南院使韓楷墓誌銘……………三三
遼鐵舍利塔碑記……………四〇
遼玉石觀音像唱和詩碑……………五四
遼興中府安德州勅建靈巖寺碑銘……………六七
遼釋迦定光二佛舍利塔記……………七〇
遼興中府靈感寺釋迦佛舍利塔碑銘……………七二
遼佛頂尊勝陀羅尼幢塔……………八三
金宜州廳峪道院復建藏經千人邑碑記……………九六
金興中府尹銀青改建三學寺及供給道糧千人邑碑銘……………一〇二
金大悲心陀羅尼梵真言寶塔……………一一八

金闕帝廟石經幢……………一三四
元達魯花赤也先公平治道塗碑記……………一八四
元川州重修東嶽廟記……………一九四
元興中府大通法寺常住上下院地產碑記……………二二三

阜 新

金同昌縣里塚碑……………一四一
元尖山單家寨創建大玄真宮祖碑……………一七二
元懿州城南學田碑……………一七七

熱 河 省

承 德

元重修敵樓山天宮禪院碑記……………一四八
元宜興州金谷峪靈峰禪寺碑……………二二五

赤 峰

金靈峰院千佛洞碑……………九三
元全寧路新建儒學記……………一六八
元大元同知徽政院事張氏先德之碑……………一七五

元武德將軍王篤魯班墓志……………一七九
元追封薊國公張應瑞墓碑……………一八〇
元中順大夫竹溫台墓碑……………一八五
元烏丹城聖旨斷碑……………二二七

凌源

遼北安州興化縣令宋匡世墓誌銘……………二六
金州精嚴寺第一代蓋公和尚行狀銘……………一三一
元雲峰真人康泰真墓碑……………一四三
元利州長壽山玉京觀地產傳後弭訟碑……………一四六
元月華山林泉禪寺地產碑……………一五三
元瑞州海濱鄉雲谿觀碑……………一九八

凌南

遼彭城郡王劉繼文墓誌銘……………一一
遼岳州刺史太原公墓誌銘……………一八
遼檢校太師瑯琊公墓誌銘……………二一
遼蘭陵郡夫人蕭氏創建靜安寺碑銘……………四二

平泉

遼遼相國賈師訓墓誌銘……………四九
遼李祐墓幢記……………七一
遼遼中京址寺僧捐資碑……………九一
遼遼中京址寺僧捐資碑
出土地不明……………三一
遼太保張哥墓誌……………三一

興安西省

林東

遼聖宗文武大孝宣皇帝哀冊文……………二八
遼聖宗欽愛皇后哀冊文……………四〇
遼興宗仁懿皇后哀冊篆蓋……………四五
遼聖宗仁德皇后哀冊文……………四六
遼道宗仁聖大孝文皇帝哀冊文……………六〇
遼道宗宣懿皇后哀冊文……………六二
遼石經幢殘石……………八一

關東州

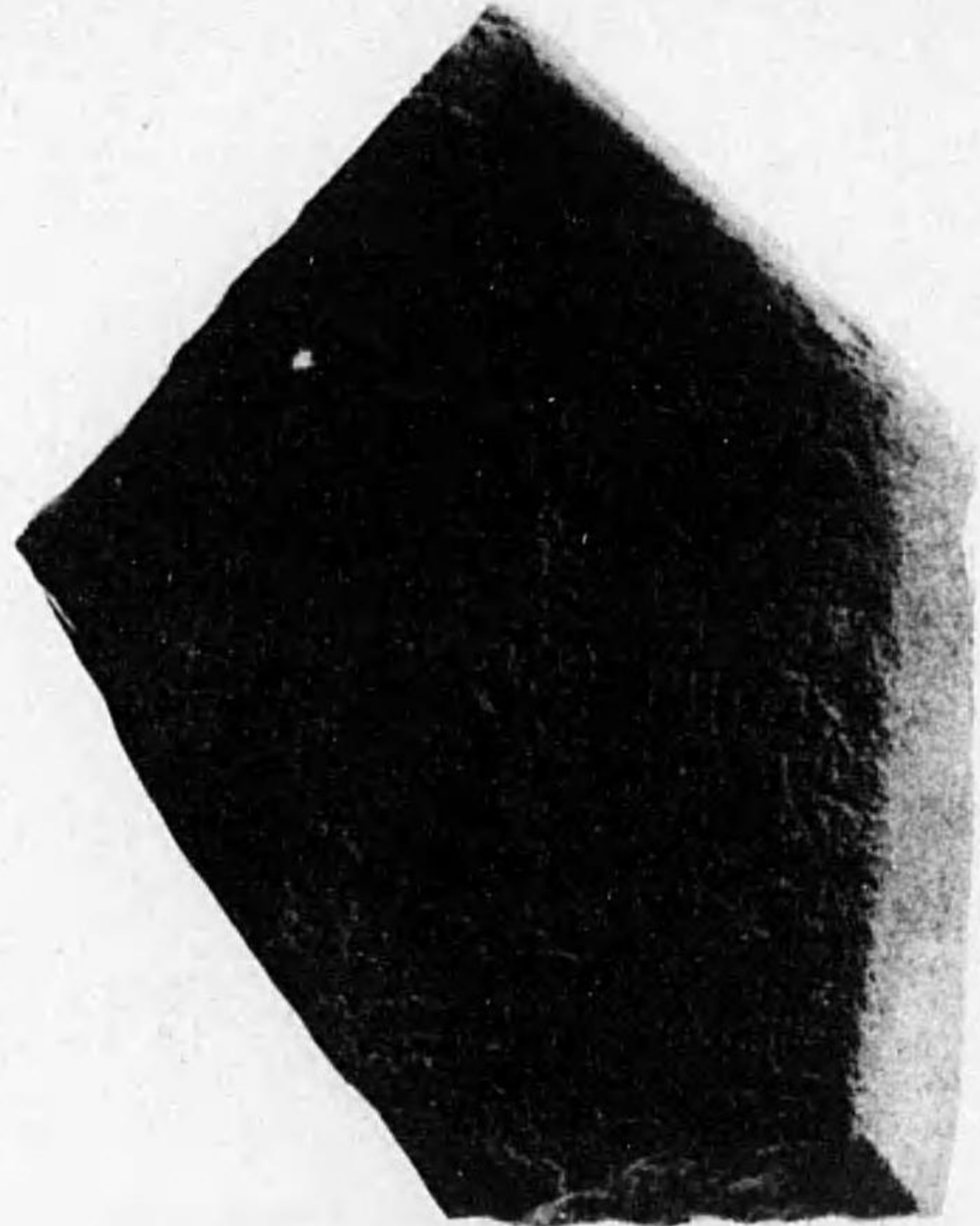
旅順

渤海鴻臚卿崔忻鑿井記

金州

金佛頂尊勝陀羅尼經幢

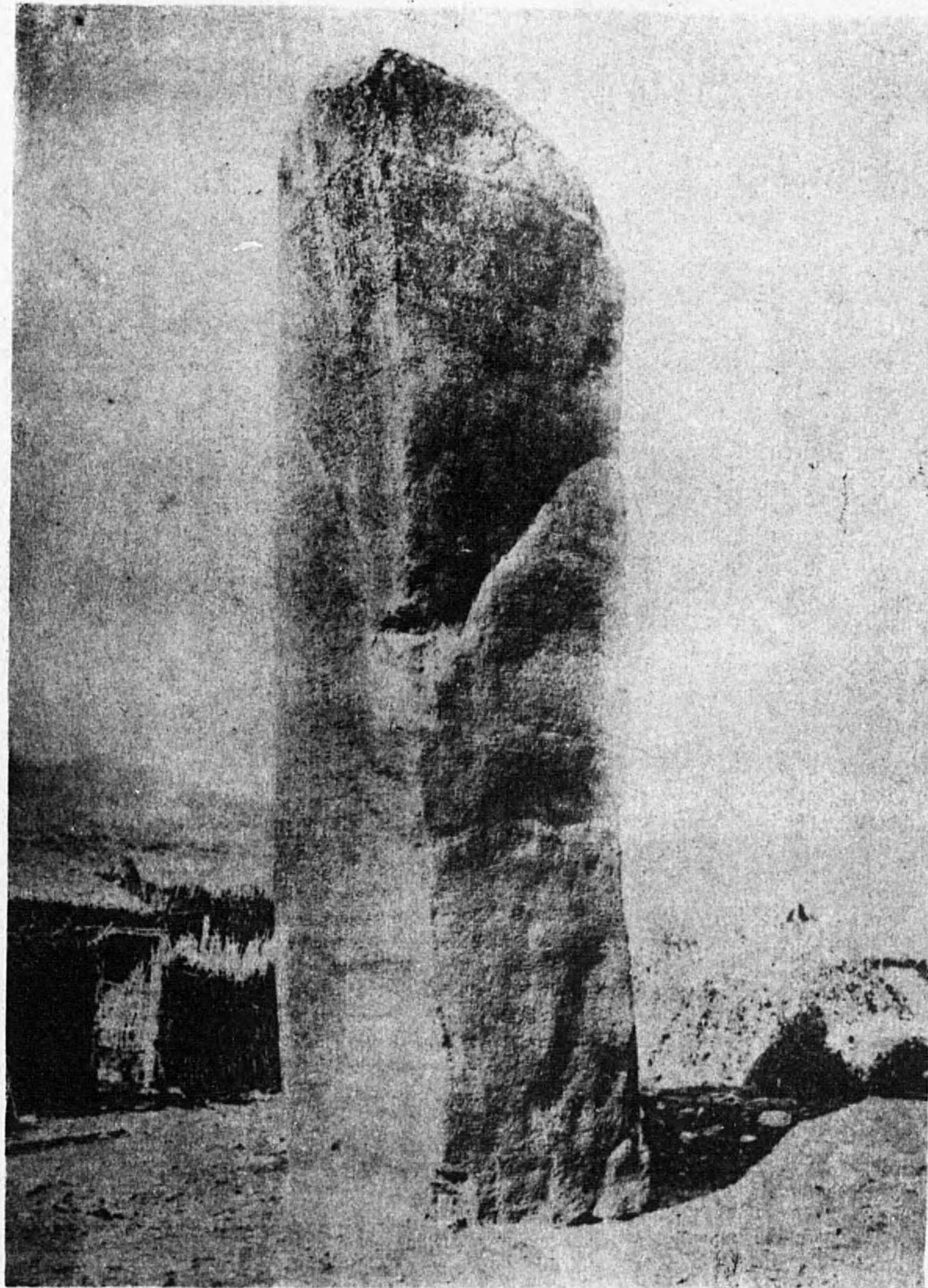
元敦武校尉管軍上百戶張成墓碑



石殘碑功紀山都丸・儉丘毋・驢句高



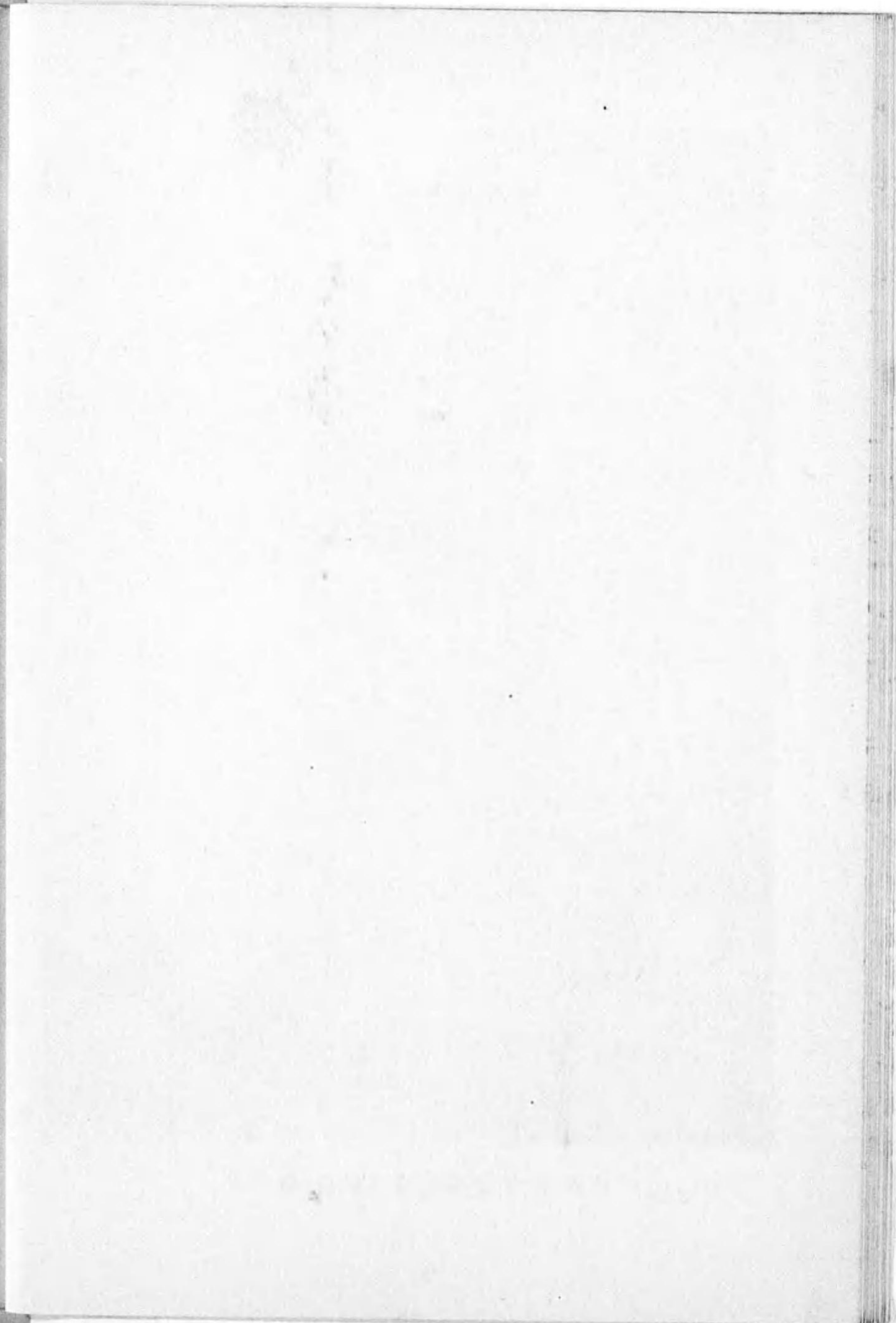
拓碑功紀山都丸・儉丘毋・驢句高



碑陵王太好安平境土開廣・驪旬高

Fragment of ancient text, likely a list or inventory. Visible characters include: 一、... 二、... 三、... 四、... 五、... 六、... 七、... 八、... 九、... 十、... 十一、... 十二、... 十三、... 十四、... 十五、... 十六、... 十七、... 十八、... 十九、... 二十、... 二十一、... 二十二、... 二十三、... 二十四、... 二十五、... 二十六、... 二十七、... 二十八、... 二十九、... 三十、... 三十一、... 三十二、... 三十三、... 三十四、... 三十五、... 三十六、... 三十七、... 三十八、... 三十九、... 四十、... 四十一、... 四十二、... 四十三、... 四十四、... 四十五、... 四十六、... 四十七、... 四十八、... 四十九、... 五十、... 五十一、... 五十二、... 五十三、... 五十四、... 五十五、... 五十六、... 五十七、... 五十八、... 五十九、... 六十、... 六十一、... 六十二、... 六十三、... 六十四、... 六十五、... 六十六、... 六十七、... 六十八、... 六十九、... 七十、... 七十一、... 七十二、... 七十三、... 七十四、... 七十五、... 七十六、... 七十七、... 七十八、... 七十九、... 八十、... 八十一、... 八十二、... 八十三、... 八十四、... 八十五、... 八十六、... 八十七、... 八十八、... 八十九、... 九十、... 九十一、... 九十二、... 九十三、... 九十四、... 九十五、... 九十六、... 九十七、... 九十八、... 九十九、... 一百、...

Fragment of ancient text, likely a list or inventory. Visible characters include: 一、... 二、... 三、... 四、... 五、... 六、... 七、... 八、... 九、... 十、... 十一、... 十二、... 十三、... 十四、... 十五、... 十六、... 十七、... 十八、... 十九、... 二十、... 二十一、... 二十二、... 二十三、... 二十四、... 二十五、... 二十六、... 二十七、... 二十八、... 二十九、... 三十、... 三十一、... 三十二、... 三十三、... 三十四、... 三十五、... 三十六、... 三十七、... 三十八、... 三十九、... 四十、... 四十一、... 四十二、... 四十三、... 四十四、... 四十五、... 四十六、... 四十七、... 四十八、... 四十九、... 五十、... 五十一、... 五十二、... 五十三、... 五十四、... 五十五、... 五十六、... 五十七、... 五十八、... 五十九、... 六十、... 六十一、... 六十二、... 六十三、... 六十四、... 六十五、... 六十六、... 六十七、... 六十八、... 六十九、... 七十、... 七十一、... 七十二、... 七十三、... 七十四、... 七十五、... 七十六、... 七十七、... 七十八、... 七十九、... 八十、... 八十一、... 八十二、... 八十三、... 八十四、... 八十五、... 八十六、... 八十七、... 八十八、... 八十九、... 九十、... 九十一、... 九十二、... 九十三、... 九十四、... 九十五、... 九十六、... 九十七、... 九十八、... 九十九、... 一百、...



拓碑陵王太好安平境土開廣·驪句高

拓碑陵王太好安平境土開廣·驪句高

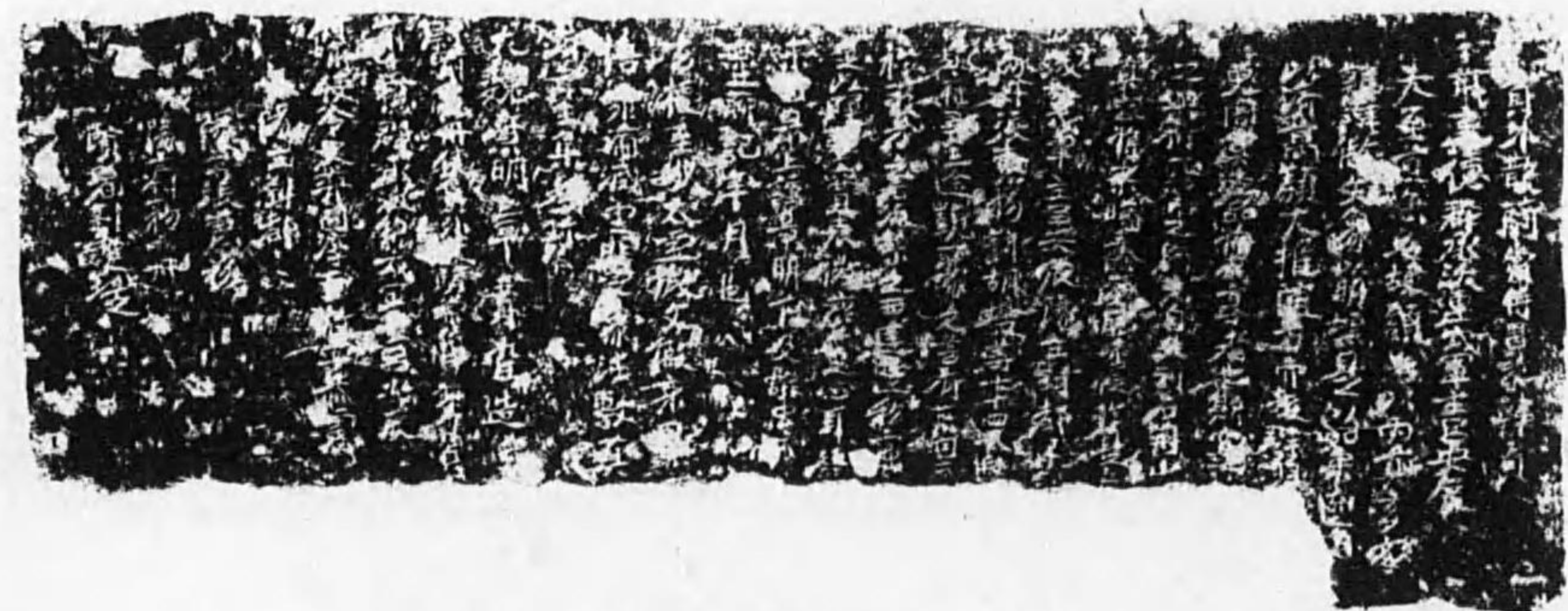
拓碑陵王太好安平境土開廣·驪句高

拓碑陵王太好安平境土開廣·驪句高

拓碑陵王太好安平境土開廣·驪句高



拓記像造景元·堂佛萬·魏北



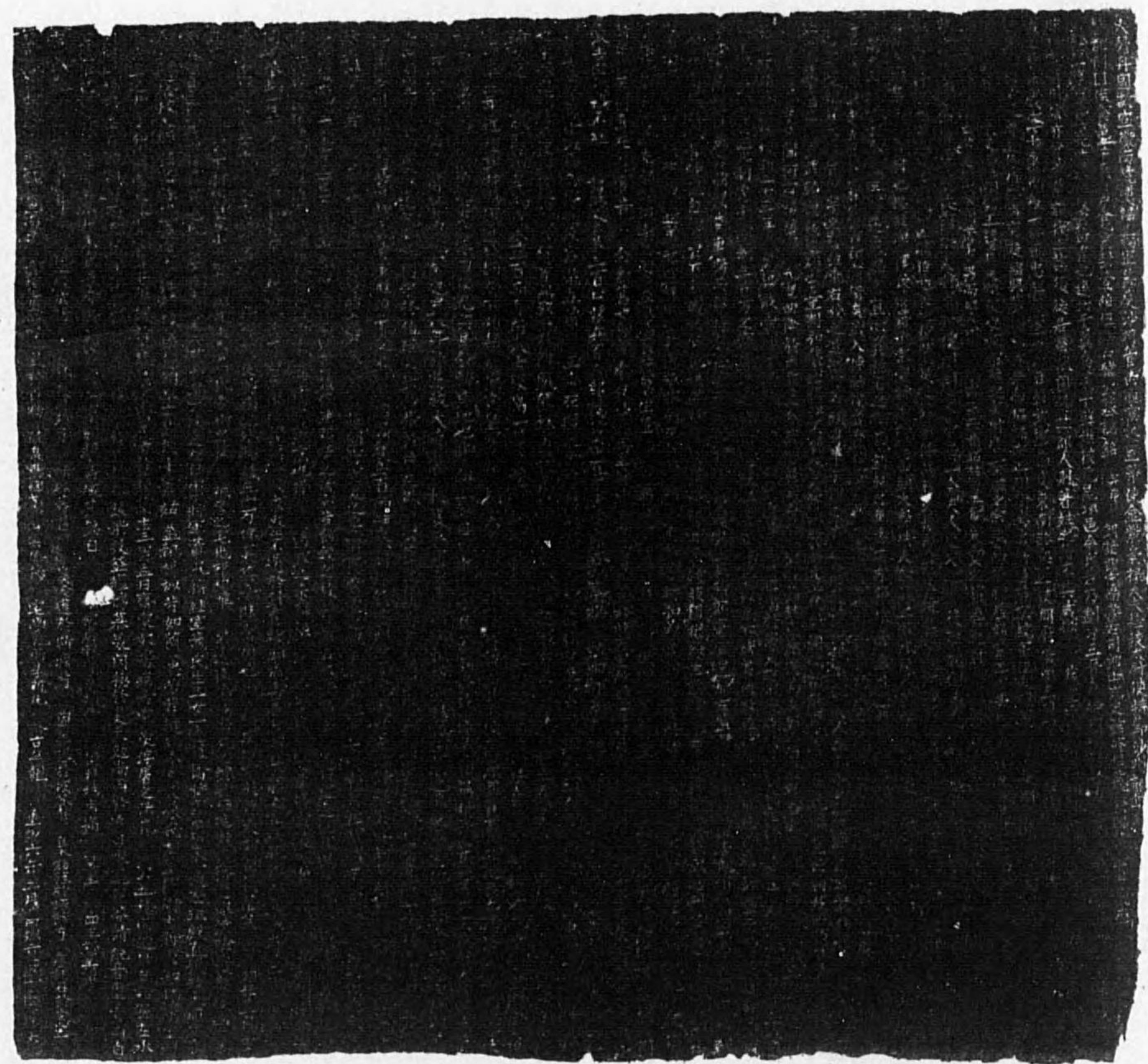
拓記像造貞韓·堂佛萬·魏北

勅特旨宣勞蘇籍使
鴻臚卿崔忻并兩口永
記驗開元二年五月十八日

拓記井鑿忻崔卿臚鴻·唐

拓銘誌墓嵩正張使院節軍義順州朔·遼

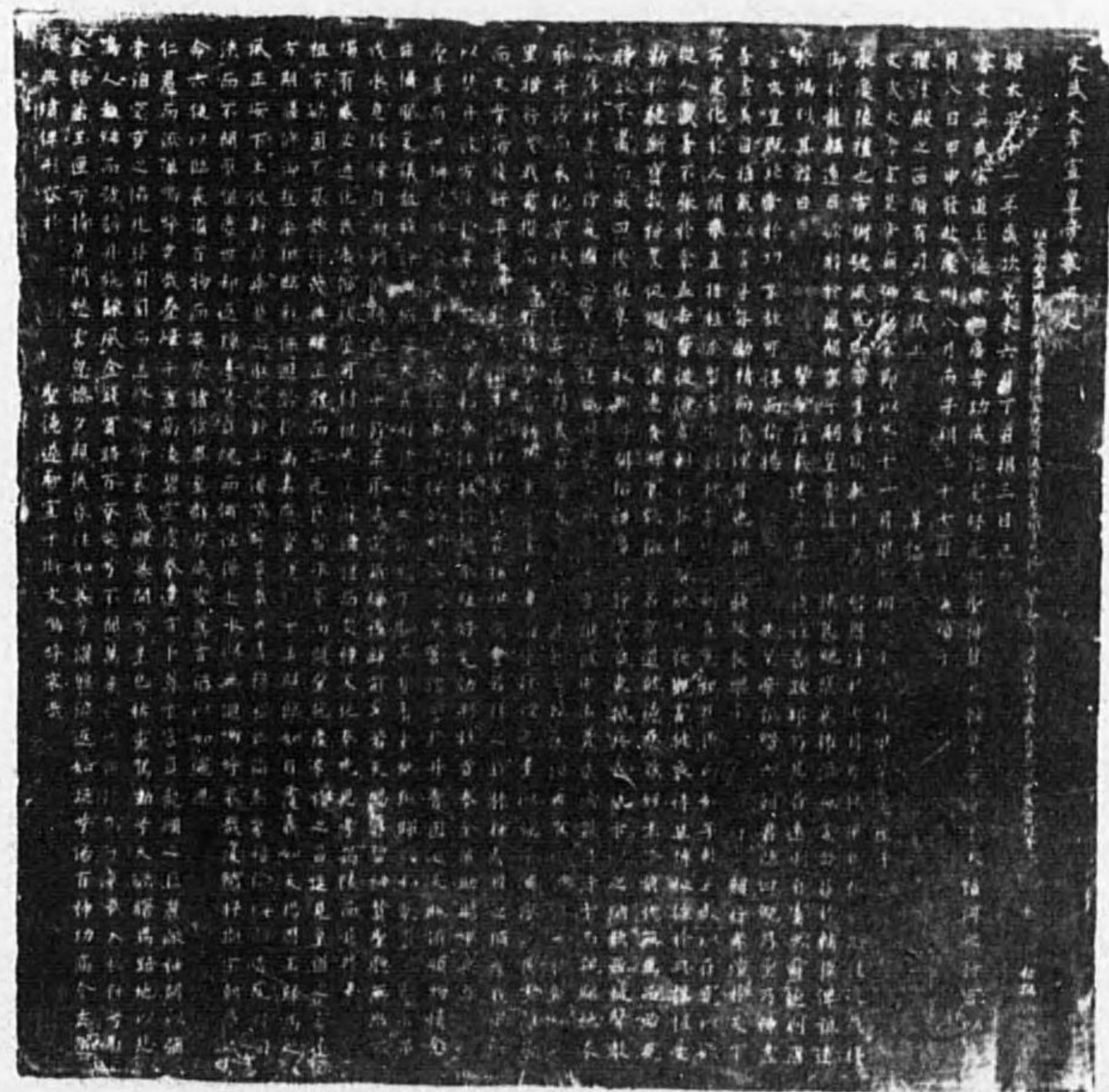
拓銘誌墓嵩正張使院節軍義順州朔·遼



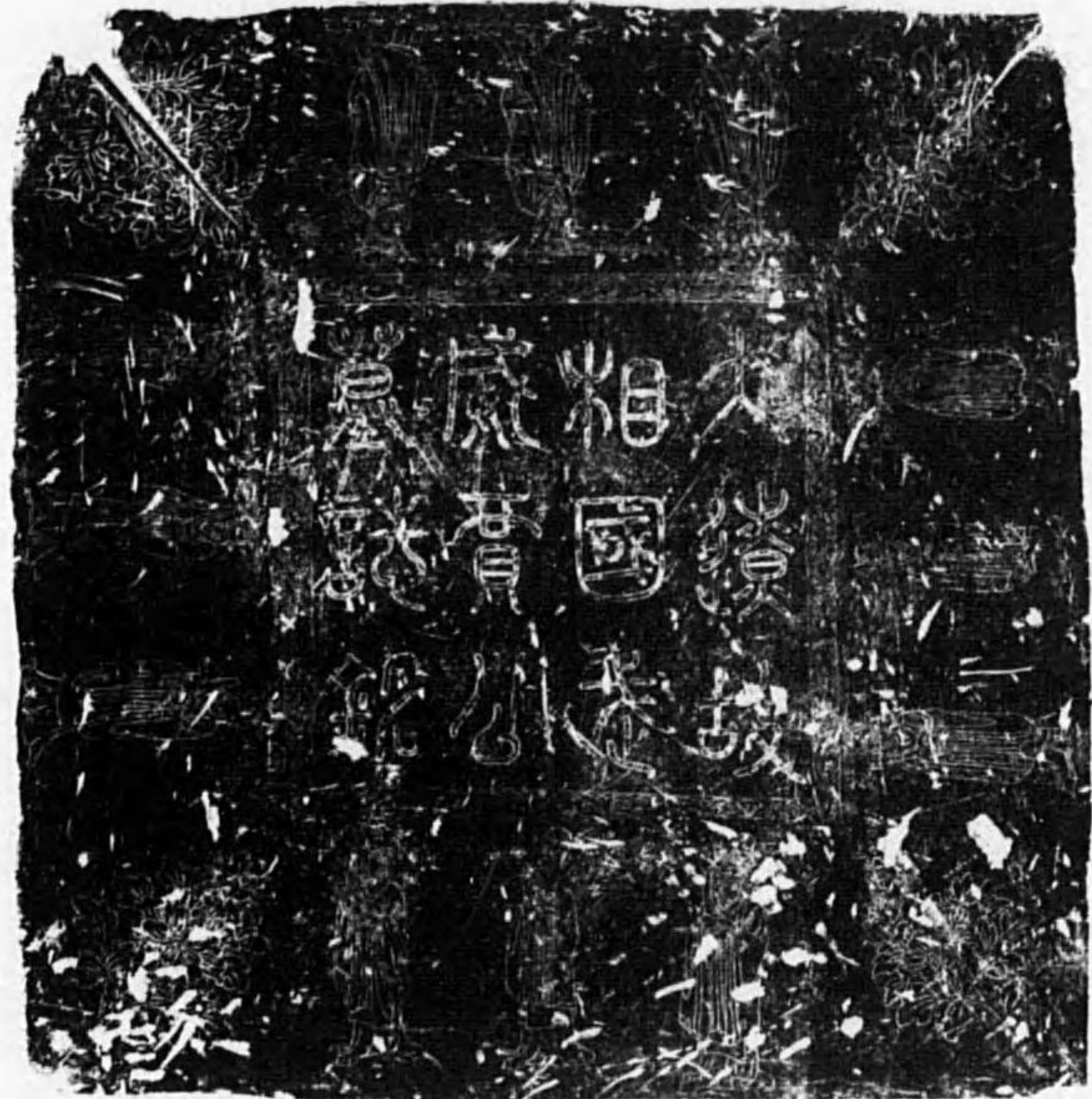
遼·宣徽南院使韓椅墓誌銘拓



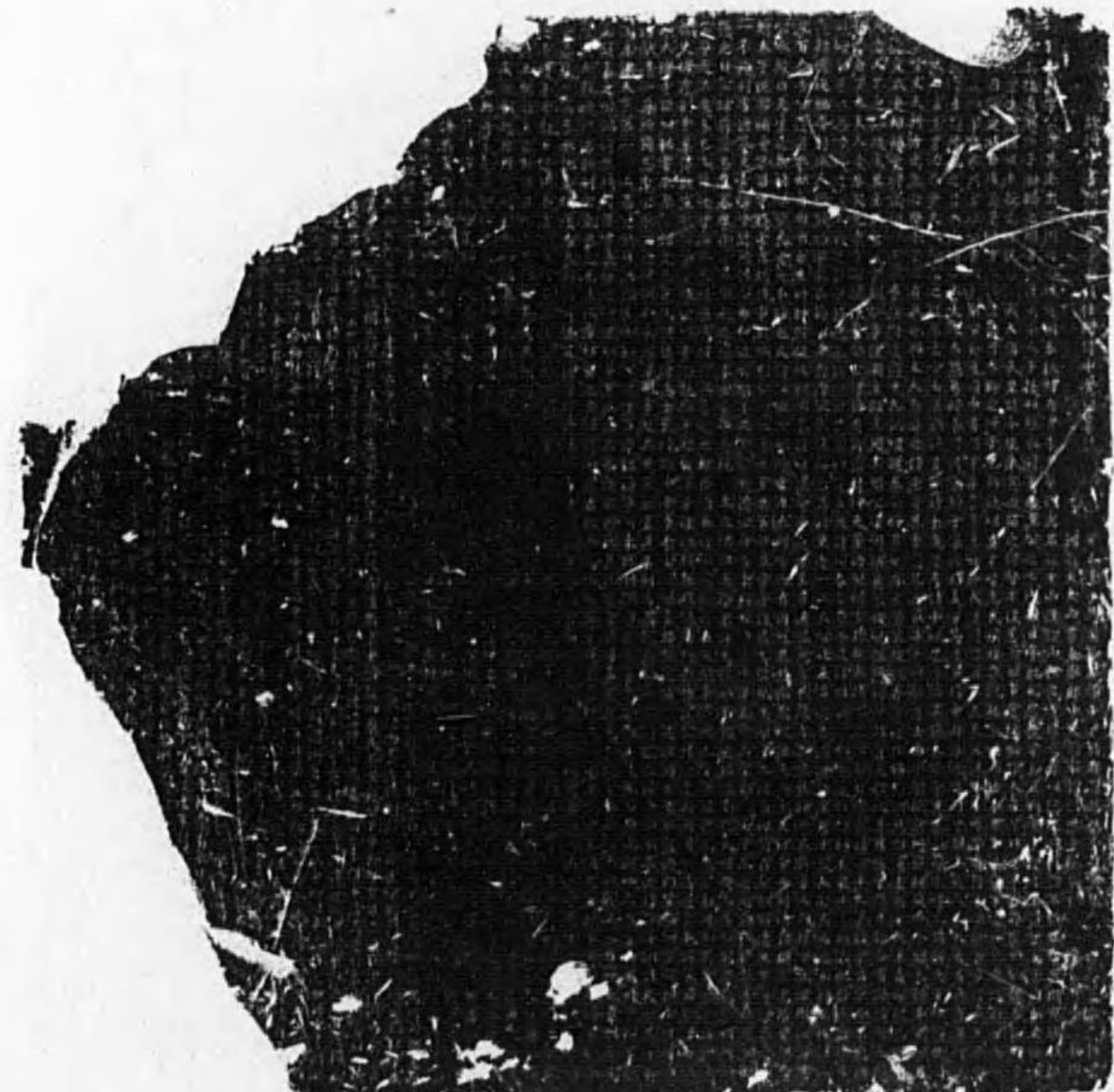
遼·聖宗皇帝哀冊篆蓋拓



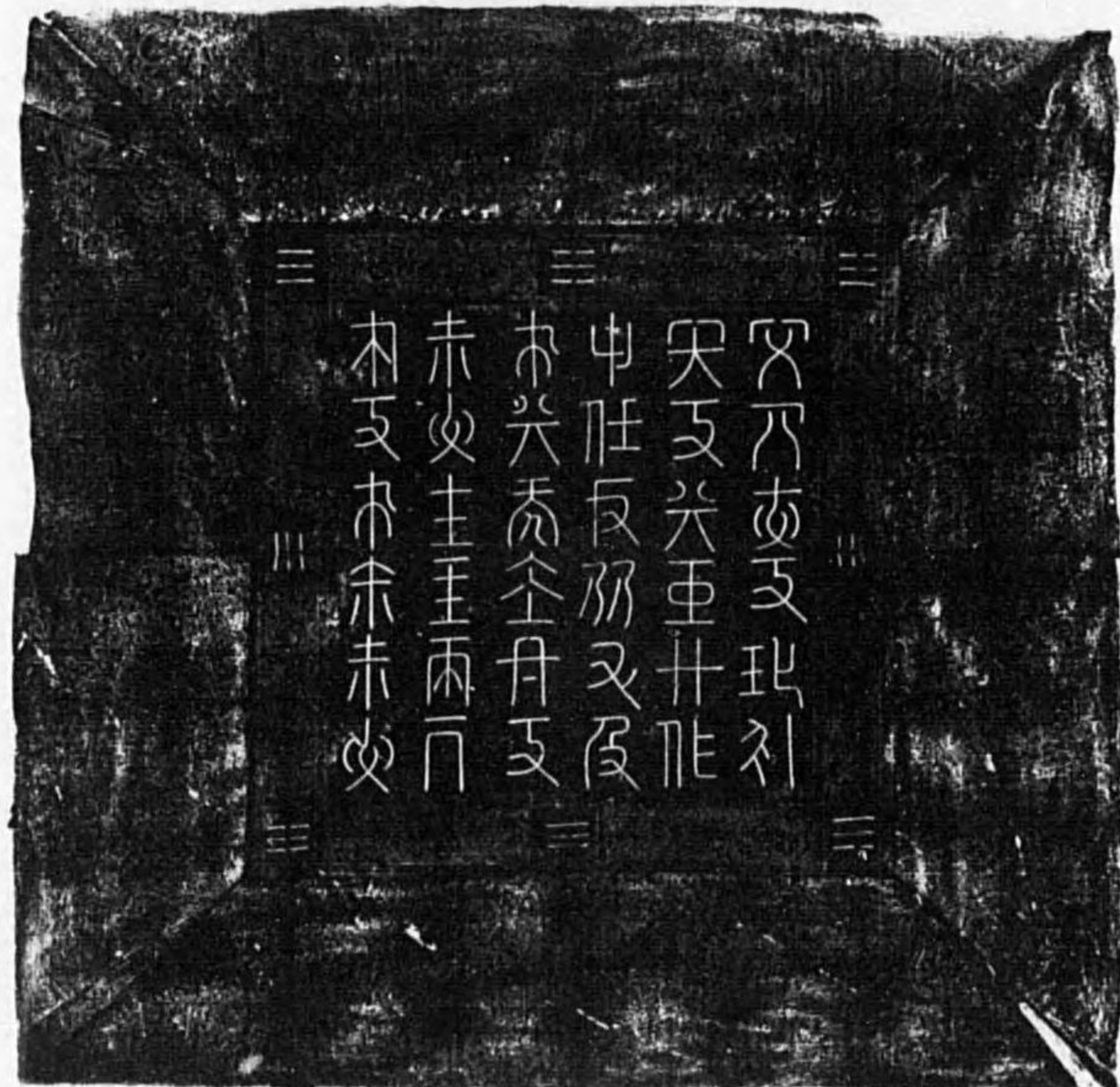
遼·聖宗皇帝哀冊拓



拓蓋篆誌墓訓師賈國相·遼



拓銘誌墓訓師賈國相·遼



拓册哀書國丹契帝皇宗道·遼



拓册哀書國丹契后皇懿宣宗道·遼

熱熱弱破... 敬功於... 敬功於... 敬功於...

雜記

又謂... 敬功於... 敬功於... 敬功於... 敬功於...

大皇... 敬功於... 敬功於... 敬功於... 敬功於...

魏晉書 卷之...

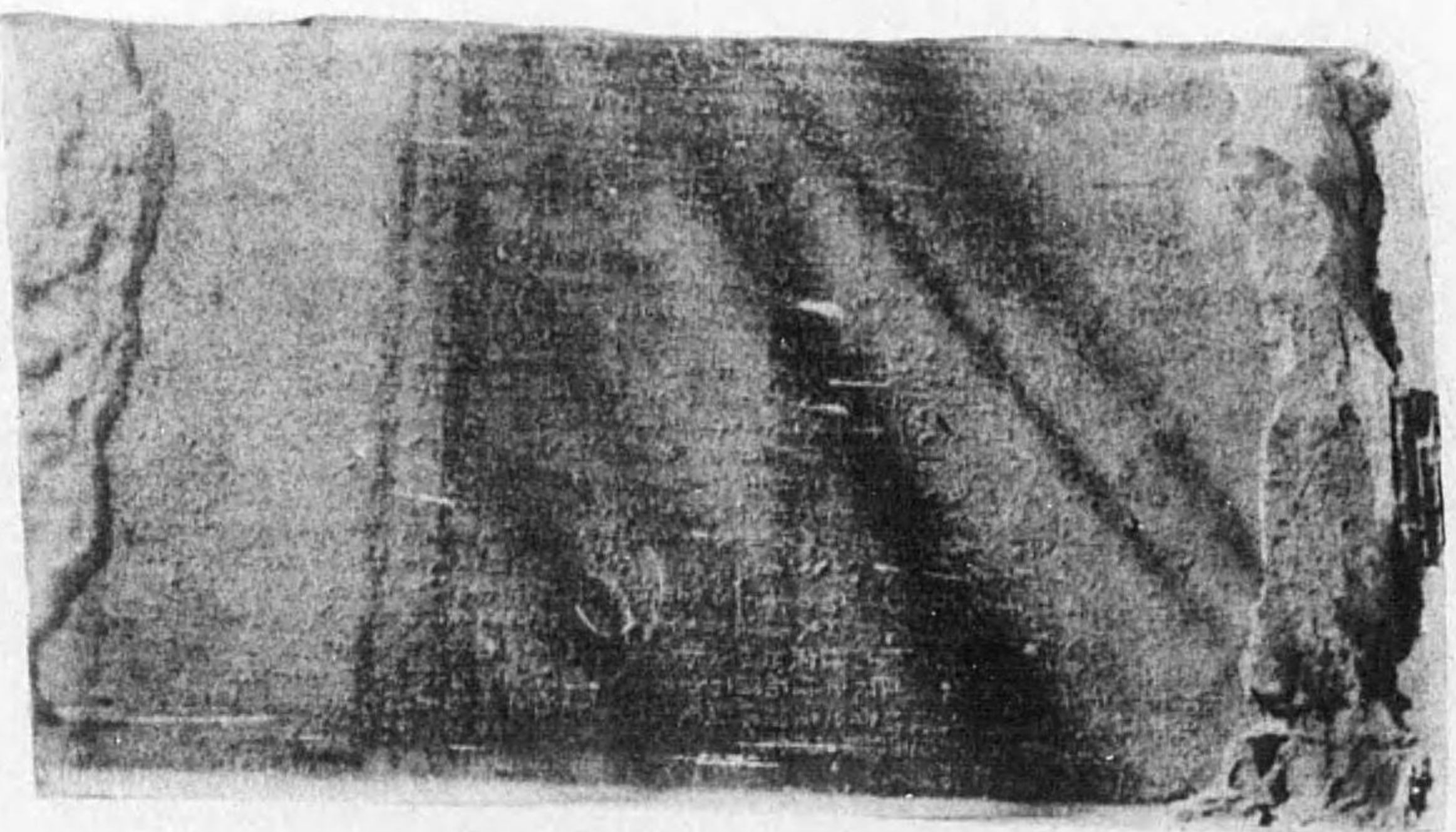
史稱其才... 魏晉書... 卷之... 史稱其才...

魏晉書 卷之...

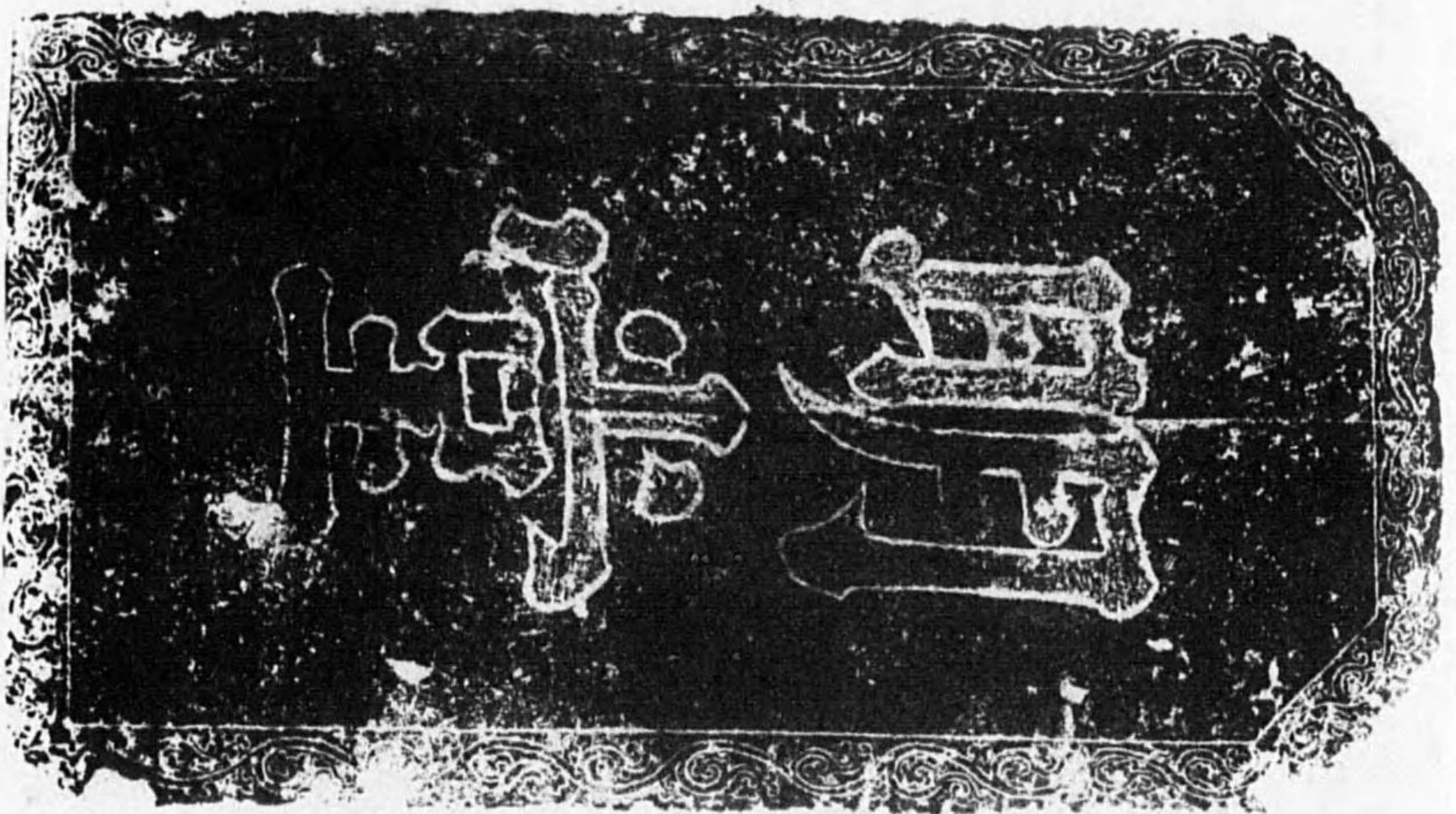
史稱其才... 魏晉書... 卷之... 史稱其才...



拓塔幢尼羅陀勝尊頂佛·送



碑塔利舍佛迦釋寺威靈·送



拓碑堂明唐劉令縣城雙州潘·金



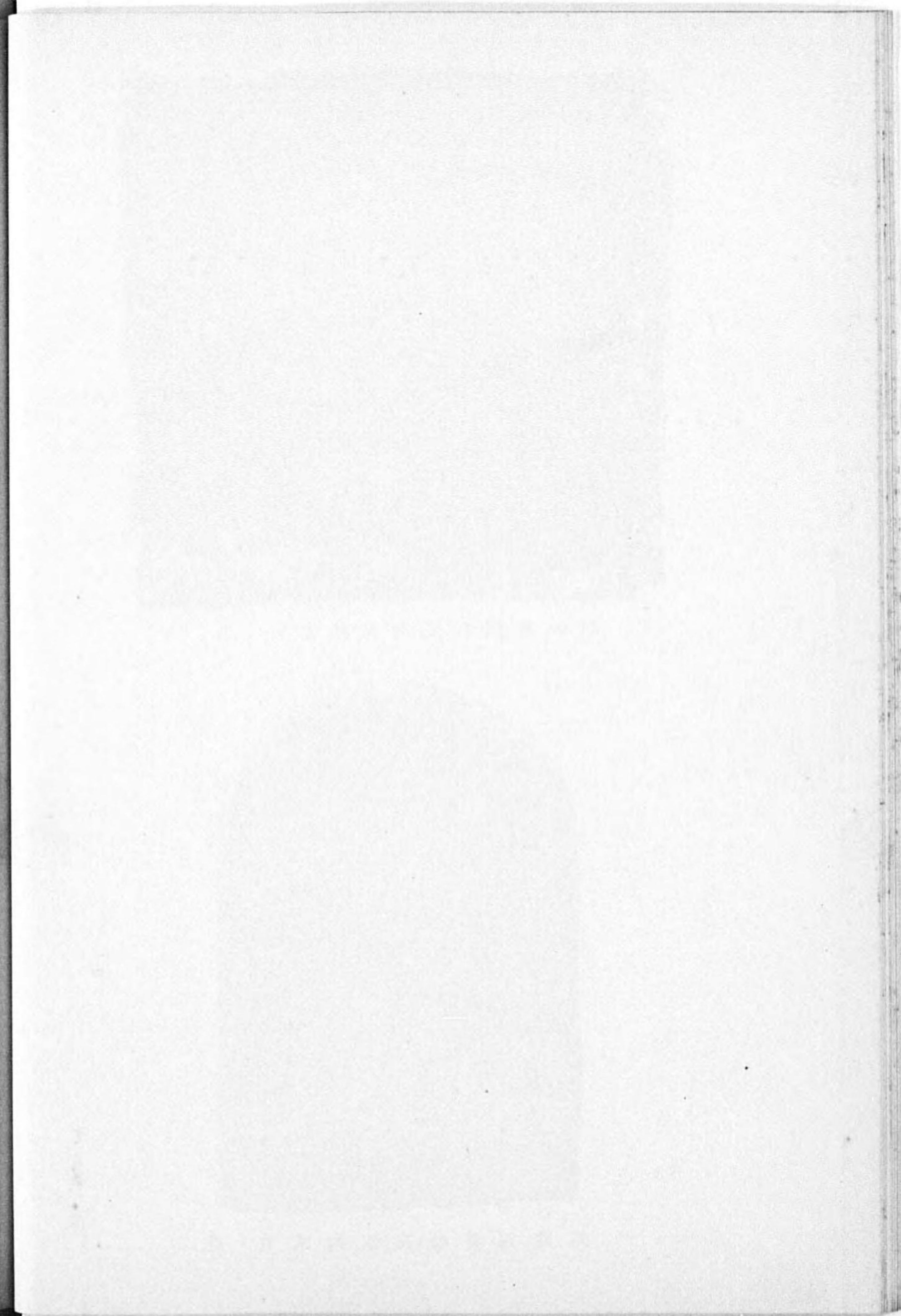
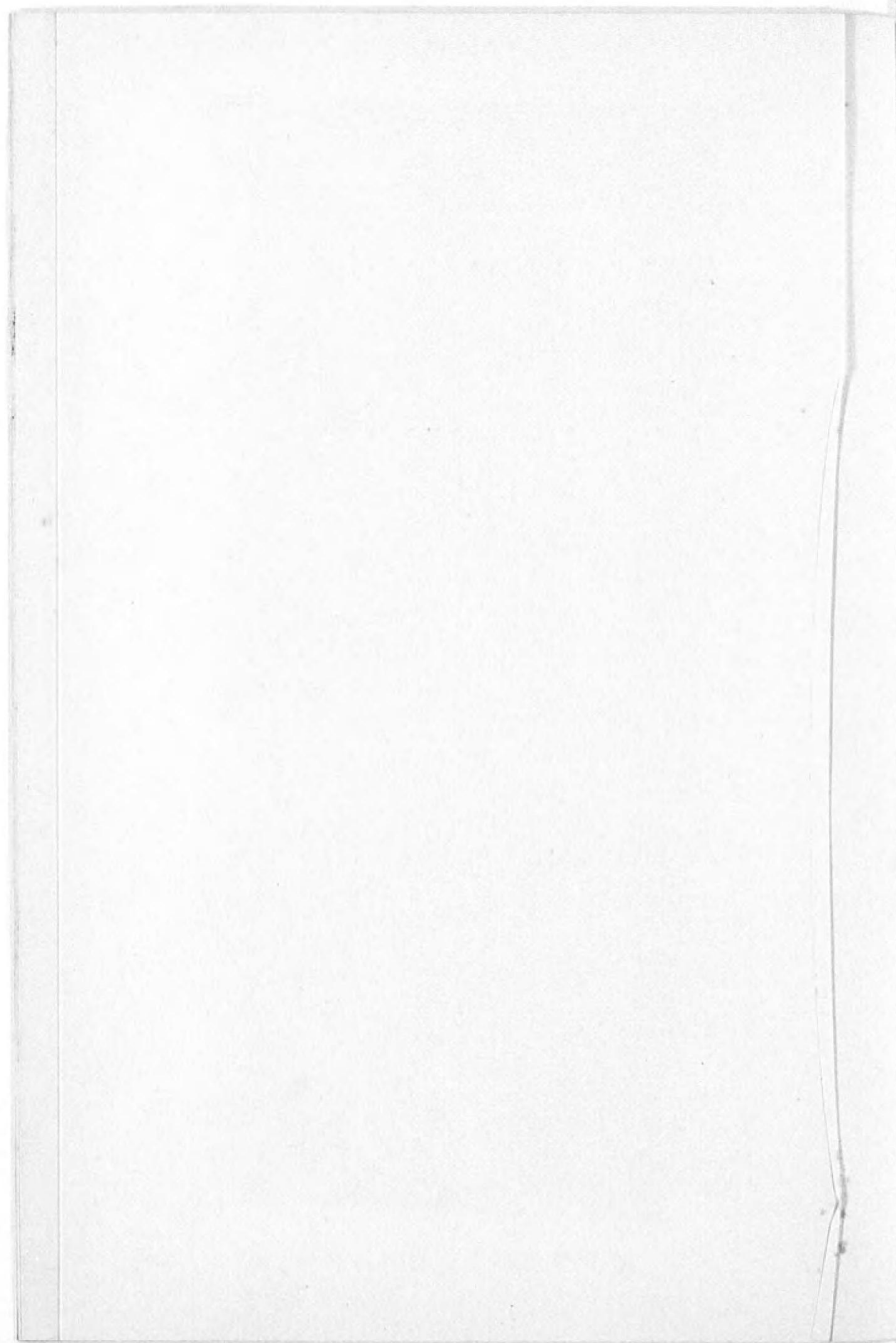
拓陰碑同

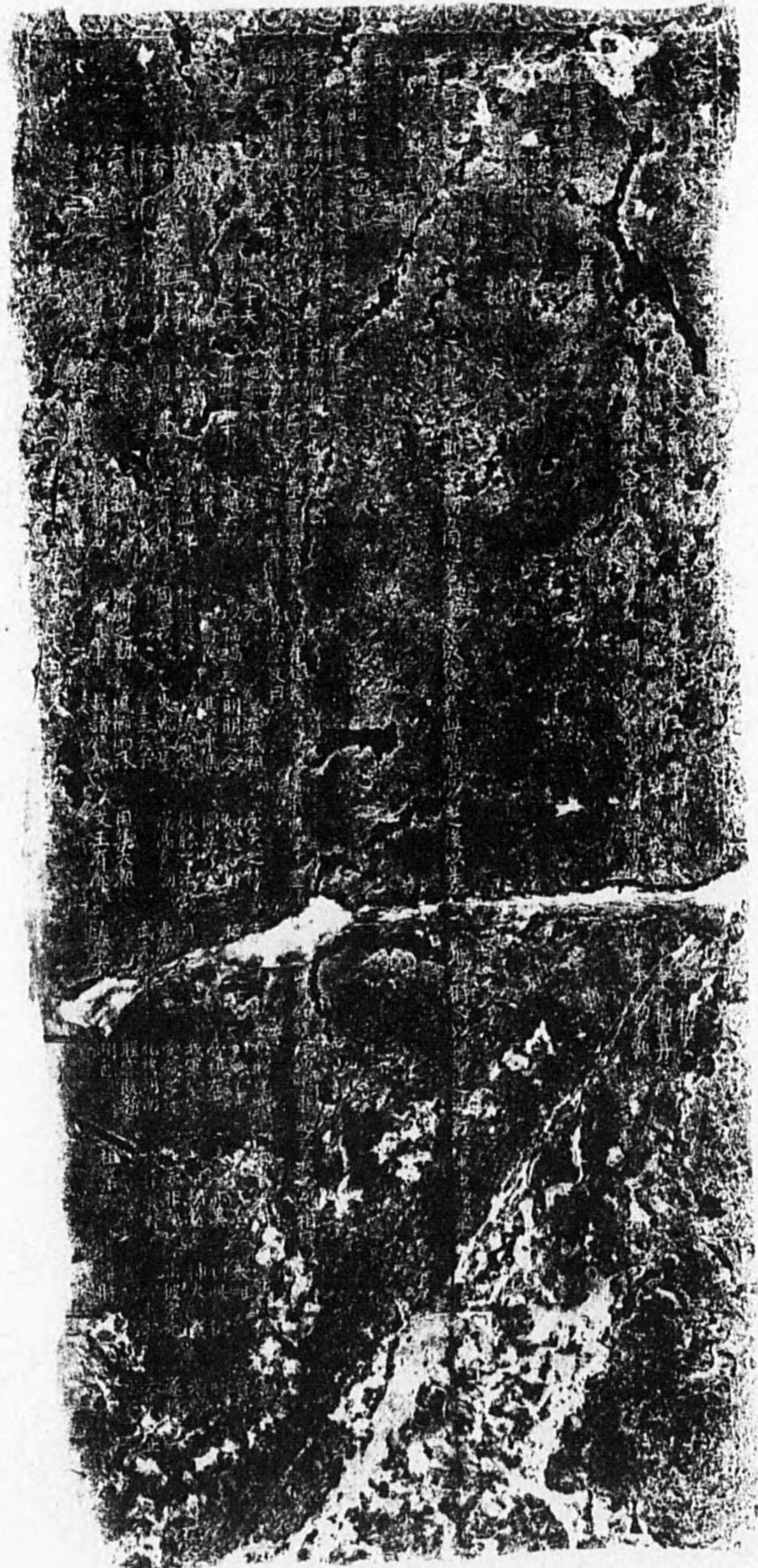


拓誌墓願行張夫大祿光贈·金

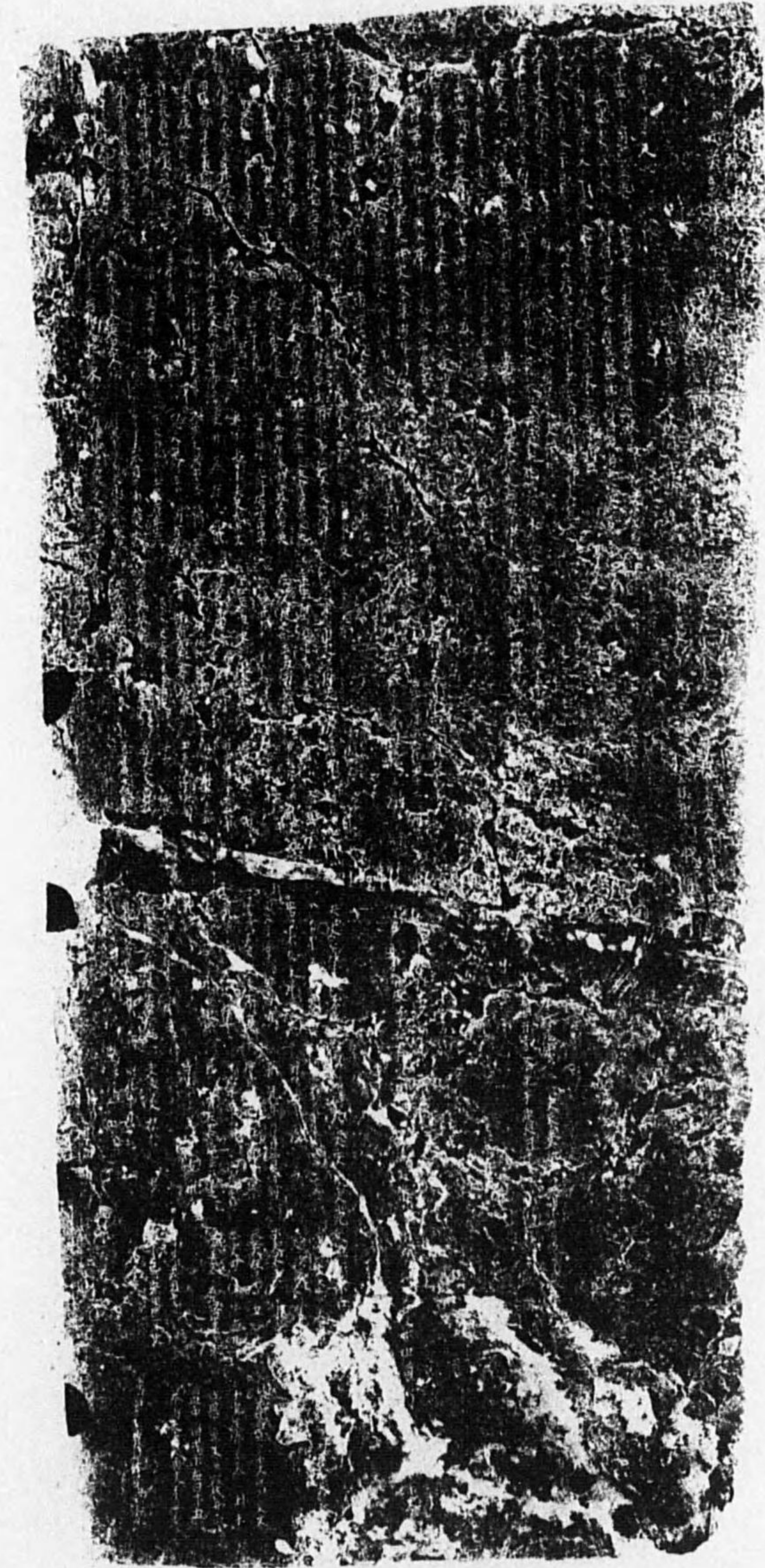


銘葬遷哥松高軍將武宜·金





拓 文 漢 同



拓 書 國 直 女 碑 頤 陀 勝 得 金 大 · 金

宜州大奉國寺
 自漢而興
 推引也
 廟於此
 聖朝天壽三年沙門義權以遷為寺
 而式之於持寺眾謀於郡人不
 計四十二尊更其塗金莊嚴之費約用錢千萬
 十餘師度使鎮州上將軍高公聞其事首以清俸助錄
 人眾自營工七役無營有存乃以棟越為名氏依施時
 長碑刻用古篆書
 聖朝天壽三年沙門義權以遷為寺
 而式之於持寺眾謀於郡人不
 計四十二尊更其塗金莊嚴之費約用錢千萬
 十餘師度使鎮州上將軍高公聞其事首以清俸助錄
 人眾自營工七役無營有存乃以棟越為名氏依施時
 長碑刻用古篆書

碑記名題聖賢洞兩裝續寺國奉·金



拓崖摩書國直女·林樹楊·龍海·金



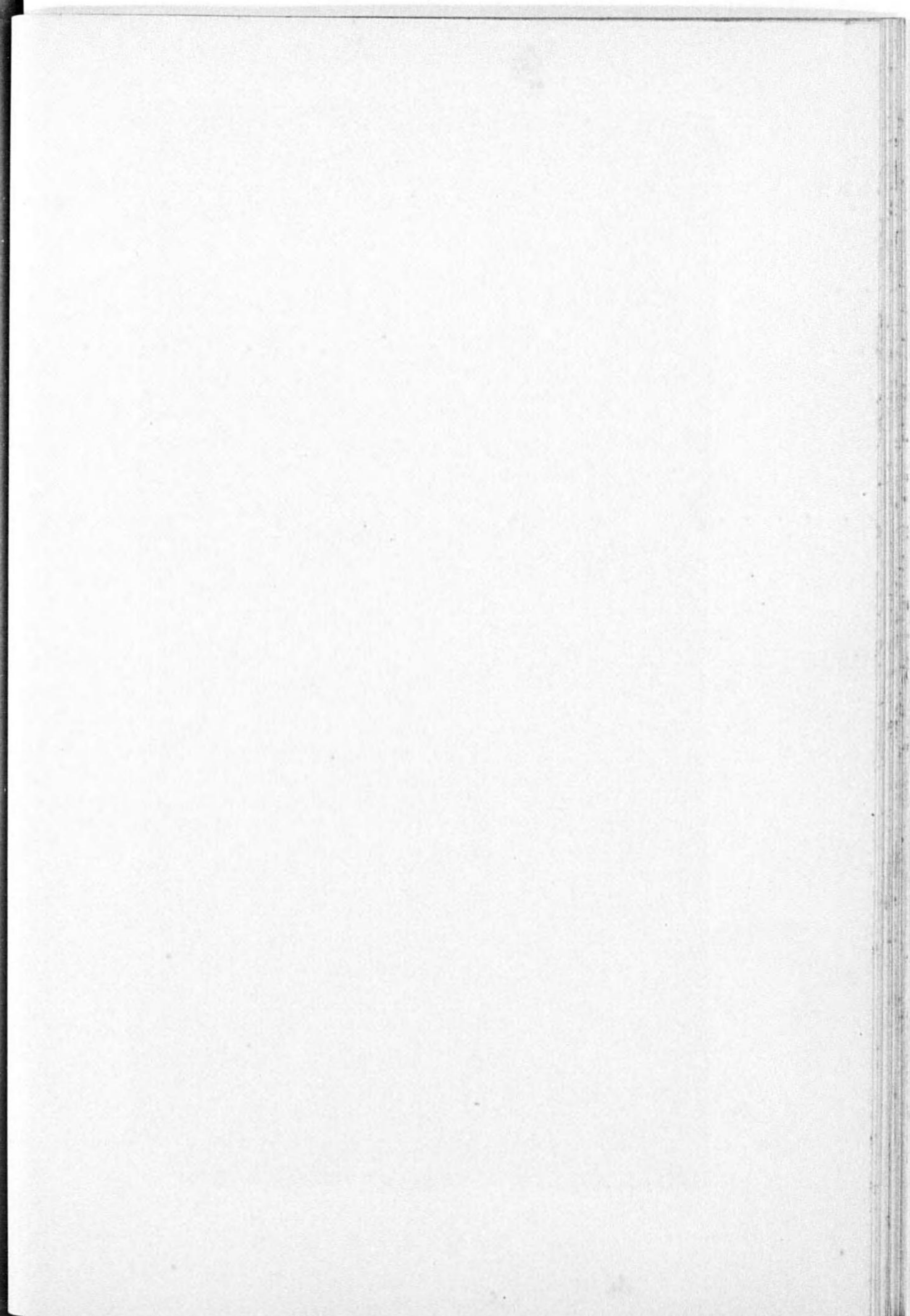
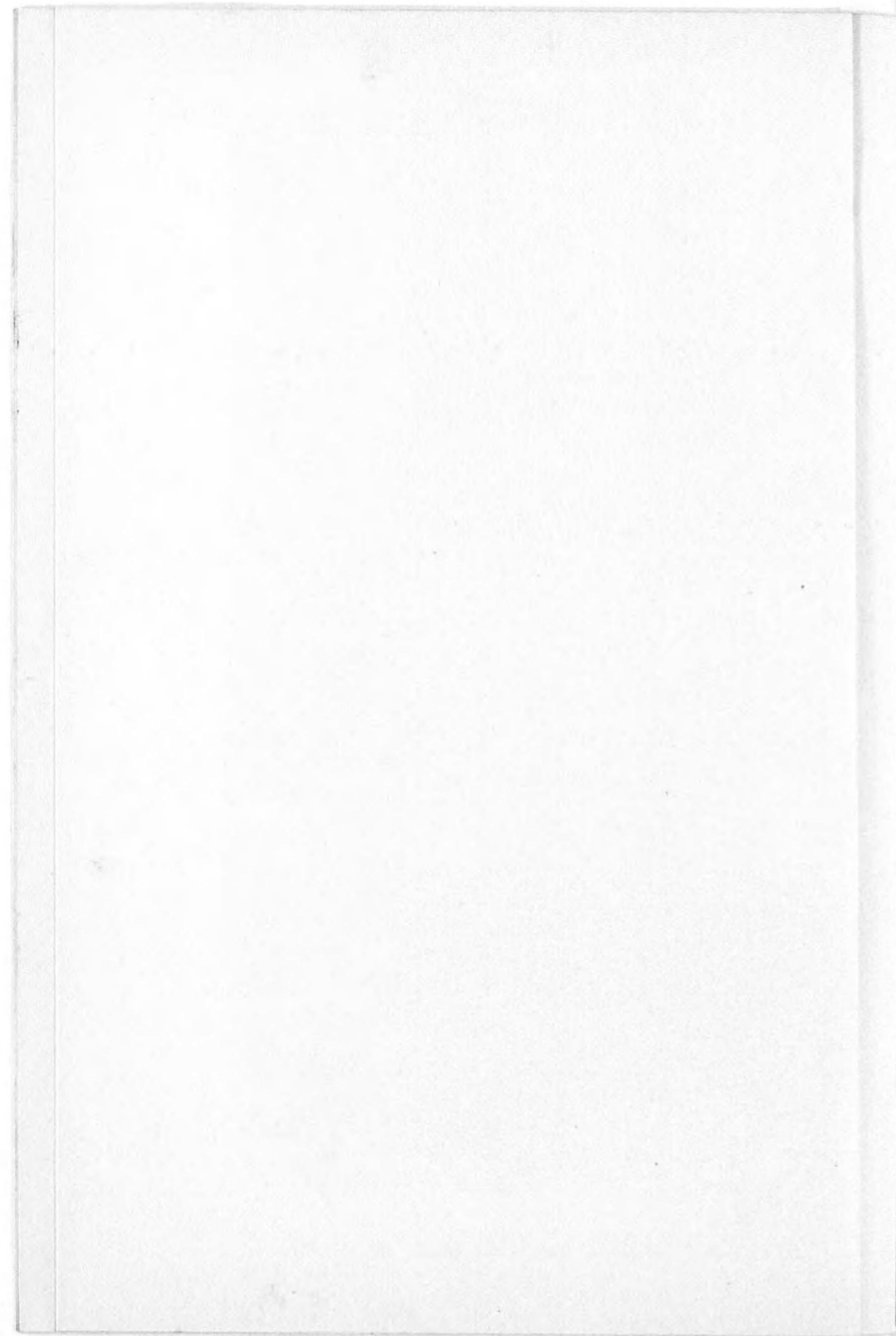
拓崖摩書國直女・山截半・龍海・金



元 · 北 鎮 廟 · 聖 詔 之 碑

元奉國寺重修碑拓
夫佛法之興衰也... 寺之興衰也... 碑之興衰也... 拓碑修重寺國奉元

拓碑修重寺國奉元



元武校尉張戶百上尉校武敦·元
 張敦武，字元武，河東人也。少有志氣，年十五，從父敦武，在東門外，與賊相持，敦武力戰而死，敦武繼之，賊遂退。敦武年二十，為州都督，賊寇頻至，敦武率眾討之，賊大敗。敦武年三十，為州刺史，賊寇復至，敦武率眾討之，賊大敗。敦武年四十，為州都督，賊寇復至，敦武率眾討之，賊大敗。敦武年五十，為州刺史，賊寇復至，敦武率眾討之，賊大敗。敦武年六十，為州都督，賊寇復至，敦武率眾討之，賊大敗。敦武年七十，為州刺史，賊寇復至，敦武率眾討之，賊大敗。敦武年八十，為州都督，賊寇復至，敦武率眾討之，賊大敗。敦武年九十，為州刺史，賊寇復至，敦武率眾討之，賊大敗。敦武年一百，為州都督，賊寇復至，敦武率眾討之，賊大敗。

拓碑墓成張戶百上尉校武敦·元

拓陰碑同
 皇元武校尉張戶百上尉校武敦·元
 張敦武，字元武，河東人也。少有志氣，年十五，從父敦武，在東門外，與賊相持，敦武力戰而死，敦武繼之，賊遂退。敦武年二十，為州都督，賊寇頻至，敦武率眾討之，賊大敗。敦武年三十，為州刺史，賊寇復至，敦武率眾討之，賊大敗。敦武年四十，為州都督，賊寇復至，敦武率眾討之，賊大敗。敦武年五十，為州刺史，賊寇復至，敦武率眾討之，賊大敗。敦武年六十，為州都督，賊寇復至，敦武率眾討之，賊大敗。敦武年七十，為州刺史，賊寇復至，敦武率眾討之，賊大敗。敦武年八十，為州都督，賊寇復至，敦武率眾討之，賊大敗。敦武年九十，為州刺史，賊寇復至，敦武率眾討之，賊大敗。敦武年一百，為州都督，賊寇復至，敦武率眾討之，賊大敗。

拓陰碑同

第一期 高句麗及渤海時代

一 輯安・母丘儉・丸都山紀功碑

魏・正始六年(皇紀九〇五
西紀二四五)

正始三年高句驪宮
督七牙門討句驪五
復遺寇六年五月旋
討寇將軍魏烏丸單于方

威寇將軍都亭侯

行裨將軍領

裨將軍



略解

明治三十七年(清光緒三十三年)

七月、今ノ安東省輯安縣小板石嶺ヨリ出土、時ノ同縣設治委員吳光國氏之

ヲ收藏セラルモ、大正八年九月ニ至リ、袁金鎧氏ノ手ヲ經テ省有ニ歸シ、爾來故張作霖氏邸ニ祕藏

セリ、滿洲事變ノ發生後奉天國立圖書館内ニ保管ス。魏ノ正始年間、幽州刺史母丘儉ノ高句

驪征討ハ三國志(卷二十四)魏志本紀及ヒ同書母丘儉傳(卷二十三)竝ニ三國史記(卷第十七高句驪本紀第五)東川王二

十年ノ條ニ詳カナリ。殘石高一尺一寸、幅九寸。

文献

輯安縣志(卷一古蹟四七)史學雜誌(第二十六期第十一號)金毓黻著遼東文獻徵略(卷三)東三省古蹟遺聞續編(八七)

池内宏博士著曹魏の東方經略(滿鮮歷史地理研究報告第十二ノ八)朝鮮金石總覽(上ノ二)朝鮮古蹟圖譜(二)

王國維氏魏母邱儉丸都紀功石刻跋(觀堂集林卷十六)

二 輯安廣開土境平安好太王陵碑

高句麗長壽王二年(皇紀一〇七四)

惟昔始祖鄒牟王之創基也出自北夫餘天帝之子母河伯女郎剖卵降出生子有聖□□□□
□命駕巡車南下路由夫餘奄利大水王臨津言曰我是皇天之子母河伯女郎鄒牟王爲我連葦
浮龜應聲卽爲連葦浮龜然後造渡於沸流谷忽本西城山上而建都焉不樂□位因遣黃龍來下
迎王王於忽本東置黃龍負昇天願命世子儒留王以道興治大朱留王紹承基業□至十七世孫
國置上廣開土境平安好太王二九登祚爲永樂太王恩澤□亏皇天威武扼被四海掃除□
庶寧其業國富民殷五穀豐熟昊天不弔卅有九晏駕棄國以甲寅年九月廿九日乙酉遷就山陵
於是立碑銘記勳績以示後世焉其詞曰 永樂五年歲在乙未王以碑麗□□□躬率住討
叵富山負山至鹽水上破其三部落六七百當牛馬羣羊不可稱數於是旋駕因過芻平道東來□
□力城北豐五脩猶遊觀土境田獵而還百殘新羅舊是屬民由來朝貢而倭以辛卯年來渡海破
百殘□□羅以爲臣民以六年丙申王躬率水軍討科殘國軍□首攻取壹八城白模盧城岩
模盧城幹弓利□□城閣彌城牟盧城彌沙城□舍蔦城阿且城古利□利城藥彌城奧利城
勾牟城古模耶羅城頁□□而耶羅□城□□雙城沸□利城彌鄒城
也利城大山韓城掃加城敦拔□□婁賣城散□城□婁城細城牟婁城丐婁城蘇灰城燕
婁城折支利城巖門□城林城□□拔城古牟婁城閭奴城貫奴城三
穰城□□羅城仇天城□□其國城賊不□氣敢出百戰王威赫怒渡阿利水遣刺

追城橫□□便國城百殘王困逼獻出男女生口一千人細布千匹歸王自誓從今以後永爲
奴客太王恩赦□迷之銜錄其後順之誠於是□五十八城村七百將殘王弟并大臣十人旋師還
都八年戊戌教遣偏師觀高慎土谷因便抄得莫新羅城加太羅谷男女三百餘人自此以來朝貢
論事九年己亥百殘違誓與倭和通王巡下平穰而新羅遣使白王云倭人滿其國境潰破城池以
奴客爲民歸王請命太王恩後稱其忠□遣使還告以□十年庚子教遣步騎五萬往救新羅
從男居城至新羅城倭滿其中官兵方至倭賊退□□來背急追至任那加羅從拔
城卽歸服安羅人戍兵拔新羅城□城倭潰城六□□九盡
臣□來安羅人戍兵滿□□羅人戍兵昔新羅
□□錦未有身來朝□□土境好太□□潰□
辰□倭不軌侵入帶方界□□石城□連船□□平穰□□相遇王
幢要截盡刺倭寇潰敗斬煞無數十七年丁未教遣步騎五萬□□師□合戰
斬煞蕩盡所獲鎧鉀一萬餘領軍資器械不可稱數還破沙溝城婁城□□
城廿年庚戌東夫餘舊是鄒牟王屬民中叛不貢王躬率住討軍到餘城而餘城國驕□□
□□王恩普處於是旋還又其慕化隨官來者味仇婁鴨盧卑斯麻鴨盧□立婁鴨盧肅斯舍
□□盧凡所攻破城六十四村一千四百守墓人烟戶賣勾余民國烟二看烟三東海買
國烟三看烟五敦城□四家盡爲看烟丐城一家爲看烟碑利城二家爲國烟平穰城民國烟一看

烟十□連二家爲看烟住婁人國烟一看烟卅二梁谷二家爲看烟梁城二家爲看烟安夫連廿二家爲看烟□谷三家爲看烟新城三家爲看烟南蘇城一家爲國烟新來韓穢沙水城國烟一看烟一牟婁城二家爲看烟豆比鴨峯韓五家爲看烟勾牟客頭二家爲看烟求底韓一家爲看烟舍蔦城韓穢國烟三看烟廿一古烟耶羅城一家爲看烟□古城國烟一看烟三客賢韓一家爲看烟阿且城雜珍城合十家爲看烟巴奴城韓九家爲看烟□模盧城四家爲看烟岩模盧城二家爲看烟牟水城三家爲看烟幹弓利城國烟二看烟三彌舊城國烟一看烟□□□□□□□□三家爲看烟烟豆奴城國烟一看烟二奧利城國烟二看烟八須鄒城國烟二看烟五百殘南居韓國烟一看烟五大山韓城六家爲看烟農賣城國烟一看烟一閩奴城國烟二都烟廿二古牟婁城國烟二看烟八瑤城國烟一看烟八味城六家爲看烟就咨城五家爲看烟三穢城廿四家爲看烟散那城一家爲國烟那且城一家爲看烟勾牟城一家爲看烟於利城八家爲看烟比利城三家爲看烟細城三家爲看烟國罍上廣開土境好太王存時教言祖王先王但教取遠近舊民守墓洒掃吾慮舊民轉當羸劣若吾萬年之後安守墓者但取吾躬率所略來韓穢令俗洒掃言教如此是以如教令取韓穢二百廿家慮其不知法則復取舊民一百十家合新舊守墓戶國烟卅看烟三百都合三百卅家自上祖先王以來墓上不安石碑致使守墓人烟戶差錯惟國罍上廣開土境好太王盡爲祖先王墓上立碑銘其烟戶不令差錯又制守墓人自今以後不得更相轉賣雖有富足之者亦不得擅買其有違令賣者刑之買人制令守墓之

略解 滿洲ニ於ケル最大ノ古碑トシテ有名ナリ。現ニ安東省輯安縣城東方十里ノ地點ニ在リ光緒

八年(明治十)ニ發見セラレ爾來本碑ハ幾多學者ノ研究考證スル所トナル。碑ハ高句驪國第十九世好太王談德ノ出自功業守墓ノ事ヲ刻シタル陵碑ナリ。碑ノ高約二丈二尺幅ハ四尺五寸乃至六尺七寸第一面五尺一寸第二面四尺五寸第三面六尺七寸第四面四尺六寸アリ碑文ハ總行數四十四行一行四十一字第一面十一行第二面十行第三面十四行第四面九行總字數約一千八百字我ガ上古史ノ參考史料トシテ實ニ貴重ナル古碑ナリ。本文ハ朝鮮史ノ所載ニ據ル。

文獻

- 菅政友氏 高麗好太王碑考(史學雜誌第二編)
- 三宅米吉博士 高麗古碑考(三宅米吉著述)
- 羅振玉氏 高麗好太王碑釋(國粹學報第四卷第十號)
- 今西龍博士 廣開土境好太王(日本時代史第二卷四七七)
- 劉節氏 好太王碑考釋(國學論叢第一號)
- 張拱垣編 高句麗好太王碑(輯安縣志卷一ノ二八)
- 楊守敬氏 好太王碑(本單行)
- 權藤成卿校訂 好太王碑文(南溟書卷中ノ八)
- 朝鮮修史會編 高句麗好太王碑(朝鮮史第一編第一卷三三)
- 葉昌熾氏 好太王碑(語石卷二ノ三四)
- 太田亮氏 高麗好太王碑(日韓古代史資料一五五)
- 盛京時報社編 好大王碑(遼東三省古蹟遺聞二〇五蹟)
- 橫井忠直氏 高句麗古碑(會餘錄第五集)
- 那珂通世博士 高句麗古碑考(那珂通世遺書四七九)
- 鄭文焯氏 高麗國永樂好太王碑釋文纂攷
- 張鳳臺氏 釋高句麗碑文(長白叢書卷八ノ一)
- 金毓黻氏 高句麗好太王碑(遼東文獻叢考)
- 島田好氏 高句麗好太王碑(滿蒙第十一號)
- 楊伯馨氏 高麗墓碑(滿故海遼叢書本卷一ノ四)
- 朝鮮總督府編 高句麗廣開土王(朝鮮金石總覽上冊ノ二)
- 劉承幹校錄 好太王碑(遼東金石苑植)
- 朝鮮總督府編 高句麗好太王碑(朝鮮古蹟圖譜第一冊)
- 關口隆正氏 好太王碑(滿洲產物事彙)
- 八木裝三郎氏 鴨綠江畔好太王碑(遼東第六卷第十一號)
- 盛京時報社編 好大王碑文(附續編一七四)

三 義縣·萬佛堂·元景造像記

北魏太和廿三年(皇紀一四九九)

維大魏太和廿三年歲次己卯四月□午朔八日□□

諸軍事平東將軍營州刺史元景上爲

皇帝陛下敬造石窟一區

夫靈覺沖虛非像無以答其形妙門潛寂非唱

生滅昧識於慧且將以輪迴塵網纏服素弊

釋加如來契慈心於回初達妙致於遐劫□

捐慧舟以憐溺夷□濟難人天仰德功蓋□

我皇代受命光□□日新景福增禦聖

皇帝陛下誕奠□□高振古遊神虛宗□

興援及州鎮靡□□況景籍蔭洪基根

土雖麗直同巖石之固於州城東北一百□

暨浩滄右帶龍川臨清流以蔘穢背循巒

明可以軌矚東民信之威訓祖然存道久

皇帝陛下資化無爲一同率土享祚齊

明元皇帝栖神帝住降及一切普沾□

是詣速證大果又願已身并諸眷□□

文靡述國之然如可無稱子故於□

玄覺體空眞□□公誰究竟悟□

空有同照垂□□調風灑澤懷□

詳陟大合想作□□彫巖鏤館□

建茲□窟投心請慶仰願聖

上願明元神栖妙宮受道□

略解 萬佛堂ノ石窟ハ今ノ錦州省義縣ノ西北十五里大凌河ノ左岸河ニ臨メル丘陵ノ南面ニアリ、無

數ノ佛像ヲ刻ス。東西二洞ニ分レ西洞最モ古ク、北魏孝文帝ノ太和廿三年、營州刺史元景ノ造

ル所ナリ。碑ハ河岸ノ斷崖上ニアリ當時洞窟ノ内壁ニ刻シタル摩崖ナルモ何時ノ時代ニカ

洞窟ノ天井ガ落下シ、現在ノ形狀ヲ呈セルモノナリ。萬佛堂ノ事ハ遼東志(卷之一)及ビ欽定盛

京通志(卷之四十五)ニ載スルモ、明治四十二年滿鐵會社派遣史蹟探査團一行此地ニ至リ、其ノ狀

態及ビ碑文等ヲ調査シ始メテ學界ニ發表シ多大ノ注目ヲ牽ク。碑高三尺一寸、幅三尺。

文献

史學雜誌(第二十卷) 遼東文獻徵略(卷四) 八木棗三郎氏著續滿洲舊蹟志(四、六) 東三省古蹟
遺聞(一七) 義縣志(卷十六册中)

四 義縣・萬佛堂・韓貞造像記

北魏・景明三年(皇紀一五六二
西紀一五〇二)

員外散騎常侍昌黎韓貞

前達億郡承派連式軍主呂安辰

夫至道無名故顯名以內真玄家

難辯假文像以明德是以如來□□

以濟萬顏大推遣石骨敬群溺□□

更陶冥造品物以享者也斯是□□

之與□大聖之師元貞致刊石荆山

真容將來曦蠢至聖嗜恒於是上

沃□式軍主呂安辰隊主劉都□□

□丹張惠楊凱胡堤等七十四人邀□

□府□□之二途覬一豪之善有正回感

於夷方之若□□之西連□私□

之□聖寶是以暉束微塵

來因果上鍾景明下及□□□

無二聊記年月也

玄樞至妙太虛□文□□□

悟泉淪滅空□□□敷眞

密□三生集扁珎

大魏景明三年五月九日造

尉喻奚丹使員外散騎常侍昌黎韓貞敬□

前達億郡承派連式軍主呂安辰

尉喻使□□國淳□敬手恭□

隊主劉都

隊主張惠□

隊主劉福書丹

賢者劉護堤

略解

萬佛堂西洞ノ東方河ニ突出セル巖角ハ東洞ナリ。此文ハ河ニ臨メル洞窟南側ノ内壁上部ニ刻セル摩崖ナリ。近年此ノ洞窟内ニ胡仙大爺ノ像ヲ安置シ窓ヲ鑿チ硝子ヲ嵌入セルタメ碑

文ノ下數字ヲ削リ去レルハ最モ遺憾事トナス。刻字高約一尺二寸幅三尺三寸。

文献

遼東文献徵略(卷四) 義縣志(卷十六册中
卷藝文中四)

五 旅順・鴻臚卿崔忻鑿井記

唐・開元二年(皇紀一三七四西紀一七一四)

勅持節宣勞靺鞨使

鴻臚卿崔忻井兩口永爲

記驗開元二年五月十八日□

略解

原石ハ素旅順黄金山下ニアリ、遼東志(卷之一四十八)山川ノ條ニ鴻臚井二在金州旅順口黄山之麓。井上石刻。有勅持節宣勞靺鞨使鴻臚卿崔忻。鑿井兩口。永爲記驗。開元二年五月十八日造凡三十一字「トアリ、古ク其ノ存在ヲ知ラル。但シ原石ニ鑿ノ字ナク、造ノ字、又漫漶シテ讀シ難シ。原石ハ日露戰役後東京宮城ニ遷サレ、現地ニソノ記念碑ヲ建ツ。崔忻ノ鑿井ハ渤海國王冊封使トシテ渤海ニ使セル歸途ノ事ニ係リ、舊唐書(卷一百九十下列傳)渤海ノ條ニ「睿宗先天二年遣郎將崔訴往冊拜祚榮爲左驍衛員外大將軍渤海郡王仍以其所統爲忽汗州加授忽汗州都督」トアルニ當ル。唐書ノ崔訴ハ崔忻ノ誤リナルコトヲ知ル。刻字高一尺一寸、幅四寸五分。

文献

遼東志(卷之一四十六)稻葉岩吉博士著滿洲發達史(卷之六五)滿洲歷史地理(第一卷四一七)楊伯馨著瀋故(卷之三)

第二期 遼 時 代

六 凌南彭城郡王劉繼文墓誌銘

遼·乾亨三年(皇紀一六四一西紀九八二)

彭城郡王劉公墓誌銘并序

文章大德賜紫沙門文秀撰并書

詳夫聖凡異矣生滅同焉丘懷逝水之悲聃起患身之嘆高低貴賤孰免斯歟察至□於羣言□興亡於常道者也公諱繼文字敏素本太原人也出自彭城河南等二十五望並自陶唐之後相次分派帝代絕多降至伯翁高祖皇帝諱知遠詔晉高祖爲侍衛親軍英才卓秀器度恢弘忠貞而玉石比堅謹節而松筠讓操親承五賊妙善六韜內心腹而外爪牙上匡扶而下邕穆晉主以忠孝推功除授河東節度使兼政事令有弟彥崇爲內外馬步軍都指揮使檢校太保洎嗣晉失位倏變天機乍展雄威俄昇大器改號爲乾祐元年自是家易爲國魚變成龍玉葉遐敷金枝迥秀三光朗耀四海宴清舜日高懸堯風遠佈崇有數子承贊承鈞承錡承鎬贊卽公之父也元日詔命令坐徐州至乾祐三年高祖崩逝少帝承翰才立禍發蕭牆逆臣郭威僭行篡奪徐州太子册而又誅可謂日月無光乾坤失色崇坐河東爲北平王一聞之而大怒攘臂恨以發盟切齒爲讎誓當剪滅乃集魏狄万隊士卒千羣振雷霆之威吐風雲之氣直欲生擒逆黨活捉奸訛其奈天數未時攻討莫下將謀大事須向天朝遣使結歡願爲子父時天授皇帝感其義焉遣使宣恩册爲大漢神武皇帝至乾祐九年武帝崩逝次子承鈞旣立改號天會元年威摺三邊恩覃萬姓修德是務去佞爲懷陳大業於將來流廣澤於當代此卽公之叔

也至天會六年遣 公入國淹留七載質而未還後十二年秋 帝染疾而逝爰有府主繼恩則鈞之長子也 大帝臨終之日謂大丞相郭無爲等曰 朕之崩後位付繼恩 社稷紀綱勿令交紊爲等奉 勅如日在懷 帝乃昇霞臣扶長子卽 公之堂兄也嗣位九五才滿三旬爲候霸榮陰謀所滅次子大內都檢點繼元亦 公之堂兄也運機謀策剪孽除妖荐位登朝重理綱政册爲 大漢英武皇帝 公前右金吾衛將軍金紫光祿大夫檢校司空上柱國 我皇開睿澤令衣錦還鄉 勅授竭忠匡運功臣保義軍節度陝虢等州觀察處置等使大漢國侍衛親軍馬步軍都指揮使特進檢校太尉同政事門下平章事陝州大都督府長史上柱國彭城郡開國公食邑三千戶食實封三百戶適至本國未久之間又加推功保祚功臣開府儀同三司檢校太師兼中書令權代州防禦使食邑五千戶食實封五百戶旣蒙 聖澤統緒雄藩百姓楊五袴之歌三軍感單醪之惠洎乎趙氏犯闕力乏計窮 帝念生靈甘當授首 公乃見機而變 守節而 駭聲振纓來歸 上國郭氏夫人并二子並皆阻隔 吾皇一見撫念非常愍其順國之忠加以眞王之澤 勅授佐命功臣北京留守河東節度管內觀察處置等使兼政事令太原尹上柱國彭城郡王知昭德軍節度事食邑八千戶食實封七百戶兼以昭義軍節度使檢校太傅耿紹紀長女以妻之卽 尙父秦王韓氏之甥也方雪太原之耻將興廣 之基重整戈鋌芟夷奸孽奈何曦霜難保石火易銷倏染膏盲俄歸逝水壽齡卅有二帝罷朝而起嘆 以興悲百姓聞之如喪考妣 勅下宜弼二州共營葬禮其 耿氏夫人念以同牢義重合昏情深絲羅 絕 琴瑟停歡於翳帳兩兒阻隔一女才生金枝冀續於前朝玉葉期芳於後代恐以時遷歲遠骨腐名銷 旌不朽文秀才非

夢筆學愧面牆奉 命授毫乃爲銘曰

天地大兮有成壞 □□□□□□ 人至靈兮無定常 石至堅兮無恒在
 既有身兮既有患 不無傷兮不無 路樹□□□□ 宿鳥暫聚而終散
 武皇孫兮少皇子 朝北闕兮到於此 受國恩兮位至王 功未成兮身先死
 國之隸兮未雪殃 魂之逝兮在他鄉 七帝相承何所問 三詭孤瘞塔山陽
 公長子醜哥 次子善哥
 匠人攝彰武軍長史趙□□

〔乾〕三年歲次辛巳十一月乙未朔十五日巳酉記

略解

大正十五年五月熱河省凌南縣喀喇沁左翼旗圖薩喀喇山ヨリ出土原石ノ所在不明且ツ未ダ之ガ拓本ヲ見ズ劉氏ハ五代ノ末太原ニ據リテ帝ヲ稱セル劉崇ノ後裔ナリ。遼ノ乾亨元年(宋太平興國四)漢兵ハ宋兵ト河東ニ戦ヒ敗レ劉繼元宋ニ降リテ漢滅ビ劉繼文ハ遁レ遼ニ奔ル。遼史(卷九)本紀)乾亨元年六月ノ條ニ劉繼元降宋漢亡甲子封劉繼文爲彭城郡王トアリ北漢劉氏ノ興廢ハ宋史(卷四百八十二)列世家(五)ノ條ニ詳カナリ。

文献

國立歷史博物館叢刊(第三期) 燕京學報(第七) 東北叢刊(第十)

七 義縣·朔州順義軍節院使張正嵩墓誌銘

遼·乾亨三年(皇紀一六四二)
西紀一九八二

朔州順義軍節院使張府君墓誌并序

將仕郎檢校尚書虞部員外郎守寧王府記室參軍處緋魚袋 趙 衡撰

伏以文碑深水記陵遷谷變之期字石幽泉紀地久天長之事生之限也墮廳急景爍電輕淪死之約乎碎珠折玉晞露風燈感情而述矣清河府君瑞鳩傳裔靈劍得學宰晉相韓興蜀霸漢德源自遠良派爰多善不泯於春秋事亦豐於典策府君考諱諫南瀛州河間縣人也學備張車才盈曹十從師泗北授士關西校武則搏虎埋輪不輸祖業緒文則懷蛟夢鳳無讓先賢旋值我北朝大聖皇帝初勅乾坤才磨日月變家爲國授軒錄以稱尊取地爲疆執黃圖而作帝公以因隨折杖俄逐揮鞭遂步龍沙皆歸鳳闕時讓國皇帝在儲君時携筆從事雖非拜傳一若師焉自後

讓皇入漢 天授潛龍公爲王府郎中重元臣也天授帝龍飛公授密直學士轉給事除朔州順義軍節度使檢校太保到任後甘雨隨軒靈珠赴浦民謠五袴家給千箱袁扇風清瘦樓月朗滋王澤也增民事也公莅勤得替匪敗政也後以天順皇帝登大寶公授左威衛上將軍爲入班節度使班首先塋夫人丁氏有子四人焉長曰正嵩爲通事舍人舌辯如川儀溫似玉年過壯室在職而殂次子正巒俱爲通事舍人禮備執珪儀全束帶次子正嵩爲朔州順義軍節院使即府君也小子正峯後塋夫人王氏子也有女一嫁西臺御史大夫鄭藉府君生懼四知長無二惑令嚴訓子禮厚

陸親娶博陵崔氏女有子五人長曰思睿婚而不祿次曰思恭辯李有知觀星得學娶永和縣劉令女有子二小幼不書焉次子思敬幼而早亡次二幼韓七韓八女二長適天水趙司空小男一在室府君榮限而終歿期俄及既經堅禍曷免蘆端墮艷難留輕淪自返春秋四千有八葬於靈山之陽原禮也既傷去箭復悼藏舟意而書之謹爲銘曰

閱世閱川 繼生繼死 石火風燈 浮漚逝水 壽不永而皆傷 榮不長而可毀 誰謂府君道匪齊論 其來寧曉 其去也如□ 貞妻在室 賢子當門 針不煞于二豎 藥□奪于三魂 既失藏舟 難留去箭 死誰不傷 生誰不羨 祿定非改善求可薦 已達幽關 又何悲戀 爲榔工石穴山 飭金確手 不拔線古貞 今已年子月 慶厚祥深 天長地久 永保徽音

乾亨三年十一月八日記

略解 今ノ錦州省義縣雙山地方ヨリ出土、昭和五年時ノ山海關監督洪維國氏ガ之ヲ奉天ニ送リ、現ニ省立博物館ニ保管陳列ス。其ノ出土年代ハ昭和二、三年ノ頃ト推定サル、モ確實ニハ不明ナリ。滿洲ニ現存スル遼代ノ墓誌銘トシテハ最古ノモノナリ。縱横各一尺九寸五分。

文献 遼東文献徵略(卷三三) 義縣志(第十七册、中册、
藝文下、八十八)

八 朝陽內客省使檢校太傅贈太尉韓瑜墓誌銘

遼·統和九年（皇紀一六五二）

一六

篆蓋 故昌黎韓公墓誌之銘九字三行

故內客省使檢校太傅贈太尉昌黎郡韓公墓誌銘并序

前進士

郝

雲

□

夫高門襲慶列爵疏封雄飛資廟食之文鹿鳴叶朝譙之雅若乃真先王之胄緒大建侯之勳庸繼世聯芳載書備簡韓之先與周姓武王封於韓原號韓武子後與趙魏滅范貞子遷之平陽安王始為六國自韓之後因生賜姓族氏不遷本大則枝出惟繁源濬則流長靡竭拜前封後從昔至今宗躅彌昌豐謀盡紀近代則起家於燕壤仕祿於遼庭焉會祖為大司馬英氣拔倫風襟特秀討惡助中鄉之典若疇逾祈父之詩王父諱知古臨潢府留守尚書左僕射兼政事令始逢昌運兼綰重權如蕭何獨守於留司孔光不言於溫省列考燕京統軍使天雄軍節度管內處置等使開府儀同三司檢校太師兼政事令鄴王石麟稟異風虎騰祥文武敵萬人之英將相備累朝之傑三分上爵一字真封忠貞則元后腹心仁惠則黔黎膏沐 公諱瑜字 即鄴王夫人蘭陵氏之長子也生而魁偉幼有端良雅好大謀卓聞奇節趨庭就傅學詩禮以檢身箴仕勤 王便騎射而成性應曆中初補天雄軍衙內都指揮使尋 詔赴闕授銀青崇祿大夫檢校工部尚書右金吾衛將軍兼御史大夫上柱國行止可度必以廉能夙夜在公會非曠怠 景宗皇帝紹位之始命選禁衛端求蓋臣以 公壯志不群良圖可用授控鶴都指揮使絳州防禦使檢校司空尋授金紫崇祿大夫檢校

太保左羽林軍大將軍紫庭奉職耀簪紱以輸忠紅旆禦戎森戈矛而稱略遷授客省使軫膺載勳循牆益恭朝廷嘉之改授內客省使檢校太傅守儒州刺史仁化洽於六條□政聲隆於雙闕自任復 詔充內客省使崇祿大夫檢校太傅兼御史大夫上柱國昌黎郡開國侯食邑一千戶食實封一百戶遇 聖明之化當要重之榮束帶立 朝有儀可效 對揚休命發言盈廷洎統和間以太階未平渠魁作孽曾未犯境豕易屯兎及賊師既潰詔公權涿州刺史實謂當難安之秋得惠和之牧次年 昭聖皇帝哀燕民之若子□趙氏以如師北率 天兵南行國討仍觀敵寇據彼長城築壘猶堅橫戈甚衆 公方當扈從切在剪除以奪人為先謀以亡軀為盡瘁因俯營擒狡釋鎧傳宣攻長城□俄為流矢中首然雖抱楚尙更摧鋒金瘡尋發於朝昏委命幾臨於泉壤 承天皇太后愈憐忠赤愛之如母子之慈皇帝復念舊勳痛乎竭君臣之義疊頒醫 詔親視殞傷嗚呼樂盡悲來福盈禍構賢愚並歎今昔寧逃以統和五年十一月十日薨於行次享年四十有二尋載靈柩而歸權厝於霸州之私第 皇上以階爵未峻贈贈有加殊錫 恩輝載超倫等追贈太尉所以旌忠孝也 國朝深諭吉地允擇通年鄴王夫人方承天睽深被 國恩足以崇骨肉之親篤家門之孝率諸昆季具窆如初以統和九年歲次辛卯十月丙寅朔八日癸酉改葬於霸州之西青山之陽禮也始娶夫人蕭氏先亡合祔於此夫人生九男三女長男曰越孫早亡次阿骨兒亦亡次駭里鉢亦亡次寶神奴亦亡次福孫亦亡次栲栳亦亡次三哥年幼次四哥亦亡次高神奴亦亡 長女揚佛喜早亡次羅漢女次堰彌吉俱在室尙幼繼室夫人蕭氏誠歎未亡禮無再嫁公英雄授爵膽氣過人高貴相承交遊不襍宜乎萃謙言而到壽弘茂績以流芳奈何過隙興嗟臨川告逝必使松楸間

一七

植表滋龜兆之占陵谷縱遷尙固牛眠之異俾營豐樹用刊貞珉其詞曰

公之高貴 繼世聯芳 挺生魁偉 克蘊端良 禮樂是悅 騎射斯彰 歷官禁省
効節疆場 揮戈深入 流矢橫傷 魂飛戰壘 骨歸故鄉 皇情哀痛 宣贈彌光
事君事父 忠孝備昌 萬載千秋 芳聲不亡

略解

大正五年夏朝陽縣西方朝陽溝ヨリ出土ス。朝陽縣志(卷十一)三縣西二十里之朝陽溝於民國五

年山水衝破土崖發見古墓一有碑文可辨知爲韓瑜墓縣長孫襄周恐人挖毀親往監視即令土人封

禁將所有之碑載至縣公署保存下アリ墓誌ハ現ニ朝陽縣公署ニ保管ス。韓瑜ハ遼初ノ功臣韓

知古ノ孫ニシテ燕京統軍使韓匡美ノ子ナリ。其子ハ宣徽南院使韓櫛ナリ。遼史ニ傳ナキモ

當時ノ名族ナルコトヲ知ル。縱二尺三寸五分、横二尺四寸五分。

文獻

北條大洋著熱河(四五)、朝陽縣志(卷十一)、園田一龜著朝陽縣出土ノ韓公墓誌銘ニ就テ(奉天圖書館叢

刊第二
十册)

九 平泉嶺州刺史太原公墓誌銘

遼統和二十四年(皇紀一〇六六)

嶺州刺史太原公墓誌銘并序

誌者形於言而侔於法觀其行而立其規矩可以播徽猷而揚盛烈微事而

著英聲若以課虛焉能務實匪銘匪石無以不之談乃質乃文可以叙莫窮之

紀承其大體敢構荒辭陳三代之嘉名垂千年之其先太原瑯琊國王之

太子晉之後 祖任儒州刺史 烈考大郎君諱繼溫不仕娶北平氏次弟諱繼授

銀青崇祿大夫檢校尙書左僕射娶彭城氏 公昆季五人 長兄諱顯不仕次弟諱隣

字德潤乾亨二年授東班少府銀青崇祿大夫兼監察御史武騎尉次統和三年授銀青崇祿大夫

使持節降聖州諸軍事行降聖州刺史兼監察御史武騎尉次統和十四年授銀青崇祿大夫檢校

國子祭酒使持節嶺州諸軍事嶺州刺史兼監察御史武騎尉次統和十八年授蔚州錢帛都監

統和二十一年授上京都商稅院都監次弟諱操武定軍山河指揮使次弟諱政統和

五年授右番殿直次統和九年授西頭供奉官銀青崇祿大夫兼監察御史武騎尉次統和十年

授銀青崇祿大夫檢校國子祭酒行閣門通事舍人兼監察御史武騎尉次弟俊聖軍衙內

都指揮使 長兄娶西氏次娶賈氏次娶弘農氏次娶彭城氏次娶天水氏兒姪

守密供奉班祇候次守琢興國軍衙內都指揮使次守軍山河指揮使次守元供奉班

祇候次守次守寧次守敖次守嚴次守敬次守順次佛留次通兒次

公以金玉之才應風雲之會 二聖兩朝 鴛鴦而寒暑無移 鑿

輿而夙夜匪懈資忠信直懷柔經任使以奉公歷馳而守謀合神勝妙簡

帝心以功宣而詞道拒使城疲民之母父扶危

軍爲 聖主之股肱隨軒仁遂承替又降藍選茲清慎

□而□□□□納稅□而無黨無以□述□□公私得濟致時□而俗□感仁□
以義□未□幹勤忽□疾□□良藥莫遇奏醫仰天道以難□歎人生之到此□
公享年六十有二以統和二十一年一月十二日薨□□□以□年十月三日葬之禮也□
又以統和二十四年十一月一日卜其吉兆加以玄堂日往月來□□□□天長地久難追□
岱之魂□等方命下卜□成□□謹為銘曰

挺生隨氣 命世英才 相時而動 應運而來 兩居郡守 生平□□□□
□□□□ 授皇恩 兩臨重務 清振□玄 □□寰宇 忽隨夜舟 逝水同流
牛眠兮□吉兆 掩玄堂兮千秋

統和二十四年十一月一日敬記

略解

原石ハ奉天國立博物館ニ保管ス。湯玉麟氏ガ熱河省政府主席時代熱河省平泉縣ヨリノ出土

ナルモ其ノ出土年代及ビ場所等ハ一切不明ナリ、文字太半磨滅シテ讀ミ難シ、岳州ハ巖州ノ舊
稱ニシテ當時東京道ニ屬セリ。原石縦二尺四寸、横二尺三寸。

十 平泉檢校太師瑯琊公墓誌銘

遼統和二十六年(皇紀一〇六八)

故檢校太師瑯琊公墓誌銘并序

□□□□□□□□□□

公以□□爲人傑清純爲國□□□□□□□□□□鈐神授才略天然踵二八臣契半□運鷹
揚其勢虛變其姿生佐聖主聞□□□□朝□終事既影□□公□□形往名留非玉牒金
版可紀影沈譽振非麟閣貞珉可書刊錄斯□古今不朽公諱□字□徵其先太原瑯琊國□王太
子之後也□六□□天地人一貫三爲王天下□往祖諱□□大聖皇帝攻□天下□心向化廻
□歸盟一見□□國風□□授守吏部尙書門下侍郎次純和守正佐理公臣宣徽使特進檢校
太傅開國侯食邑一千戶 夫人□氏生三子長諱□□不仕次崇信授東頭供奉官次遼西州刺
史夫人石氏生二子長□□不仕次□□授□□□□公□□□□日生□□儒□兩
州刺史 夫人崔氏生八□長希憫不仕次公□□□□□□□□□□□□□□□□
□明□惡東官□賢霑雨露恩應雲龍會授西頭供奉官克勤扈蹕□節從鑾授初□次以□使檢
校國子祭酒加檢校□賓客掌御莞宸遊無失從禽□獵□次軍駕庫使□矢既精戈□□次
翰林祭酒使主司九□□奉 一人次□□□墳都部署加金紫檢校司空上柱國靡愈修營置全
墳邑授亳州防禦使檢校司徒知□州刺史□削銀青授金紫平水□□山河次上京副留守政肅
刑清民殷俗阜次奉先軍節度使檢校太保行顯州刺史上柱國瑯琊縣開國男食邑三百戶□□
□馬擁雙旌奉宣統制兵夫展拓疆界次積慶宮□兒渤海都部署□□□□□□□□□□宮務

奉□□宣同監國政權宣徽及五宮院事燕京管內商稅□點檢爲□□酬出□□
 □檢校太□□以兩國通和万万□一尙□□授忠勤奏王功臣寧江軍節度
 □州刺史瑯琊郡開國侯食邑一千戶加四字而□□居國內節□掌□皆
 □宣爲桓築都部署宣差中京 大內□□□□
 在指呼次弟希隆□頭供奉官相次轉至涿州刺史上柱國瑯琊郡開國男食邑三百戶□次弟希
 藹不仕次希□右番殿直授西頭供奉官儀鑾副使次弟希奔不仕次弟希濤授左番殿直次弟希
 □權閣門舍人 公是供遙達彼 皇都營築勞神板圖任重加授戶部使
 掌戶籍□夫大內既成□就功名未顯□俄縈空伏枕以纏□□羸悴聖上賜良藥
 宣名醫仰天道以□窮□人生之□此貞魂忽散□聖帝之股肱□□之父母夫
 統和二十五年七月三日壬□時薨於中京□享年五十□七次遷神柩於建州北私宅以當年
 十月七日庚時焚□之禮也□□芝□之□□逐清風金玉之□歸天上聖上願以
 勳臣特加賻贈檢校太師明天降命□□統和二十六年八月二十日戊申□□赴良
 辰謀大葬卜窆窆鑿高崗巖朱銜涅鳥來下淚玄扃朗見對松□□於掩□□慘□之□
 □濟陽郡夫人蔡氏蓋承夫貴特授□恩賜□□冠□□貞□質溫恭可□□□
 □生八子長元則新婦□氏將授□命俄丁 父□次元濟早亡次□□□氏次
 元□新婦崔氏次元憲次元鼎次元亨次元元□等悲□□內痛貫九迴欲尋□□之靈何年得見□
 □□□□之歎□日徒傷孝子泣血伸誠□士則含酸運思追□□之景行□在世之休□不

弃小才用□□德操□□□□□□流而謹爲銘曰

偉哉賢良 來輔聖□ □資蔭 莅事朝堂 自供奉班 授諸□□ 郡著公方
 克懷忠赤 修皇子□ □漢尹 折獄能□ 共軒是誰 帝輦俄遷 雄藩是守
 義感群心 德傳衆口 貴封五等 首冠六宮 金輝玉閣 仁洽道豐 建都構厦
 竭力輸勤 基成事立 世泰時殷 將顯元功 忽纏痼疾 雖賜靈丹 雖痊英質
 忍辭明代 恨泛夜舟 蒿里風慘 玄堂月秋 神姿忽掩在高墳 萬載千齡愈不□
 統和二十六歲次戊申八月己丑朔二十日戊申 匠人 劉全進

太平七年歲次丁卯正月戊寅朔十七日甲午 濟陽郡夫人蔡氏薨於顯州之私第是歲四月辛
 未朔二十四日 甲午申時祔葬 先太師之兆舊禮也

略解 原石ハ奉天國立博物館ニ保管ス。湯玉麟氏ノ治熱時代熱河省平泉縣ヨリノ出土ナルコトハ
 推定シ得ルモ其ノ出土年代及ビ場所等ハ一切不明ナリ。原石ハ大小十一片ニ割裂シ本文モ
 又完全ニ讀ミ下シ難キヲ遺憾トス。縦横各三尺一寸。

十一 朝陽佛頂尊勝陀羅尼石幢記

遼・開泰二年(皇紀一六七三)

佛頂尊勝陀羅尼石幢記

奉爲神贊天輔皇帝齊天彰德皇后萬歲親王公主千秋文武百僚恒居祿位風調雨順海晏河清一切有情同霑利樂

長寧軍節度掌書記儒林郎試大理評事武騎尉 王桂撰

長寧軍節度管内觀察處置等使金紫崇祿大夫檢校太傅

使持節白川州諸軍事白川州刺史兼御史大夫上柱國

銀青崇祿大夫兼監察御史武騎尉商稅麴務都監 王元泰

銀青崇祿大夫兼監察御史武騎尉同監麴務 張翼

三司押衙麴務判官兼知商稅事 翟可行

銀青崇祿大夫檢校工部尚書兼御史大夫上柱國 崔展

儒林郎試大理寺評事守白川州咸康縣令武騎尉 王□

銀青崇祿大夫檢校左散騎常侍兼殿中侍御史驍騎尉 江濤

觀察判官儒林郎試大理司直雲騎尉賜緋魚袋 田能成

□□□□□內觀察處置等使金紫崇祿大夫檢校太傅

使持節白川諸軍事白川州刺史兼御史大夫上柱國鉅鹿縣開國子食邑五百戶 耿延□

開泰二年 寺主僧 義超 都維那僧 義訓 石作院使 王德辛鑄字

略解 今ノ錦州省朝陽縣城ノ東北六十七里ニ白川州城ノ故址ニ在リ。今ノ錦承線能家驛ノ東方四

角板附近ニ當ル。經幢ハ現在太半地中ニ埋没シ居レリト云フ。連名末行ノ耿延□ノ職名ハ

上部ニ長寧軍節度管ノ六字ヲ脱落セルモノト認ム。未ダ拓本ヲ見ズ。

文獻 欽定熱河志(卷九十八古蹟) 承德府志(卷四十八) 遼文萃(卷四ノ八六) 朝陽縣志(卷二十二古蹟)

十二 奉天貴德州觀察判官孫允中石棺銘

遼・開泰七年(皇紀一六七八
西紀一〇一七八)

承奉郎守貴德州觀察判官

試大理司直賜緋魚袋孫允中

開泰七年歲次戊午

略解 昭和五年四月奉天大東邊門外ヨリ出土セル石棺ノ銘ナリ。石棺ハ外部四周ニ星宿ニ象リ朱

雀玄武青龍白虎ノ四獸ヲ陽刻シアリ、遼代ノ彫刻様式ヲ窺フニ足ル。此ノ銘文ハ朱雀ヲ刻セ

ル南面ニアリ。石棺ハ現ニ奉天省立博物館ニ保管陳列ス。遼代ノ貴德州ハ滿洲歴史地理(第

二卷)ニ鐵嶺ノ東南方撫順附近ニ擬定サレテ居ル。之レ今ノ撫順城西北ノ城址ナルベシ。

文獻 東北叢刊(第七期)

十三 凌源北安州興化縣令宋匡世墓誌銘

遼・太平六年(皇紀一〇六八)

故儒林郎前守北安州興化縣令晉國公主中京提轄使宋府君墓誌銘并序

外甥中京留守判官

朝議郎尚書吏部郎中賜緋魚袋

王景運撰

夫千里駿馬綽有奇蹤市不貴則躡影於厩下十用寶龜儻爲神用卜不襲則□尾於泥中長鳴徒号於騏驎至異尙群於魚鼈物既有矣人豈不然粵若我故廣平提轄府君志欲展而時未至年方盛而命已終之謂歟 府君諱匡世字成績則故榆州刺史太傅之子今長慶軍節度使太尉之弟前宜州弘政縣令員外之兄其宗祖貽謀世家迭盛 先誌具載今不復道 府君性本恬和行惟端謹嗜學則融玄讓奧屬詞則舒向稱奇奉親族以孝聞與用友以信著慕吉人而爲善善不可嘉□君子以好恭恭而有禮靜圖欺於暗室動靡託於權門殊非觀國之寶實曰保家之主統和十六年 故樞密使魏王聞其器業降以恩榮起家署爲都孔目官洎專呈對尤見幹能謂左右而任得其人願出入而可使爲寧特奏授將仕郎北安州興化縣令一同布政疲民受賜於三年九市開遷賢相選才於百里秩滿授大定府都市令日中播羨 帝里傳聲果達 宸聽擢居要職未幾授北面都孔目官仍加階級超試官資扈隨漸列於近司敷奏咸推於幹局俄屬今主上堯堯受册 舜曆改元攝毛詩博士押鹵簿導駕禮畢會 中宮之受弟開外館以親迎戶民既益於賦租錢穀復資於主轄改授晉國公主中京提轄使頗霑厚賜尙帶前銜衣錦而歸方動吳人之慶逝川不已遽

傷曾聖之懷無何太平五年五月十八日遭疾啓手足於提轄公署之正寢春秋四十有八權厝於京南義井院精舍以太平六年三月七日歸窆於榆州南和鄉餘慶里鹿鳴山 先塋之左舉二夫人耐焉禮也 府君前娶吳氏建雄軍節度使渥之女後娶李氏今夫人馬氏前東京轉運使澤之女柔嘉叶□貞順成風奄違偕老之期恒抱未亡之恨二男孟曰福先奴仲曰福聖奴丹穴鳳鷄羽儀猶留注泉驥子骨力本奇□俟成人俱爲令器二女長適進士王景錫次許適劉可升待年而未行而皆處閨闈以稟姆儀事舅姑而適婦道□鍾慈愛寧踰痛傷 府君初以哀送之日冠蓋傾都緇黃□路踵□於馬□市閭巷爲之不歌非夫平生善行何感人之如是加以愼靜寡言臨事能斷友於兄弟信重佛僧疏盱物而若閑撫貧弱而以惠處世南之五絕筆翰尤精劉道民之百□書□□妙然而名不逮器用匪稱材樂天知命以是圖□素全真而無問□達者□不尤人所恨二男成童空留餘訓一女在室靡遂送□嗚呼哀哉 渭陽□□□氣之情舉飾終之禮同訪遺美思刊貞珉以景運西掖司旨早會弄翰南曹應宿近又爲□□修泉壤之文用脩陵谷之變矧叨外戚軍孰芳猷承 嘉命以不違□眞書而無□謹爲銘曰

世於靈長

時由陰隲

載誕英奇

咸推貞□

王府薦名

君門委質

擢近鷺行

輟隋鳳蹕

畫錦方衣

夜舟遽□

兒女哀號

兄弟黯鬱

日遲遲兮春□

靈輻發兮

適牛眠

啓厚穹兮歸故里

耐先塋兮開新阡

爰勒名於翠琰

庶万祀而千年

略解

原石ハ奉天國立博物館ニ保管ス。熱河省凌源北方ノ小城子附近ヨリノ出土ナルモ其ノ出土年代ハ全然不明ナリ。此ノ墓誌ハ宋匡世ガ遼北安州興化縣令タリシ點ニ史的價値アリ。即

チ興化縣ハ遼史(三十)地理志(三少)北安州ノ條ニ其名ヲ載セズ、因テ欽定熱河志(卷六十一)ハ金史(三卷四)地理志ニ興州本遼北安州興化軍興化縣又有利民縣承安五年以利民縣升泰和四年廢トアル
 二蓋以興化爲遼之舊縣而以利民爲金所增置遼志有利民縣而無興化縣與金志不合ト謂ヒ興化縣ノ存在ヲ否認シ、滿洲歷史地理(第二卷)モ亦北安州ノ條ニ此事ヲ是認セルモ此墓誌ノ出土ハ此說ヲ覆シ、遼史ニ興化縣ナキハ完全ニ其ノ脫漏ナルコトヲ證スル有力ナル史料ナリ。縱橫各二尺四寸。

十四 林東聖宗文武大孝宣皇帝哀册文

遼太平十一年(皇紀一六九二)西紀一〇三二

篆蓋 文武大孝宣皇帝哀册九字三行

文武大孝宣皇帝哀册文

推忠翊聖保義守節同德功臣樞密使開府儀同三司左丞相

守太傅兼政事令監修國史上柱國魯國公食邑一萬戶食實封壹阡戶臣 張儉奉勅撰

維太平十一年歲次辛未六月丁丑朔三日巳卯

睿文英武宗道至德崇仁廣孝功成治定啓元昭聖神贊天輔皇帝崩于大福河之行宮以其

月八日甲申發赴慶州八月丙子朔二十七日壬寅殯于

撰塗殿之西階有司定議上

尊諡曰

文武大孝宣皇帝廟號聖宗即以冬十一月甲戌朔二十一日甲午遷座于

永慶陵禮也古樹號風寒山帶雪會同軌於萬方啓撰塗於七月竊仗俄排祖庭斯設凌晨將

御於龍輻遠日欲辭於鳳闕哀子嗣皇帝臣宗眞孺慕絕漿哀摧泣血爰命召於輔臣俾祖述

於鴻烈其辭曰 肇分覆載建立皇王德惟善政邦乃其昌遠則有虞大舜近則唐

室文皇既比崇於功業故可得而揄揚 先皇帝位繼六朝君臨四紀乃聖乃神盡

善盡美自推戴以居尊每勵精而求理昔也朝元聽政長樂承 顏行孝治於天下

布惠化於人閒舉直措枉求賢審官詔搜巖穴庭列鸞鸞視兆民而如子數五教以在寬以欲

從人盛暑不張於傘蓋去奢從儉常朝不服於羅紉乙夜觀書披衣待旦博採摭於典謨恒憂

勤於聽斷實穀務農從繩納諫惠養鰥寡欽恤刑名稟道毓德惡煞好生洽前代無爲而治見

時政不肅而成四民殷阜三教興行開拓疆場廓靜寰瀛東振兵威辰卞以之納款西被聲教

瓜沙繇是貢珍夏國之羌渾述職遐荒之烏舍來賓惟彼中土曩歲渝盟自汴宋而親驅馳豕

取并汾而來犯京城絕信弃義躡武窮兵蓋 先朝之積忿須再駕以徂征七德制勝千

里橫行戈戟霜攢而蔽野鼓聲雷動於連營逢大陳而皆尅攻邊壘以旋平凋瘵戶民盡離居

而失業傷殘將卒竟閑壁以偷生遂仗黃鉞直核洪河會若林之銳旅揮却日之瑠戈我欲濟

以焚舟彼方危於累卵乃命使軺疊伸誠款懇求繼好乞効刑牲貢奉金帛助贍甲兵尊

聖善而庶稱兒姪敦友愛而願作弟兄保始終之悠久著信誓於丹青因迴天睽俯順物情念

茲憐服爰議凱旋行與國之大義解諸夏之倒懸下詔而歡聲動地班師而和氣盈川暫勞吊
伐永息烽煙自兩朝修聘已三十餘年取威定霸輝後輝前至若天錫勇智神贊聖聰無幽不
燭有感必通化民成俗比屋可封祝史正辭備禮而交禋天地奉先思孝謁陵而追冊

祖宗欲固丕基恭行茂典繼正體而立元良啓承華而開望苑慶帝祚之昌延見皇圖之宏遠
方期偃修御極垂拱臨軒保遐齡於萬壽應寶運於千年照臨如日覆燾如天揚周王歸馬之
風正安下土促軒后乘龍之馭遽歎上僊嗚呼哀哉九霄降禍四海纏哀積陰晦而告變經旬
浹而不開厭留塵世却返瑤臺嗟貞魂而何往隨逝水以無廻嗚呼哀哉虞殯將期宋朝感義
命六使以臨喪備百物而來祭諸侯畢至群方咸暨奠旨酒以如灑思

仁君而流涕嗚呼哀哉疊嶂千重高凌碧空虔奉遺旨卜葬玄宮負龍輶之巨麗敞神闕以彌
崇洎窳窳之協兆皆匍匐而送終嗚呼哀哉殿幕開兮星已稀靈駕動兮天欲曙馬踏地以悲
鳴人執紼而號訴丹旌飄風金錢買路百寮哭兮不聞萬乘泣兮何怙嗚呼哀哉入松阡兮駐
金輅藏玉匣兮掩泉門愁雲忽慘夕照俄昏往如慕兮灑雙淚返如疑兮傷百神功高今古道
煥典墳俾形容於 聖德遂聊宣乎斯文嗚呼哀哉

略解

昭和五年夏熱河省林東縣西白塔子西方ノ遼帝陵ヨリ發掘サル。漢字及ビ契丹國書ノ哀冊十
餘石アリ、時ノ熱河省政府主席湯玉麟氏之ヲ承德ニ運バシメ、更ニ奉天ノ私邸ニ密送秘藏セル
モノナリ。滿洲事變後始メテ其ノ拓本ハ世ニ流布サル、ニ至リ、就中契丹國書ノ出現ハ最モ
學界ヲ驚喜セシム。原石ハ總テ奉天國立博物館ニ保管ス。此事ニ就テハ滿洲國立圖書館發

行ノ遼陵石刻集錄上下二冊ニ詳カナリ。原石縱四尺三寸、横四尺四寸。

文献 遼陵石刻集錄(卷第三) 羅振玉氏著遼居雜著乙編

十五 熱河・太保張哥墓誌

南瞻部州大契丹國 奚王府

撻攬母呵長管具劣男

太保張哥墓至一竭

夫聞祖伐高顯此輩名傳宋

爲佐國以自今作擎天之柱遺

流聖跡後代逢移標古記於千秋

顯碑文於萬歲此墓東接徐州

景西連羣峯山北面伽里鎮南有玉石岩上

面連霄漢下徹定生開八方皆統領四海盡伐

班青陽郡奚 耶律

太保張哥男毫 次男望哥 孫子韓九

七哥 王八 王九 十一 重孫豆咩哩

重熙四年十一月乙巳朔己酉日聞

略解 原石ハ奉天國立博物館ニ保管陳列ス。其ノ出土地ト出土年月ハ全然不明ナリ。縦一尺四寸、横一尺四寸五分。

十六 朝陽宣徽南院使韓椅墓誌銘

遼・重熙六年（皇紀一六九七）

篆蓋 韓公墓誌銘五字一行

大契丹國故宣徽南院使歸義軍節度沙州管內觀察處置等使金紫崇祿大夫檢校太尉使持節沙州諸軍事沙州刺史□□□□□□□□□□黎郡開國侯食邑一千五百戶食實封壹百五拾戶韓公墓誌銘并序

朝請郎守尚書右司郎中充史館修撰武騎尉賜紫金魚袋 李 萬撰
公諱椅字正聲其先曲沃桓叔之苗胄也建功于冀食荼于韓惟彼元昆以邑命氏若乃劃分三晉森峙六雄燼餘方絕於祖龍基構特新於天漢成既賜胙卜宅潁川信亦分茅築都代土其後徙居昌黎因爲其郡人則著姓之籍不其盛歟 我聖元皇鳳翔松漠虎視薊丘獲桑野之賸臣建柳城之家社威宣十乘法被一隅推忠契運宣力功臣彰武軍節度東南路處置使開府儀同三司守尚書左僕射兼中書令諱知古曾祖父也魏之畢萬早稱必復魯之僖伯終謂有後紹興蕃衍嚮用崇高協謀守正翊衛忠勇功臣燕京統軍使天雄軍節度使開府儀同三司贈守太師兼政事令行魏

州大都督府長史上柱國鄴王諱匡美祖父也抱船曠之宏用膺帶礪之宗盟高揭將壇始糜王爵先娶泰國太夫人人生二男一女長子列考次子嗣左監門衛將軍早亡女適劉宋州侍中男而殂又以 壽昌恭順昭簡皇帝失愛之嬪妻之封 鄴王妃卽 聖元神睿眞列皇后之猶女也生二男一女男幼三女適張侍中孫左監門衛大將軍知檀州刺史事崇一今夫人之父也後娶魏國夫人鄴妃之姪皆出于蕭氏矣西南路招討晉昌軍節度使行京兆尹尚父秦王諱匡嗣伯祖父也樹鼈足之英標傳馬眉之茂慶列五鯖之鼎峩七蟬之寃生我大丞相守大傳晉國王諱文忠諱德讓賜名隆運聯其 御諱也賜姓耶律氏屬籍于宗室特加殊禮丕顯大勳與夫劍履上殿几杖入朝者不侔矣從世父也四十萬兵馬都惣管兼侍中南大王贈政事令陳王諱遂貞賜名直心眞柱石之雄享鈞軸之重爲周方邵作舜臯夔再從兄也譜係于國姓其餘戚屬族人拜使相者七任宣猷者九持節旄縮符印宿衛交戟入侍納陛者實倍百人此不具書略也烈考諱瑜內客省使檢校太傅贈太尉出征冀部適次遂城躬犯干戈親冒矢石會前茅之崩沮乘右校之退軼奮不顧身卒于田命先娶蘭陵蕭氏封本郡夫人生九子所存者 公最幼也惟 公稟烏嵩之貴精蘊斗極之武幹體貌魁碩宇量淵弘襲世祿以不驕修天爵以彌篤尤工騎射洞曉韜鈴甫及策名克從筮仕初授西頭供奉官遷「御院通進朔方分闕河右稱藩 九重曲降於璽書一介載馳於册命以 公持節封李繼遷爲夏國王洎星轅解鞅駟控迴鑪入秦乾元頗願兌悅改頒給庫使統和二十三年 運契戢囊時丁歸放慕義廣開於栗陸含靈雅唱於葛天趙宋氏致幣結歡歆牲修陸將叶皇華之詠簡求專對之才以 公充賀正之副達于汴都三百萬之寵錫也廻授引

進使轉客省使旋以辰卜弒君微駒作梗 万乘恭行於討擊六師畢集於征伐考詩書而謀帥無
 右郡穀委車騎而命將率先寶憲即授 公左第一驍騎部署軍還加左監門衛大將軍知歸化州
 軍州事密邇樓煩切鄰白雲俗多擴恨民若侵漁自 公下車咸服仁化秩滿除章愍宮都部署掌
 綰版圖撫綏生齒陪 四朝之羽衛覆數郡之刑名出充燕京留守衛內馬步軍都指揮使改易州
 兵馬都監繕甲治兵遏強撫弱主持蘭錡清肅柳營轉弘義宮都部署拜侍衛親軍步軍都指揮使
 利州觀察使領禁旅也夫物忌大盛先哲爛誠事久則前代良箴忽生疊纒於私門欵被纒囚於
 制獄虞書文命寧殺不辜孔記治長信知昨罪遂以笞刑斷之仍不削奪在身官告 念勳舊也明
 年奉使沙州册主帥曹恭順為燉煌王路岐万里砂磧百程地乏長河野無豐草過可敦之界深入
 達妬□囊告空甚糗糧不繼 詔賜食羊三百口援兵百人都護行李直度大荒指日望星櫛風沐
 雨郵亭杳絕蕭條但聽於鷓鳴關塞莫分塊漢寧知於狼望舊疹忽作以馬為輿適及岩泉立傳
 王命在腹之塊倏然破墮 公亦仆地至夕乃甦其疾頓愈議者謂 公忠勞所感神之祐也
 東歸之次踐歷擾攘僮僕宵征曾無致寇驂駢夙駕殊不畏危軼絕漠之阻脩越窮方之遼魯肅將
 土貢入奉 宸嚴 孝宣皇帝敦諭久之 寵賚踰厚賜白金二百兩垂布八十段帛百疋
 尋授乾顯宜錦建霸白川七州都巡檢再任章愍宮都部署依前左監門衛大將軍太平五年雞種
 貢材鴨流通棧師停下瀨兵□渡遼皇穹鞠育大弓列王贊陳於楛矢乃命使高麗國賀王詢之誕
 辰也其年冬授□州觀察使知易州軍州事兼沿邊安撫屯田使充兵馬鈐轄其地也背□上谷目
 睨中山子僑不託於攻蒲羊祐無猜於嘗藥馬牛不及雞犬相聞未幾授長寧軍節度白川州管內



觀察處置八年秋逆賊大延琳竊據襄平盜屯肅慎鯨鯢橫海怒張吞小之喉虵豕憑江暴啓食中
 之吻將以舉泰山而壓卵登高屋以建瓴木初圍守於伯珪之懿格張於仲達假 公押領控鶴
 義勇護聖虎翼四軍充攻城副部署賊平就拜永清軍節度易博冀等州觀察處置管押義勇軍駐
 泊于遼東 詔賜銀盆百兩細衣一副移鎮瀋州然而虎夷効逆鶴野罹災俘劫并闕剽掠烽戍來
 如蚊蝻肆毒噬人去若虺蝎蓄姦伏莽 公乃指畫方略奮發雄圖截玄兎之要衝貫紫蒙之扼
 束築壘一十七所宿兵捍賊賊不西寇 公之力也未遑受代復南使于宋亦三百万之賜也張
 旌即次飛蓋出疆依然郊勞之儀宛若館穀之數荐盟君好綽布賓榮使廻遷宣徵北院使歸義軍
 節度沙州管內觀察處置在任二歲進位南院使加檢校太尉重熙五年在燕京也備 清蹕之
 來臨後 翠華之降幸葺修宮掖仰期 飲鑄崇飾祠寺企望問峒舉揚百司支遣萬計勤恤
 夙夜犯凌寒暑遇疾潛驚於壞寢求醫不遂於針育禮嗣觀書善分科斗郭文在疾難辨金雖以九
 月二十五日櫛告薨于宣徽衛之正室 天子緇懷盡瘁 軫悼殲良賻贈之外賜錢五十万
 俾襄其事非常例也 詔贈櫛官旌德表功恩榮至矣 明年二月十七日葬 公于柳城
 白盧山之朝陽以先夫人蕭氏合祔之從 祖考之宅兆禮也惟公遠使鳴沙必死之地羈栖絕微
 流落遐渚涉險獲夷履凶無咎考終之日遙鎮其州信其異也凡三娶先夫人生二女長早亡次適
 左日軍將軍蕭乞得繼室蕭氏生三女一適護衛將軍蕭朱一適左班殿直張玫大同軍節度特進
 檢校太師筠之孫也一適通事班祇候康德潤早亡皆能事舅姑益親娣姒芳如蘭蕙瑩若瓊瑤今
 夫人張氏左監門衛大將軍知檀州軍州事崇一之女承太皇太后賜也虔弘內則靡人外言貞莊

雅諷於螽蟄令淑潔羞於蘋藻生三男孟曰齊家奴癡疾居家受浮屠之法先公五稔而逝仲曰貽孫左丞邴閣門祇候季日貽訓冠而未仕聞教導於鯉庭紹雄豪於馬坪奄鍾柴毀益纏羈慕哀圖極於旻天勉尙凶於遠日懼遷岸谷請紀音塵青山白雲溫博已談於傳奔蔓草拱木麗適委於江淹聊採世家粗鐫壽域其銘曰

宗唐叔兮系頽當 徙棘城兮遇 聖皇 四王錫羨兮 七相耿光 節旄交影兮 璽綬成行 我公降跡兮 恢礫藩昌 奚奄邁於斯疾兮 固難謁於彼蒼 裊銘旌於掖館兮 瘞誌石於玄堂 築馬鬣之長隧兮 鑿龍耳之高崗 露泣青草兮 風號白揚 隴泉悲咽兮 山雲慘傷 宅幽竟而享明祀 終古無疆 重熙六年二月 日鄉貢進士 商 隱 書

略解 前內容省使檢校太傅贈太尉韓瑜ノ第七子ナリ。前ニ朝陽縣朝陽溝ノ韓氏墓地ヨリ出土セルモノナルモ其ノ出土年代ハ不明ナリ。韓瑜ハ其祖父匡美、父瑜ト共ニ遼史ニ其名ヲ載セズ、全ク傳ル所ナシ、此ノ墓誌ノ出土ニ因リ始メテ知ラル。原石ハ其父韓瑜ノ墓誌ト共ニ朝陽縣公署ニ保管ス。縱三尺五寸五分、横三尺八寸一分

文献 園田一龜著朝陽縣出土ノ韓公墓誌銘ニ就テ(奉天圖書館叢刊第二十册)

十七 義縣濟州刺史張思忠墓誌銘

遼・重熙八年(皇紀一六九九) 故銀青崇祿大夫檢校司空使持節濟州諸軍事濟州刺史知上京南中使兼御史大夫上柱國清

河縣開國伯食邑七百戶張思忠墓誌銘并序

儒 林 郎 守 秘 書 省 著 作 佐 郎 柴 德 基 撰

夫以人之生世也吸天之粹鍾父母之靈有以貴賤定其身有以長短受其命身受其貴者或文相而武將身受其賤者或男臧而女獲命享其長者或期頤之歲未爲終天命折其短者或齟齬亡年忽隨逝水自昔迄今無均一者豈虛也哉其有稟性孤奇爲人絕出秩峻侯伯力勤公家歲莘誤保於悠長神魄遽聞於天闕者悲惜我故清河公太保耶公諱思忠其先自軒轅世因爲氏焉曾卽故朔州節度使上將軍諱諫之嫡孫父諱正嵩之第五子也芳標外秀淳粹中含自童丱之年慕儒覺之業衆推博雅獨藹英聰用□揀詔於彤庭誤捷登於上第始授東西頭供奉官權閣門通事舍人後任職諸司力著勤劬旋□於勳績 思流渙汗幸被於舜酬超授黃龍府節度副使又以步膺主綽遠奉使華輶御始還 滂澤載被疊□□

黔義等州刺史分竹符而□貴鴛熊軾以飛榮公才既寡仕路濳昇改授濟州刺史知上京南中作使將任赴於往欽忽災纏於毀瘠無何於重熙七年十二月十四日薨於崇義軍南雙山之私第春秋六十有四以明年二月壬戌朔十七日陪葬於亡父之營次禮也公先娶故隴西李太尉之女所生二男一女長男可舉上京省倉兼車子院都監次曰可從王府文學女一適進士郝正諱其隴西氏誤獲偕老早痛云亡後繼娶故大將軍太原王延玉之女所生五男一女一曰可奐乾州內庫都監次曰可巽在閑次曰吳哥出家次曰公猷內供奉班祇候次曰公謹習進士業女一將適上京前大盈庫副使王息男婦四人一故彭城節院劉守訓女一前錦州倉庫都監于延泰女一殿直李壽廣女一金州防禦使大守節女孫兒四孫女三並幼今太原氏夫人貞含玉質馨藹蘭儀自成授室之歡淑有陸親之孝本望命夫命婦永諧齊體之

榮何期哀子哀孫皆失藐孤之望雖遊魂不在杳歸玄壤之間而茂實欲旌宜刊貞珉之上德基名標桂籍職倅芸香難違致請之言強軋若抽之思愧才華之不瞻莫著好辭惡論撰之非宜直書褒字專介立俟勉爲銘云

奎遷炳靈 峒□儲精 文武兼備 熙朝挺生 角飛榮路 眞其令名 家有餘慶 高其閑閔 貴屢擁於二豎 藏舟發歎於莊生 壤木興歌於尼父 正室悲其未亡 諸孤痛其何怙 玄局寂寂兮不開 長夜漫漫兮安覩 碧貞礎兮載徽音 億萬千齡兮居此墓

第三男乾州內庫都監 可奐書

略解 朔州順義軍節院使張正嵩ノ第五子ナリ。義縣雙山地方ヨリ出土セルモ、出土ノ年月ハ不明ナリ。昭和五年編纂ノ義縣志(第十七册藝文志下八十八)ニハ張正嵩ノ墓誌銘ヲ載スルモ、張思忠ノ分ヲ載セズ。惟フニ之ガ出土ハ張正嵩ノ墓誌ヨリモ尙ホ數年後ニアラザルカ。但シ詳細ノ事ハ全ク不明ナリ。原石ハ其父張正嵩ノ分ト共ニ奉天省立博物館ニ保管陳列ス。墓誌ハ三個ノ石ニ刻シ縱横各約二尺一寸前後ナリ。

文献 遼東文獻徵略(卷之三十三)

十八 朝陽・鐵舍利塔碑記

遼・重熙十五年(皇紀一七〇六
西紀一〇四六)

維大契丹國興中府重熙十五年丙戌歲十一月丁丑朔十六日壬辰起手鑄次年四月乙巳朔八日壬子午時葬釋迦舍利記 辨塔主覺華島海雲寺業立沙門 志全

略解

遼興宗ノ重熙年間鐵塔ヲ鑄造シテ佛舍利ヲ藏メタル碑記ナリ。往年朝陽城南鐵塔故址ノ地下ニ於テ高サ七尺廣サ六尺五寸四方ノ地宮ヲ發掘シ、其ノ周圍ニ是等ノ碑石ヲ嵌入シアリタリト云フ。塔子溝紀略(卷十一)ニ「南塔之前有鐵塔一座係契丹重熙十五年所鑄葬釋迦定光二佛舍利其塔下知始於何代後人於其地基創得一窟下見地宮一所高七尺零廣六尺五寸八面均平有碑八塊砌於週圍牆內字跡模糊者兩塊殘損者一塊字體另爲一種一能認者三塊字跡尙清楚者兩塊」トアリ。本碑ハ其ノ一ニ係リ、原石ハ今所在不明ナリ。

文献

欽定熱河志(卷九十八、古蹟二ノ九) 遼文萃(卷四) 塔子溝紀略(卷十一) 遼文存(卷三)

十九 林東・聖宗欽愛皇后哀册文

遼・清寧四年(皇紀一七五八
西紀一〇五八)

篆蓋 欽愛皇后哀册六字二行

維清寧三年歲次丁酉十二月癸卯朔二十七日巳巳

大行太皇太后崩於中會川行宮之壽安殿旋殯於慶州北別殿

之西階粵明年夏五月四日癸酉將遷祔于永慶陵禮也夕攢方開夜漏甫盡龜兆告時龍輜移軻縣山之縞素凝霜離殿之惟帟飛燼奠樽旣撤哀仗徐進想舊事兮若新計遠日兮如近孝孫嗣皇帝臣翼義感 祖先情深胄胤憶戀風猷追思恩信命相輔以爲文期晉徽之大振詞曰周室德業文母居先漢朝儀範馬后稱賢致延祚於七百載克流芳於二百年伊彼往矣其誰繼焉大行太皇太后博厚成儀中和毓德婉淑慈仁聰明正直嬪嬙卑下示之以謙抑子孫衆多勗之以溫克對禕禎之織靡輒不更衣處宮室之深嚴嘗無踰闕若天之清若地之貞若江海之量若日月之明於 孝宣有婦順之容所以承愛敬於 孝章有王業之訓所以享推稱乃即前宮之大號乃膺太上之徽名禮度在躬不取珩璜之節廉純爲事不從簪珥之榮行不旁履視不斜睨好尙古風勤求實際普全六行之餘洞達三乘之義動必協於人心靜必從於佛意勃興皇運肆及孫謀邦國蓋承於垂慶宗親皆荷於貽休有兄之女兮還尊居於永樂有女之子兮復貴處於長秋若昆若季乃王乃侯一門之盛千古無儔屬壽齡之向暮矚光景以難留方大恢於聖化遽上促於僊游嗚呼哀哉水逝悲川花

落影暑氣由是夏銷門楹排空殘照于焉夕挂輪奐之盛可勝道哉先是□夫人之長男輟供職于
 行朝委都征於雜務得 佛牙一顆大踰方寸牙上得舍利七百餘粒若珂□之質寶壘光射疑國
 兵之未分甍灰色交訝海龍之反施夫人且曰遺□蘊安葬是崇苟非堅固必貽後悔旁出之乾位
 有孤峯嶸焉碧石嶽峯固□巔末遂募工鑿鑿深逾數丈石之開有文若花葉芬敷之狀厝窆之日
 衆數百人約不納而集有祥雲轟地彌覆其上逮至吉時則陽景舒光不差暑刻葬已□合郁郁如
 初遠近見者咸警異之時咸雍五年九月九日也明年十一月既望□前後共三夜光氣燭天見者
 數千人復就石龕之前架一小殿殿則三聖寶八像相阿羅漢之容悉皆具焉賜谷欲暇曦輪將墜
 舍利之影落覆邱堯則太師公之遺墟承蔭其下若非巧入心匠神開志端則揆事之長孰能與於
 此凡巨細之費餘於二萬緡□□乏績就於十二載工徒之役算日酬庸驅籍一毫不取皆賢夫人
 嚮匿飾減衣御之爲也寺既成必假衆以居之遂延僧四十人有講則復益二□□僧既居必資
 食以給之遂施地三千頃粟一萬石錢二千貫人五十戶牛五十頭馬四十疋以爲供億之本咸雍
 六年冬事達駐聽上用嘉之勅賜曰靜安寺獎勵意山賁山藍也恭惟夫人以慈□接物類以沖澹
 卻世紛斷而後行力致者皆爲軌法仁以成性身至則自是道場遂能挺不退之至誠集無上之良
 福與夫桂陽追愛起崇義于隋朝陳妃施財造逮元于晋代固可同年而語矣夫人二子長曰佶禮
 賓副使銀青崇祿大夫檢校右散騎常侍同知利州事兼部內巡檢次曰特里德皆根乎善本協彼
 勝心宏助之功詎能詳述大哉做阿蘭若之靜姿像薄迦梵之遺形所祈禱聖祚垂鴻固蘿圖于浩
 苦切群靈獲祐趣花藏于他生又何止延九族之修齡薦三代之冥福而已哉入興公才非半古識

不照隣自服爲吏之勞頗滯攻文之思茲承勤請未易固辭撫實寶坊既盡一時之勝槩□英珉篆
 願垂千古之休聲銘曰

神邑浩壤 六街葦布 雖敞釋宮 不無垂朽 □峯幽寂 萬載□閑 雖開禪寶
 是勞躋攀 帝輦□除 川岐易造 能闢勝場 乃得中道 都會百里 嵐光數程
 山參而□ 崗橫如平 □□夫人 上茲拂地 結構瑰琦 規模壯麗 正殿巋立
 危樓對森 烟梵凝碧 朱甍疊陰 寶像中存 □□攸見 月伴高佛 雲□□□
 孰□□土 □開□□ □祐睿君 □□含識 □庇我華 宗資乎幽冥

略解 靜安寺ハ大寧城遼ノ中京南約五、六里餘、老哈河南ノ小榆樹林村ニアリ、今熱河省平泉縣ニ屬ス。
 碑ハ文字漫漶シテ讀ミ難シ。欽定熱河志(卷八十二)ニ「靜安寺在大寧故城南十家兒村遼咸雍間
 蘭陵郡蕭夫人建碑字漫漶不可讀寺址尙存」トアリ、遼金時代ノ建築ト其佛像(圖版)ニ此碑ノ寫真
 ヲ載ス。碑陰ノ文字ハ契丹小字ニアラズヤトノ說アリ。縱五尺九寸、横三尺。
 文獻 欽定熱河志(卷八十二) 義縣志(第十六册中卷) 承德府志(卷二十一) 遼文萃(卷二ノ)
 遼金時代ノ建築ト其佛像(圖版下册)

二十一 林東・興宗仁懿皇后哀册篆蓋 遼・大康二年(皇紀一七三六)

篆蓋 仁懿皇后哀册六字二行
 略解 篆蓋ヲ存ズルノミニテ哀册ノ原石ナシ。發掘當時既ニ所在ヲ失シタルモノナルベク、奉天ニ

現存セルハ篆蓋ノミナリ。遼陵石刻集錄(卷三)參照スベシ。

二十二 林東聖宗仁德皇后哀册文 遼・大康七年(皇紀一七四二)

篆蓋 仁德皇后哀册六字二行

維大康七年歲次辛酉十月甲寅朔八日辛酉先諡

仁德皇后蕭氏發自祖州西之玄纒遷祔于永慶陵禮也歲瑄均時應
鍾肇律鹵仗煙凝重岡霧蔚望神座之甫安却靈輶之將出嗣孫皇帝
翼深軫孝思固存哀恤遵遺旨以披誠考舊章而備物溫詔俄宣徽猷
載述詞曰

坤順而正承乾以行月隨而運續日之明陰體至靜陽用而生后德中
助帝功大成唐媛興媿塗山翼夏城贊殷昌源裨周化秦漢已還隋唐
而下我國迭隆其賢相亞曾沙瑞集剖石文傳覆王人異鑄金像全極
儷而已倪妹之然義昭配地號峻齊天體軒之星儲嫠之宿葬顏既芳
蘭儀亦郁漁涉圖書浣濯禱鞠樛木譟能關睢詠淑柔嘉婉麗慈愛謙
冲珩璜綴節綦組維功寵專萬乘教被六宮亢恩易失至美難終嗚呼
哀哉屬

孝宣奄促於僊遊戾玄寧躬嚴於時祭攀鼎駕以何階悵瑤齋而永閉
雷雨之澤不流霧露之憂莫濟蒼梧之戀兮徒冥茫素奈之謠兮類符
契暮景遄臻韶容告逝嗚呼哀哉垂懿範于層城之下散淑風于大邦
之間塗椒之屋兮闔其戶供桑之室兮空其壇極朝家之愴悼動戚里
之傷歎啓攢于別殿歸引于他山嗚呼哀哉世事去兮若驚塵年光度
兮如流水從宴樂者思北園以無期守禋祀者望西陵而易已闋梓梓
兮迨五十年隔松阡兮嚮二百里嗚呼哀哉彼定命兮既往此飾終兮
可追列太廟之遺像兮婉爾其質存曲臺之舊册兮煥乎其辭想
興皇留囑之語兮有靈而潛知謂

聖宗誌記之地兮有時而同歸爰徇僉與之議方陳從合之儀嗚呼哀
哉帷帟封路兮日影重簫鼓鳴郊兮風韻咽逗古陌以淒霜駐空林而
慘月當初之夜壑孤藏今夕之逝川共閱鑰固泉扃沉寥闕嗚呼哀
哉永恨消兮天梯之曲香魂來兮慶雲之陽人神協意兮靡瀆
祖考降祉兮無疆惟餘芳之藹藹與地久兮天長嗚呼哀哉

略解 仁德皇后ハ聖宗ノ正皇后ナリ。道宗ノ大康七年十月八日永慶陵ニ遷葬セルモノ、一切ハ遼陵

石刻集錄(卷第三)及ヒ遼居雜著(乙編三)ニ詳カナリ。縱三尺八寸五分、横三尺九寸五分。

二十三 撫順・尊勝陀羅尼經幢 遼・大安四年(皇紀一〇七八)

哩□□弟□

里林弟薩□

三□□□□

親□縛怛他□□三

濕□娑地□□□□

沒地野沒地野尾□

野尾沒地野冒馱□

沒馱野尾沒馱□三

秋□薩縛坦

多□哩那野地

囊地瑟□多摩□

大安四年八月□日建

略解 昭和八年春在撫順渡邊三三氏ガ撫順城内ヨリ發見セルモノニ係リ其ノ形狀ハ小ナルモ其ノ

年號ヨリ推定シテ遼道宗朝ノ陀羅尼經幢ナリ。原石ハ渡邊氏自ラ之ヲ保管ス。

文献 渡邊三三氏著撫順ノ遼代石經幢(奉天圖書館叢刊第十四册)

二十四 平泉遼相國賈師訓墓誌銘 遼・壽昌三年(皇紀一〇九七)

篆蓋 大遼故相國武威賈公墓誌銘十二字三行

故同中書門下平章事致仕贈侍中賈公墓誌并序

守太常少卿前知臨潢少尹騎都尉賜紫金魚袋 張可及奉勅葬

朝散大夫尚書吏部郎中史館修撰賜紫金魚袋 楊□□奉勅撰

公諱師訓字公範其先出於周之同姓之國春秋時有賈季賈華代爲名族至兩漢諱山捐之遼琮之輩以儒學政行發名於世晉唐間充耽致位將相其後有游仕于渤碣之間者因籍爲燕人子孫相繼衣冠不絕至公之七代祖曰夢殷爲盧龍軍節度判官盧龍君生道紀爲營州刺史檢校司空司空生高祖曰去疑先仕後唐 我大聖天皇時奉使來貢因留之俾督工役營上都事業遷將作大匠累拜始平軍節度加檢校太師賜号□□奉國保定功臣後薨於鎮曾王父諱岳乃太師之仲子也朝廷以其才望爲民所推服詔起家繼領始平軍事遂家于遼入充遼濱縣貫王父□□至顯州觀察判官以公貴贈彰國軍節度同中書門下平章事王母沙氏追封韓國太夫人父諱□少力學有行喜闢施體兒偉異年十六□□皇帝幸顯陵見之召入近侍以太夫人在懇丐歸養得請竟終于家贈昭義軍節度兼侍中母沙氏追封魯國太夫人方有娠有異僧見□□之曰當生男必大貴夫人陰志之後果生公七歲能誦書作詩十歲皇考侍中以兄泳偪異籍又欲奪其善分憤不得已將訴之官公侍側曰富貴皆丈夫所力爲豈必繫先業之有無也願大人亟與之侍中奇其言

恣兄所取年十四舉進士由鄉解抵京師丞相杜中令駙馬侍中劉公召□之文成更相稱愛將議
 聞上以事齟齬遂寢十九試禮部奏御三十有五登第授秘書省著作佐郎調恩州軍事判官
 既至有以盜馬□人者人不之知後為其主執之送官辯驗事連假主假主懼不服公廼潛捕其
 家牧兒詰問得實引質之始伏其罪京守聞其能每有疑訟付之辨析必白丁太夫人憂卒哭充東
 京麴院使營督公課綽有餘羨時秤吏董猪兒得幸北樞密使乙信沽勢日索官錢二千人莫敢禦
 公至即不與猪兒憾公累以惡言挑之公不校乃自以錘折齒誣公公禁益切遂止服闋授奉玄縣
 令改錦州永樂令先是州帥以其家牛羊馳馬配縣民畜牧日悉隸僕視肥瘠動撼人取錢物甚為
 姦擾公至縣譖諷民使訴之其始至者一二人公叱左右逐出之其次至者十數人公又叱之不顧
 其後得人三百人告公遽署其狀白州州白其帥帥懼促收所俵家畜以還倉卒之際至有遺漏為
 貧民獲者亦衆其帥竟不敢言又朝廷下教俾撤沿海置公承教曰天生之物所以資民食之不給
 也民得漁取所以濟農力也何害之有因緩其禁而民悅便之入為大理寺丞持法彊固不為權勢
 沮奪轉太子洗馬補中京留守推官在故侍中彭城劉公雲之幕日直其事裨益旁午後屬乙信代
 為居守乙信自以前在樞極權震天下每行事恣一不顧利害諸幕吏素憚皆隨所倡而曲和之
 公獨不從乙信怒憤公曰吾秉朝政道二十年凡一奏議雖天子為之遞接汝安敢吾拒耶公起
 應之曰公縮符籙某在幕席皆上命也安得奉公之勢而撓上之法耶義固不可乙信知不能屈
 輒從乙信又以嬖人善騎射署為境內巡檢公爭之不從未已乙信被召再入為樞密使將行寮屬
 餞之都外酒再行公前跪力白巡檢事不便乙信歎服遽為之罷朝廷知其才召入樞府為掾史俾

覆刑曹案簿故宣政殿學士陳公覺素與執政不相能平方被微譴執政緣法將奪陳公翰林之官
 乃潛召公屬之公不許竟論如法再歲知大理寺正加秘書丞奉詔充高麗人使接伴道出乾陵
 故中書令李公仲禧以當路權寵構謫是鎮時其家親舊過門皆縮頸不敢視公往復候謁獻遺一
 無所顧忌李公默器之徙同知永州軍州事既上日夜經畫民事利病奏減其部并隣道龍化降聖
 等州歲供行在役調計民功三十餘萬奏課天下第一上嘉之就拜鴻臚少卿知觀察使事尋詔
 按察河東路刑獄間有曾豪負勢詐良民五百口為部曲數為官□為賤民心不厭而隨反之公伺
 得其情乃召曾豪詰之一言切中其病語立塞遂服因籍其戶還官時同事蕭龍虎歎伏至驛邸易
 衣以謝又人有以死辜被誣為官吏所強撈服者將刑公至審之見其狀有枉再治果得辨而釋者
 數十人以奏簿至中京屬封冊皇子燕國王開宴召授太常少卿樞密都承旨尋扈駕春水詔
 委規度春泰兩州河隄及諸官府課役亦奏免數萬工俄充南朝正旦國信副使比還密偵宋人軍
 國事宜具□□聞上閱乏不釋手者數日遷樞密直學士大安二年授樞密副使右諫議大夫會
 奏事御所有詔遷奚中其部所居漢民四百戶宰相承詔趨出公獨待上問之公前對曰自松亭
 以北距黃河其間澤利潭榆松山北安數州千里之地皆雷壤也漢民雜居者半今一部之民可徙
 則數州之人盡可徙矣然則恐非國家之利亦如遼東舊為渤海之國自漢民更居者衆訖今數世
 无患願陛下裁察上悟其事遂止又以素聞燕京留守府有□□凡都府事无巨細必先閱之
 後行其府置一局諸事連外境情涉謀叛者悉收付之考劾苟語一蹉跌即寘之孥戮亦委是吏主
 之雖□□□□已以洎諸幕職皆不與焉以是吏得專肆胸腹隨所喜惡為人禍福關南之人

側目以視故不待鳩率歲所饋與甚於輸公患之□□□□語其事詳熟□以南北樞密院
通事一人更代爾後其弊寢息是歲穀稼不登四方交請賑復流亡窮餓之民朝議以 上心憂測
不□□□□力言之事多見納故民被其賜者衆進禮侍郎參知政事再扈蒐蹕幸韶陽開宴
上救公進酒願左右曰斯人政行過於宋人□□□□後故相王籍因詔駙馬都尉飲以
扈酒車駕回至涼徑拜刑部尚書中書侍郎平章事加致主功臣公在位直亮不容人阿僻遂爲同
列所忌越□□□□威令大行豪黨懼老姦宿盜不待擊逐而逸他境未幾政聲
流聞 上遣使授尚書左僕射移中京留守將行人皆欄道塞門挽□馬□□□□
莫之能止公俟夜間出翌日號泣而隨出界者數千百人既在道聞京中猾盜朋聚民不安寢公下
車卽督有司盡索京中浮游丐食之民□□□□遣之其老弱瘡疾不能自活者盡
送義倉給養仍勅吏卒分部里巷游徼人或被盜俾償其直浹旬已來關市清肅是時畿內所屬州
縣會□□□□能決者公至府促吏條別其事隨小大皆剖析之无留又擇高年有
行之吏與法官參掌憲律席之座右隨簿所上輒付讞之一日之間斷□□□□
邑大治公以莅事夙夜矻矻不自己事不訖不飲食以寢成疾遂求還政 上聞遷延久之竟以
公病重煩以事遂許之加同中書門下□□□□至誕日遣中使齎物就第以
賜壽昌二年冬薨於中京之里第時年六十有五訃聞 上嗟悼詔贈侍中諡曰靖懿勅將作□周
□復□□□□張可及監督葬事皆官給其費以次年四月十七日藏於南
京勸農縣西德山之陽公爲人剛果峭直有大志□□矯矯自□□□□□□

□□其善善惡惡必使黑白灼晰乎其胸中爲政其始若小煩卒治有裕如治千里之地有毛髮
之害萌孽瘁□□□□□□自固公遽折之曰吾豈能爲
一日之利而賈詬笑於千載間耶其不自罔如此又常謂所親曰吾起布衣□□位□□
則多取人於參副之間太原公以典貢舉□□故相國太原王公言敷方邁樞務國朝舊體宰相闕
□□□□無後人先已之意又在永樂嘗與嚴州刺史姚企回行視其州銀冶之地旁有水曰
海□□□□□□維護也夫人清河張
氏純謹溫裕事公以順畜子孫以愛□□下有法度累封□□□□
故侍中邢熙年次□□□□以幹決聞娶故乾州節度使韓曄女蚤逝生子中孫再娶
□□□□適將作少監三司戶部判官李君謙其次適秘書郎周必慶□□□□
□□□□□□

正匪權行	詔無所應			
一有一無	皆政之病	公其挺	慮內定	沛焉矢之
法中于事	時無不宜	几厥	烈烈	百僚之師

妙相化身從地出 慈尊移步下天來 向非師智巧經度 誰識藍田舊玉材
 昔年避地別燕臺 今日因人信美哉 貞性果期成妙相 辟容元不降凡胎
 燒殘灰劫無凋朽 拂盡銖衣任往來 二像端嚴傳萬世 法門師匠肯遺材
 觀書殿學士翰林學士行尚書禮部侍郎知制誥 馬元俊和
 天慶寺前一片石 造成觀音神在哉 八萬由旬妙高骨 三千世界明月胎
 潛救衆生苦惱去 默傳諸佛心印來 十首新詩讚功德 等閑難繼貫休材
 中大夫昭文館直學士知御史中丞開國侯 劉 瓌和
 久遺貞石混纖埃 二像特鑄事卓哉 順俗慈悲須假相 出塵神力亦非胎
 紹名早授昔師記 救苦分臨末世來 蓋世性堅無變易 會逢高鑿豈淹材
 度支使金紫崇祿大夫行尚書禮部侍郎 史仲愛和
 遺脫貞珉在地臺 高人識辦事奇哉 造成補洛山中像 不假摩耶腹內胎
 種種形容何處現 巍巍神力此中來 荒吟讚頌陪諸彥 輕重纖莖擅巨材
 乾文閣待制史館修撰 曲正夫和
 塵埋雨漬近樓臺 久棄通街亦命哉 今日方成白玉像 昔年誰議紫金胎
 人存果驗功須濟 物極終知泰自來 元自御碑當未建 四分材內一分材
 朝請大夫守秘書監開國伯賜紫金魚袋 王執中和

堅珉刻像降蓬臺 敬禮瞻容睟美哉 救難龍魚鬼與火 度生卵溼化兼胎
 侍多諸佛未聞見 善應諸方無去來 足表英雄心匠力 隨根通變不遺材
 南面統行宮都部署 尚書吏部員外郎 于復先和
 玉像鑄成置寶臺 威嚴神在嘆奇哉 身披雪氎凝山谷 眉放虹光剖月胎
 相好盡疑如化出 慈悲重爲度生來 向非大士垂精鑿 應被凡工作礎材
 前樞密院吏房承旨行殿中少監 王仲華和
 峯雲披霧下峯臺 歲久還逢藻鑿哉 相爲應根方有像 性因絕垢自無胎
 琢磨迥出三身外 具足非從一日來 萬法皆由人即顯 空門觸物願同材
 朝議大夫知制誥國子 孟 初和
 瑞毫輝映紫金臺 鏤石尊容煥赫哉 山卷碧雲呈玉骨 水搖白月晃珠胎
 一枝楊柳光嚴住 百寶蓮花影像來 珍重吾師承道蔭 義林高聳豫章材
 夔峰久剛滯留臺 塵履方能遇鑿哉 應手刻成白玉像 化身免托子宮胎
 初疑入夢補陀去 又訝隨緣震旦來 從此辟客日瞻仰 億年不朽表良材
 司農少卿知度支副使 楊滌瑕和
 誰認昏蒙明鏡臺 吾師智見大雄哉 偶窺片石非凡相 特命良工刻聖胎
 救苦盡隨威力去 欲求必應願心來 從前高士有多少 不識白山一分材

守殿中少監知析津縣事 李師範和
 相貌巍巍佛力裁 立承瞻奉亦時哉 誰知韞玉貞頑質 自是觀音應現胎
 天慶門前遺舊隱 補陀山內恰新來 幽巖此石知多少 不遇知人是不材
 和雲巨石拔沈埋 鑄作觀音□□哉 營自師心分異體 出由山腹□□胎
 端凝相在生羣喜 堅固身存□□來 遭遇若非大龍象 不過爲□□□材
 何代何年棄此臺 因人得用□□哉 他山原作谿雲伴 今日翻成□□胎
 只見威儀隨相現 不知示□□□來 若非早入名師眼 猶被塵□□□材
 誰刻貞眠在寶臺 威神之相□□哉 補陀山下白雲骨 極樂天中□□胎
 能遣衆生憂患去 可令千種□□來 十篇所贊神通力 方見吾師□□材
 殿中丞直史館 張 嶠和
 青松影畔昔爲臺 大器今方□□哉 拂盡暗塵披素質 鑿開諸相□□胎
 圓明獨對靈珠現 溫潤常含□□來 歷劫定隨宏誓在 吾師能□□□材
 御運當時自隗臺 豐碑餘剩□□哉 得逢大智鑄成像 益表中心□□胎
 左承制閣門祇候 韓汝礪和

塵骨亂隨金鑿去

珠光新入□□來

已聞紀社招吟客

盡是皇朝□□材

崇祿大夫檢校司徒辯慧詮正大師賜紫

沙門 善 □□

巍然獨立絕纖埃

相好奇哉復□哉

因覩工移珉作像

方知凡與聖殊胎

垂恩未省懷悲喜

救苦何曾覺□來

講經法姪

沙門 性 連 □□

神姿刷就置層臺

儼雅威靈衆異哉

實智已圓千劫相

權儀不許四生胎

用興體密復還往

定闕悲深去又來

積歲未成英匠別

也當遺夢曲□材

資講僧 沙門 性 鑿 □□

枕道常爲避暑臺

偶然易質大驚哉

鑄成月面舒蟾魄

斲就珠毫露蚌胎

龍岳應緣期日往

鳳都乘運出塵來

若非英鑿能如此

千載湮沈謂不材

略解 玉石觀音像ハ朝陽縣城ヲ距ル西五十里昂吉山附近ノ天慶寺ニアリ、高七尺周圍五尺ト云フ。

唱和詩ヲ刻セル碑ハ高五尺、二十五家ノ唱和詩ヲ刻ス。欽定熱河志(卷八十一)ニ天慶寺、在臥佛

寺下四里遼時建康熙十七年修寺有石胎觀音立像高七尺圍五尺有奇遼壽昌五年沙門智□等唱

和詩石刻尙存碑高五尺跌半沒、土中字跡微泐篆額橫鑄玉石觀音像唱和詩碑九字詩以次列分四

截云々トアリ、未ダ拓本ヲ見ズ由來此詩ハ欽定熱河志承德府志遼文存塔子溝紀略ノ記述ニ各

出入アリ、本文ハ欽定熱河志ニ據リ且ツ各文ヲ參照セリ。

文献

欽定熱河志(卷八十一)承德府志(卷二十)塔子溝紀略(藝文二)遼文存(卷一)朝陽縣志(卷七)寺廟五(觀二十六)藝文二(藝文二)

二十六 林東道宗仁聖大孝文皇帝哀册文

六〇

遼·乾統元年(皇紀一七六一)

篆蓋 仁聖大孝文皇帝哀册九字三行

道宗仁聖大孝文皇帝哀册

經邦守正翊贊功臣開府儀同三司行尚書左僕射兼門下侍郎同中書門下平章事

監修國史知樞密院事上柱國趙國公食邑六千五百戶食實封陸佰伍拾戶 耶律儼

撰維壽昌七年歲次辛巳正月壬戌朔十三日甲戌

大行天佑皇帝崩于詔陽川行在所徙殯於僊遊殿之西階粵乾統元季六月庚寅朔二十三日

壬子將遷

座于永福陵禮也穆駿不歸軒龍已陟萬國悲聲兮猶喪 考妣七月期近兮俄營陵域彫輅轉

麟襄儀翼翼三奠終撤百靈慘惻 孝孫嗣皇帝延禧仰成威明承繼社稷感象物以號泣恨

僊遊之冥默追錄其功兮異世使望欲報之 恩兮昊天罔極爰 詔輔臣具銘

聖德其辭曰倚歟

聖元天帝之孫蕩海夷岳旋乾轉坤經營草昧掃滌妖昏宏圖善繼盛德益尊已卜萬祀方傳

八葉宇宙惟清日月相接綱要修整聲文暉暉一統正朔六合臣妾清寧將末姦孽潛生蜂蠆奮

毒雷霆振驚幄騰瑞氣幕見神兵醜類既勦 皇階益亨禮祠

先廟神靈來格孝養

長樂敬恭無斃朝陵幸邑建號加册天旋雲被風施雨澤高穹乃眷景命惟謀天日奇表笙鏞

德音務農重穀抵璧捐金洞判邪正詳觀古今輟寐夜分忘食日昃決柔象史發號占渙天人分

際 帝王條貫觸類鑑照乘權電斷一十三次選士懸科官材械樸育善菁莪五辰協運九序興

歌亟翔丹鳳迭變洪河 睿思敏麗 宸襟洞達沛筑高唱薰琴閒發刑憲三千惟務全活師徒

百萬不喜征伐敦睦親族駕馭英雄累開赦宥數賑貧窮人心自樂地利常豐聲猷普暨教令遐

通鯨海之東鯤溟之北若木西荒桂林南側遠近庶邦強弱諸國占風効款慕義述職頃以汙寇

侵 子夏臺包藏貪噬勝敗往來垂二十載傷生蠹財 詔命一至煙塵兩開蠢爾韃韃自取凶

滅擾我邊陲萃其巢穴上將既行奇兵用設即戮渠魁群黨歸悅奠枕於京垂衣而治七曜齊正

百嘉蕃遂嶽貢川瓊地符天瑞赫奕難名紛綸畢至時遊江渚或獵雲峯威稜震疊逸豫從容

大聖射法

人皇書蹤妙該玄理博達空宗 上性自然生知不學瞻形繪像調律修樂 君臣宴會內外

恩渥禮文若古制度復朴奸邪屏逐朝列肅清冤憤咸雪 昭懷正名臨朝四紀御世一平化流

廣夏福庇群氓憂勤茲久勞倦興寤 燕國英明決其傳付冀泰宇之不撓保長年而克固

元孫牢讓勉臨庶務難求堯聖之高蹈遽迫崦嵫之已暮俄撫几以有命遂遺弓而忽去徒云呼

歲之祥虛紀夢齡之數嗚呼哀哉封人祝兮雲且至杞國憂兮 天乃崩欵風號而景珎紛雨哭

而愁興形庭寂寞兮無象。寶座深嚴兮空有憑鏘挽鐸以伸戀灼靈龜而告徵嗚呼哀哉先
 遠屬期同軌皆會隨屢輅以殞涕仰龍輶而心碎淒肅肅之仙儀慘悠悠之神旆蒼山空兮晚籟
 吟白日澹而寒煙晦嗚呼哀哉駐春蒐兮尙邇變夏節以將闌行且暮兮慶陵下望如朝兮
 聖廟閒去華闕兮茲邈即泉宮兮不還紫箎收兮曲聲闕綠驥留兮轍迹閑霧幽凝兮漠漠溜哀
 瀉兮漉漉植重林兮露泫泫殿兮苔斑觸物類兮黯天意想威容兮悲聖顏嗚呼哀哉維
 蒸民之所歸須大人之有作乘時而出也天曆爰在極數而終也神器是託大葬之制舊章
 用度鄙珠玉之華侈尙甄陶之儉約闕清暉兮幽默置洪業兮盤礴別垂理世之謨訓昭示
 嗣君之矩矱被雅頌兮洋洋煥編兮灼灼庶延亘於無窮自遐揚於景燦嗚呼哀哉

略解 壽昌七年正月十三日道宗皇帝ガ詔陽川行在所ニ崩ズルヤ天祚帝ハ其年即チ乾統元年六月二

十三日之ヲ永福陵ニ葬ル。漢文哀冊ト共ニ契丹國書ノ哀冊アリ、學界ヲ驚喜セシメタルモノ
 ナリ。漢文哀冊縱橫各四尺四分、契丹國書哀冊縱橫各四尺一寸五分ナリ。

文献 遼陵石刻集錄(卷第三)遼居雜著(乙編三)

二十七 林東道宗宣懿皇后哀冊文 遼・乾統元年(皇紀一一七六一)
 (西紀一一〇六一)

篆蓋 宣懿皇后哀冊六字三行

宣懿皇后哀冊

樞密副使崇祿大夫行尙書戶部侍郎修國史上護軍

清河郡開國公食邑二千戶食實封貳伯戶臣 張琳撰

維大康元季歲次乙卯十一月己未朔三日辛酉

先懿德皇后崩于長慶川旋附殯于 祖陵即以乾統元年歲次辛巳六月庚寅朔
 二十三日壬子將遷

座于永福陵禮也國路風沉郊門雲起月屬建未時將在癸協龜墨告吉之兆應
 龍攢啓行之始 六衣卷兮收黼帳三獻終兮撤祭簋望望而哀仗森鬱搖搖而素
 旌披靡當時

僊馭去復去兮殊途今日 彫軀行復行兮同軌松楸泣露以何限簫笳鳴空而不
 已 孝孫嗣皇帝延禧哀哀思報戀戀增傷仰順追懷之 遺旨特從 合祔

之彝章 玉謚流輝于殯殿 殊襦掩藻於玄堂白日度兮時易改清缸凝兮夜不
 陽 音容永訣年祀何長欽惟 冠古之

聖善豈可隨時而消亡爰承嚴 詔俾讚 餘芳況盛事難窮乎銘紀故小善不足
 以揄揚其詞曰昔惟

聖人配茲

令德升在中壺來從外戚祥剖石字 位膺天極玉璽疏寵 象服增飾贊助大化

啓迪內職 權不躡而婉麗貞仁 性不華而沉潛剛克早熟 令訓夙挺 英資

蓋斯集慶樛木均 慈處金屋之富而守以約素同 天王之尊而務在謙祇以 恩結民心民心皆樂乎子育以 身教天下天下咸遵

乎 母儀貴不自驕 尊不自滿 陰教大布女圖茂纂詠 淑懿於河洲筆 勳庸於於管所 居者椒掖所 馭者丹駢所 戒者詖謁之志所 絕者私溺之

權 含章于內香蘭芊芊 發秀於外飛霆闐闐照之臨之 明可助 日覆之載之 柔能配

乾周如齊 仁殷莘比 聖簪裾帷帟必從于制度管絃絲竹貴合於雅正 文章 非學至之然 佛法本 生知之性靜修蘋藻動節珩璜儀形 祖禰軌範嬪嬙可

更延於 壽曆何遽返于仙鄉悲纏 聖母愛慟 元良龍遺駒兮婉轉鳳唳鸞兮翺翔痛何言兮神道嗟難諶兮吳蒼鳴

呼哀哉坤紀斷維月輪覆轍陵域暝兮苦霧暗山楹寂兮流泉咽萬籟暗鳴百靈慘

烈嗚呼哀哉銀海湛蛟函影沉珮釘鐘兮無復聽雲車縹緲兮何處尋 聲雖 不聞六宮側願聞之耳 形雖不見九族傾將見之心時不來兮杳隔霄壤事已往

兮空成古今嗚呼哀哉樹蕭蕭兮秋巒草萋萋兮春渚皆從來 巡幸之地盡伊昔 宴遊之所 靈跡何在 慈顏如覩嗚呼哀哉載念 寵渥夫於姦臣青蠅之舊污 知妄白璧之清輝可珍如金石之音默而復振如鏡鑑之彩昏而復新茂集 徽册

緬播 芳塵庶乎千載之下望 神華於闕宮兮驗 聲實於哀文嗚呼哀哉

略解

宣懿皇后ハ大康元年十一月三日、俗官趙惟一ト私通セリトテ死ヲ賜ヒ長慶川ニ自盡ス。後宣懿皇后ト追諡サレ乾統元年六月二十三日永福陵ニ遷葬サル、道宗皇帝ト共ニ契丹國書ノ哀册

アリ。漢文哀册縱四尺横四尺五分、契丹國書哀册縱三尺九寸七分、横四尺三分アリ。

文獻

遼陵石刻集錄(卷第三)遼居雜著(乙編三)

二十八 義縣太和宮副使耶律弘益妻蕭氏墓誌銘

遼・乾統八年(皇紀一七六八)

故齊國大王孫前六殿詳穩太和宮副使耶律弘益妻蕭氏墓誌銘并序

大遼建號乾統八禩孟秋冀生三葉夫人痼疾終於顯陵之南是時皇家哀切國族痛傷子孫兮流涕如淮僕隸兮酸心若錐日月暄然而失色星斗鬱然而不輝雨霏霏而降長天宛同戾迅雷競競而奮厚地甚若哀鳴鳥雀外聲人倫黯竊以翼聖學罔究才儒門末胄特承諦請所有美敢不記之且夫人蕭氏名彌勒女始承聖獎授夫人之命則以異服色於倫常者也故母即因八公主是也故公主是聖宗皇帝孫興宗皇帝姪道宗皇帝妹今天祚皇帝之姑也乃夫人者皇之親也夫人處女

之際月娥逸態星婺殊賢秉五常之性執四德之維夙彰訓子之規殊有事親之禮故美譽遠延休稱遍達其則太和宮使耶律弘益婚侶道契嫁述之禮通鳳鸞翕爾以和鳴絲蘿峴龍而締結始於願期終比於松柏忽變爲凶志各分於蓮禮夫人年五十有四而於命也以當年九月十四日癸時遷其夫家曾主所塋之地其日春山可詔聳萬仞之龍岡壯千尋之狼水也儀準克全形勢必備所有四子長男蘇那護衛將軍次子高什鉢季子有福皆以若麟趾之振振如棠華之鞞鞞室女一名骨捏以年纔佩鞞妙及笄初遞全孝思之心未果從人之禮又況夫人幼以履仁長而近善筵僧營佛莫盡其稱量育老賑貧孰測其涯濼造次而註想佛國斯須而留心聖經是皆天生之異相證聖之大端者也翼聖乃重構瑄才換遺烈謹爲銘曰

國家枝派 皇王宗親 夙鐘淑善 素習真純 動用異俗 猷爲絕倫 忽以染疾 俄而殞身 子孫泣血 宗族黯神 瑩枕翠巔 勢達厚土 左置青龍 右分白虎 儀禮大全 形勝特處 暫啓壽堂 長封幽戶 恨鄉仙兮一返 空朱扉兮寂寞 命瑄土兮誌斯文 亘芳猷兮億萬年

略解 義縣志三光緒十一年夏六月義縣城北四十里ノ盤道嶺北山麓ヨリ出土セル事ヲ載スルモ其ノ原石ハ既ニ所在ヲ失シ今尙ホ不明ナリト。又縣志ノ編纂ニ當リテハ拓本ニ據リタル由ナルモ其ノ拓本モ亦見ルヲ得ザルナリ。

文獻 義縣志(第十七冊中卷藝) 文志下八十九

二十九 朝陽興中府安德州劔建靈巖寺碑銘

遼・乾統八年(皇紀一七六八) 西紀一〇〇八

興中府安德州劔建靈巖寺碑銘并序

朝請大夫守殿中少監知安德州軍州事

上騎都尉涑水縣開國子食邑五百戶賜紫金魚袋 耶律劬撰

僧 恒 劬 書 并 篆 額

伏聞大雄示化肇興五竺之邦像法定期實屬千年之會漸流通于震旦迥超越于古初三乘遞行一雨溥潤我國家右文敷治偃華革濟時繇數路以取英翹振儒風於當代闡二宗而尙禪定傳佛燈於有生廣樹仁祠大宏慈蔭安德州靈巖寺者北連龍岫前俯郡城溪壑幽深峯巒掩映天然勝槩斗絕於一方宛爾道場廓開於十地統和中有山主僧可觀與其同志幼爲縣吏各負逋租亡命此山共逃篋楚後借追捕同付獄中數日幽囚桎梏自解尋免徵錄因遂出家卜築結菴專精戒律壽考遷逝靈應睚蠱太平五年復有邑里趙延貞王承遂張瑩焦慶等三十有三人狀施烽臺山四面隙地以廣布金之淨域遠模靈鷲之風規增大給孤之園益茂耆隴之樹年禩寢久徒衆漸墜重和初元有郡人雄武軍節使太原王公育與邑人尹節高聳等禮請悟開上人住持經始營葺僧衆蟻附工徒子來殿宇巖爾以有年錢穀豐衍而不匱果畢能事全付後人僧伽實繁悉萃六和之淨

侶達摩無親固乏三藏之祕文重和二十二年有寺僧潛與悟開上人鳩集淨財締結信士與邑人尹節李敬張士禹高聳等購經一藏用廣流通二十四年建九聖殿以龜置焉繪像煒煜而嶽峙內藏巖業而雲蠹經律論學揚法海之驚瀾上中悞根逗塵機於來哲清寧四載特賜淨覺之名咸雍六年復錫靈巖之號居然闕遠迥出塵表故得水雲上士龍像名流覽境界之清虛駐錫而棲止有閩山懺悔守司徒通圓慈行大師志福遊憩於此以其闕鐘杵之音失晨昏之警飛奏為請天旨下俞徵良冶于遠方質精銅于異域鑪橐一鼓大器告成逸韻疊擊而豐隆林薄四震於幽邈設簾為飾構樓以懸壽昌初元歲次己亥復建大殿以做法筵楹柱撐空檠檠蔽日輪奐克成於大壯清淨特備於寶坊羣峰巒岼而繚若垣墻諸塔聳峻而勢同湧現禪房自通於幽處講座屢雨其天花今天子即位之二年有守太師通圓輔國大師法願者久萬人天之譽蔚為帝王之師衆僧懇請遂居是寺人對境以心冥地因居而名著師因精選道行得長老惠敬付以寺事提綜不倦勤瘁歷年建置悉親於周圓儲蓄益臻於羨積劬恭膺詔檢恪守郡符志慕佛乘誓求法印時因暇日屢叩禪關有清行大德賜紫沙門奉檀寺主沙門行柔等語其權輿見託紀述學慚博雅夢無白鳳之奇詞愧疎蕪吾乏黃絹之句牢讓不獲謹為銘詞銘曰

佛承廣運	慧日映時	法膺象季	溥建仁祠	世蒙誘導	教被方維	福濟含識
學法有為	偉矣靈巖	豁然林壑	斗遠流俗	高視寥廓	境淨心冥	解脫纏縛
以致名流	茲焉棲泊	鐘梵時警	薰修有常	覺林並茂	禪院滋芳	瀉山圭峯
聊可比方	居者得趣	世諦頓忘	息乃塵紛	味茲幽閭	清淨悉同	過現無別

直書初終 讚揚洪烈 刻諸貞珉 永告沙劫
 乾統八年歲次戊子九月朔庚申日建

碑陰

僧 恒 劬

伏聞調御開化如鳥曇華聲教四流沃浹萬彙恒劬嘗啓宿願趣直林家雖不能發明心華密佩祖印幸以雲水且樂無事乾統六年春憩覺華島秋露再沍振錫北游祇斯精舍尋沐居僧狀請棲息有諸耆耄議及締構自統和中苾芻可觀經始其謀以次肯堂遂至宏敞請文于石庶傳不朽遽采他山之石宛具螭首龜趺之狀於是郡守耶律劬作文沙門恒劬書篆時不踰月爰于中庭余兄文學之外尤精小篆得秦相李斯洎唐李陽冰之法校其工拙亦不在下寺僧有好事者求少筆跡留之碑陰云

略解

遼代ノ靈巖寺ハ朝陽縣東南ノ柏山上ニアリタルモ今ヤ寺既ニ廢シ碑ノミアリト。欽定熱河志(卷八十三)ニ「靈巖寺 在三座塔東南柏山上……咸雍六年賜名靈巖寺……今惟乾統八年戊子碑尙存」下アルハ是ナリ。未ダ拓本ヲ見ズ亦現狀ヲ知ラズ。

文献

欽定熱河志(卷八十三)(卷一百一十八) 承德府志(卷二十六) 塔子溝紀略(卷三十一) 遼文萃(卷二) 朝陽縣志(卷七十一)

三十 朝陽釋迦定光二佛舍利塔記

遼・天慶二年(皇紀一一七三)

七〇

釋迦定光二佛舍利塔記

講經律師慧材撰

竊聞三千化寶百億雄尊復往之迹以無垠方便之門而莫限應願榮辭天界權儀降誕於王宮
我而示倦龍庭默默而優游鳳苑翠眉□返嚴駕驂迴老病死苦以因觀法報化身而是慕奢華涕
厭午夜逾城苦行石堅六年修道浴泥恒河已赴菩提樹來斷障降魔既登於佛果垂慈應請乃轉
於法輪始從鹿苑終至鶴林時經四十九年教演一十二分所應度者皆以隨宜方便度託其未度
者亦已與作得度因緣顧此土之緣周念地方之化益於是就力士生地之內詣堅固樹林之閒足
南首北背東面西以足枕肱現四儀之究竟收心住定示八象之窮終金口緘以絕言王毫掩而□
綵四生之主悲摧凡聖之心三界無依哀變乾坤之色堅勞之壽既已云亡金剛之身故亦是壞閣
維訖於寶樹舍利分以金罍爰興宰堵波以利薩達囑育王西出□□八萬四千隨帝東臨並造三
十六所於凝固之道體雖□然不然而轉變之化身亦法爾宵爾是以□□之刹土咸建多□之塔
婆垂青蔭而廣大施慧燈以遐延凡以興一供之因定剋千生之果粵有□□□重和十五年陶
冶甄鑄鐵塔一所立十三簷亘二百尺往往夜晦屢放紅光福常住以豐肥祐上下而和陸邇後展
討殿宇建置堂廊每嗟佛壙閃於南陔大衆僉議欲移中央卽有惠行大德潛資義倉提點雲敷其

捨淨資一千緡矣其諸釋俗量力施錢共四百千用充功費尋擇良辰亦得吉卦斥至千簷獲定光
佛舍利六百餘顆至地宮內獲釋迦佛舍利一千三百餘顆再選定四月八日午時依舊如法安葬
竊以慧材狼山冗學龍苑庸夫輟扣瑣材聊編盛事伏願三乘五性承茲乃共捨羶軒七趣十生仗
此乃同登獲駕更願陵遷谷變懿範不凋地久天長微猷永固云爾

天慶二年壬辰四月八日丁亥朔八日甲午時葬

略解

重熙十五年ノ鐵舍利塔記ト共ニ出土セルモノニ係リ、欽定熱河志(卷八十二)靈感寺ノ條ニ又土

人當掘地丈餘見地宮一所周遭嵌列碑文中有釋迦定光二佛的舍利塔記遼天慶二年講經律師

慧材撰トアリ、塔子溝紀略ハ舍利塔遺碑トシテ本文ノ後半ヲ載ス。原石ノ所在不明且ツ未ダ

拓本ヲ見ズ。

文献

欽定熱河志(卷八十二)(卷九十八古)(卷一百一十七)塔子溝紀略(卷二十一藝)(遼文章(卷四)承德府志(卷五十七)藝文四)

三十一 平泉李祐墓幢記

遼・天慶三年(皇紀一一七三)

大遼惠州西城東廂業農隴西李祐伊人夙稟貞純生全淑善心無改於歲寒志恒存於忠孝乾統
九年九月二十一日寢疾而傾逝春秋六十五偶妻李氏所育三男長男業經沙門僧元才次男忠
益少男忠言復生三女長女謝哥適彭城劉孝仙次女勝哥少女禪哥天慶三年九月二十五日癸

七一

卯遷葬於歸化縣壽山之陰不彫不畫不廟不碑不傷財不勞力唯立聖言幢一坐高一丈五尺八隅一層上覆下承死日業經沙門僧元才等所建也命鄉貢進士李忠益爲記既死因書二四句偈讚云

斯人既歿 風躅猶存 出言有則 盡孝堪論 勒名□□ □□□□ 惟曰崇善 慶流子孫

略解 熱河省平泉縣北舍利輝棚欄營子ノ喇嘛廟内ニアリ八面俱ニ字ヲ鐫シ半バ梵字ナリト。承德

府志ニ幢存在州治北舍利輝棚欄營子喇嘛廟中幢八面俱鐫字半是梵書經語不能識トアルハ是ナリ未ダ拓本ヲ見ズ。

文獻 承德府志(卷四十八)遼文萃(卷四)八七。

三十二 朝陽興中府靈感寺釋迦佛舍利塔碑銘

遼・天慶六年(皇紀一七七六)西曆一一一六

大遼興中府靈感寺釋迦佛舍利塔碑銘并序

和龍僧悟照字育物書并篆□ 新授尙書都官員外郎遼西路錢帛判官 張嗣初字 撰

夫塔古無有也本出于浮圖氏自佛教東被始有之是謂佛廟蓋聞不遷者性也恒動者情也緣情

而能有者生也生不可常必至于滅滅不可已復轉于生于此流轉中能解生死之縛而得不生不滅者惟釋迦而已故超然特立于群聖之上可謂天人師者也然大蓋既至終顯有爲故金身示滅當此之際六種震動如須彌傾摧使諸天無所依也嗚呼去聖鎮遠靈跡不無故所有舍利爲八國以寶塔分葬之其數凡八萬四千爾後歷載彌久隕廢者甚衆人心特恐亡墜益復興起之或發諸寶函或擘以玉粒或葺其舊制或勅以新作故塔廟之多跡于是也雖殫其筋力嘗不爲勞然則竭以貨財亦不爲費至若累寶簪絡珠網接雲漢而起嘗不爲高并閭閻夷井窳有郭郭之半亦不爲廣其人心勤厚者有如此者皇朝定天下以武守天下以文太平既久而人心向善故此教所以盛弘凡民間建立佛寺靡弗如意今此塔自太平九年柳城人梁氏之所建也氏兄弟二人長曰守奇夙植善根次曰道隣素弘願力自童子時已有聚沙之戲後果志于出家既受具已大通宗乘先隱於龍岫之一蘭若後爲城中人請居此土一日于鉢中忽出異光不散者久之既而乃得舍利二粒玉彩晶燦不可正視人爭傳載之由是乃舍衣孟特興塔像後求化官長并貴戚暨豪族之家各助以金帛車服或諸珍玩計獲數百萬錢共爲成辦之于是火其磚廣若山積募其工翕如雲合負土于階者若蟻之累垤汲泥于簷者如燕之巢房凡一十三級通百有餘尺珠函之靈瑞以在乎其中觀夫有金撐以銳其上有廣陸以豐其下豈徒然哉我所貴踴出三界而爲解脫之場也有千歲燈以然于內有百煉鏡以懸于外亦豈徒然也我所貴遍照十方而破黑暗之獄也且如風鳴寶鐸盡宣妙法音蟻踐崇塔亦成無上道故一塵所霑一影所復其利樂信不虛矣噫彼土木有穹隆而崔嵬者勿謂我小我有可觀彼金碧有燦爛而陸離者勿謂我儉我儉能中禮愚弗克修述徒止于

此焉復常有光數見或五色氣以覆之因上聞之以精誠有感故靈應必通乃勅其寺曰靈感寺至大安中有先師之弟子通教師賜紫沙門恩整重修以潤色之二先師者蓋愚之祖母故河南太君伯父也塔初成日我先人常欲親志之而不意早歿故弗克逮言今通教師素與我先人有甥舅之愛每一見必以此事爲託師既誘我以先人之志能弗繼之我復感師念先師之德可弗述之此乎蓋亦甚幸其肯構也故不敢讓乃強爲記云其頌曰

既生必滅 唯生不遷 不生不滅 唯佛能然 金身雖往 靈跡可傳 舍利所至 塔廟興焉 在昔所建 八萬四千 益遠益敬 至于無邊 凡厥願力 非小因緣 有僧梁氏 獲此舍利 千佛共與 一日自至 鉢中有幢 玉利者二 苟非精誠 格茲靈瑞 乃金衣孟 願作佛事 以清淨心 置琉璃器 藏此塔中 以福萬世 後有門人 以增以新 長令淨白 不生埃塵 敘我以舊 託我以文 乃強爲述 肯吾先君

天慶六年歲次丙申八月壬戌朔甲戌十三日丙時建

先君朝散大夫守少府少監甜水鹽院都監前知東京警巡使

兼遼陽府少尹特進清河縣開國男食邑三百戶驍騎尉賜紫金魚袋 張 檢

建 塔先師講經律論沙門 守 奇

同建塔弟講經律論通法大德賜紫沙門 道 鄰

東平呂孝貞字子貞刻石

略解

碑ハ錦州省朝陽縣城內ノ關帝廟ニアリ、靈感寺ノ舊址ヨリ發掘セルモノニ係ル。欽定熱河志(卷八十二 寺廟六)ハ靈感寺ノ條ニ在三座塔城內土人耕地得遼碑一爲靈感寺釋迦佛舍利塔銘：遼天慶六年丙申三月下アルハ即チ此碑ナリ、碑ハ既ニ篆額ヲ失シ、且ツ石質脆弱ニシテ上下剝落シ全文讀ミ難シ。出土ノ年代ハ明記スル所ナキモ塔子溝紀略、欽定熱河志ノ記述ヨリ推定シテ乾隆三十八年以前ノ事ナルベシ。碑身高五尺九寸、幅三尺三寸。

文献 欽定熱河志(卷八十二 寺廟六) 承德府志(卷二十三 寺廟) 塔子溝紀略(卷一 五) 遼文萃(卷二 四六) 朝陽縣志(卷七 寺廟八) 灤陽錄(卷一 五) 史學雜誌(第二十一號)

三十三 義縣・城隍廟石經幢 遼・天慶十年(皇紀一一七八〇 西紀一一二〇〇)

第一面

維天慶十年歲次庚子四月辛未朔十五日乙丑日長男松壽今爲亡父特建法幢一坐 次男福壽

第二面

佛言有十三大罪無懺悔者有無動如來陀羅尼一切極重大罪並

能消滅若不滅者我等自代彼有

第三面

情愛諸苦惱若有□發大菩提心

□梵□書於辟上又於服上忽有

觀此陀羅尼生信敬心祈有如五

第四面

十惡等罪悉皆消滅何況一日記

一遍其人增無量福德臨命終時

十方聖衆各特華蓋來迎生於淨

第五面

土佛舒金色臂摩頂授記速成無

上菩提心佛說佛頂尊陀羅尼曰

○○○○○○○○○○○○○○○○梵字

第六面

曩謨婆譏縛帝□□□□始

○○○○○○○○○○○○○○○○梵字

鞞野沒駄野婆譏縛帝惕你他唵

第七面

○○○○○○○○○○○○○○○○梵字

尾戍駄野尾戍駄野娑麼娑麼三

○○○○○○○○○○○○○○○○字

第八面

□哆縛娑婆頗羅拏帝譏諤□

○○○○○○○○○○○○○○○○梵字

娑嚩婆嚩尾林第阿鼻誑右觀熅素

略解 義縣城內城隍廟ニアリ、義縣志(第一冊)ニ八面全部ノ寫眞ヲ載ス。此幢ノ最初ニ建立サレタル地點及ビ之ガ城隍廟ニ將來セラレタル年代ハ共ニ不明ナリ。幢身高二尺八寸三分。

三十四 奉天佛說佛頂尊勝陀羅尼經幢

遼・年代不詳

第一面

真司地主瑱□□□□□□□□童□巳□聖賢諸衆□

願聞啓請悉□□□□□□□□俗□□□□□

□□聽徒□□□□□□□□地上□□□□□□□□

第二面

蠢動含靈作佛□□□□□□□□□□□□□□□□□□
佛說佛頂尊勝□□尼曰
唐開元三朝□頂□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□

第三面

囊談婆識囓□□恒□□路□□□□
□□野婆□□□□你也□他□尾成
□□娑頗□□
□□□□□□□□□□
□□□□□□□□尾林第□

第四面

踰林□_三縛
縛□□□□□
□□□□□□□□
□□□□□□□□

第五面

□□□□□□□□
□□□□□□□□
□□□□□□□□
□□□□□□□□
南无一切世間□□□□□□佛
南无寂德光明佛 南无□□□□□□

第六面

□□南无大慈光佛 □□□□南无慈□王佛 南无□□□□□□
□□□□□□□□ □□□□意佛 南无廣往嚴王佛 南无□□□□光佛 南无□□□□

□□御史武騎尉延則敬爲亡兄延□
念□□□□年六十有二正月二十九日因疾□
以爲記爾叔仁貴弟延珪南面權□
□□□□延□都哥出家弟留□

第七面

□□□□□□□□
□□□□□□□□
林弟薩□□
多三摩濕□
野尾沒地野尾沒地野□

第八面

尾冒馱野尾冒馱野三滿哆跋里林□
野地瑟姪曩地瑟恥多摩
鷓字人張守□王□□

略解

原石ハ奉天國立博物館ニ保管ス、モト熱河省林東ノ遼上京附近ニアリ、鳥居龍藏博士ハ往年之

文献

鳥居龍藏博士著「蒙古旅行」(二八)。
ヲ原地ニ探查シ、第一行壬辰ノ二字ニ基キ遼聖宗時代ノモノト擬定サレタルモ、之ハ年號ニハ
非ラズ、上半部ヲ缺グヲ以テ年代ハ全然不明ナリ。文字ノ分明セルハ第一面及ビ第七、八ノ三
面ニシテ其他ハ原形ヲ止メズ。

三十六 朝陽・佛頂尊勝陀羅尼幢塔

遼・年代不詳

第一面

佛頂尊 奉爲 臨海軍節度
副使夫人宋氏
勝陀羅 龍頭山燃
尼幢塔 身僧惠能建立

第二面

佛頂尊勝陀羅尼啓請 院主西□臺□
繼祖大師門人僧懷論
二稽首千葉蓮花座摩尼殿上尊勝王廣

第三面

長舌相遍三千恒沙功德皆圓滿灌頂聞
持妙章句九十九億世尊宣嬌尸述爲善
柱天能滅亡返傍生路希惣持秘法
藏能發圓明廣大心我今具足是凡
夫讚歎誦持薩婆若願我心眼常

第四面

開□所有功德施群生十方列土指如
來他方北界諸菩薩八部龍天□眷

第五面

屬□□□□□□□□□□□□□□□□
□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□
□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□
□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□
聽徒□□□□□□□□□□□□□□□□□□

第六面

聞佛頂尊勝言蠢動含靈染作佛
讚彌陀佛 竊聞大雄無上演說

第七面

西方佛号彌陀國名安養過十萬
億佛土別立淨方闢廣無邊香花
嚴飾其无量壽佛者加夫月殿手如
五大須彌日如四大海水週廻一國盡
布黃金遠轉花都如鋪碎錦 讚曰

第八面

玉樓銀閣自伏成樂器空中不鼓鳴共讚
甚深三寶德花無彫變色長榮

略解

昭和九年七月、錦州省朝陽縣口北營子附近ヨリ出土、前ニ錦縣滿鐵建設事務所前庭ニ安置セル
モ現ニ奉天、國立博物館ニ藏ス。年號ノ記載ナキモ第一面下部ニ「臨海軍節度副使夫人宋氏云々」
ノ文字アリ、臨海軍節度使ハ遼代錦州ニ置カレタルモノデアリ、且ツ第三面第四行ニ「明ノ缺字」

八六
アリ之ハ遼穆宗ノ諱明ヲ避ケタルモノナレバ此ノ幢塔ハ遼代ノモノト推定シテ可ナラン。
幢身二尺二寸。

三十七 鳳城・石幢連名記

遼・年代不詳

一、甲 幢

郡夫人大花嚴與女花寶 高仁仙妻□□
二衙內永壽妻信真與殿直德信妻寶姐□
孫氏馬濟妻南氏時氏張氏董氏張氏孫氏玉花
衍州刺史銀青檢校□散騎常侍□封開國□食
邑三百戶張守一妻故宋氏宋氏男妻故任氏王氏
男衆僧奴弟福哥前今妻趙氏男可成□妻王氏
紀氏故梁興俊妻謝氏男妻劉氏男佛賜因緣
蘇不捨沙彌故劉廷大□妻任氏故□□□
孟□遠故妻田氏□妻劉氏□□奴故□劉□哥

故岳德璘男妻楊氏男羅兒韓及僧哥□□□
故劉叙妻張氏劉永善妻劉氏六斤福兒小福
劉傳崔氏王氏韓化李氏□花張氏鄭用趙氏
王岩許德侯吉孟景揚佐張文略揚氏□兒李氏
李氏智敬李方王遇賢留王氏李氏□□集

□□張□韓氏楊氏□□男文則妻史氏
韓□高泰□李氏高□李□□□□□
劉允李氏□□王氏□遷李氏□□□□

韓氏孔□劉閏胡守寧王紀劉氏高□□□
釋奉成路守平劉盃池趙氏劉勳□氏□□□
□善福張則劉惟宗揚用趙王□□□□□
韓溫妻李氏佟善韓留哥□□□□□
何闌驢劉二王二時□□高從王□□趙□□□
□□王俊資真□□王□□和□□□□□

高翰□周方孟從正王父韓□□□□□
□□□翟□氏男□□□□□□□□□□

龔魏哥何信□□□李友□□□□□□□□

劉友史合德史用昇王景李氏李正□可行□□

梁紉李韓元梁青梁端揚青劉□□□□

周松韓女哥劉家娘梁□史梁繼□□惟□

高博士張賢留崔氏趙方史瘦□劉大哥王翰

李俊妻花麻李□□□□□□□□□□

男丘少女娘花細花□□花李德哥

四軍副都高烏佛□妻周安夫人

二 乙 幢

高福孫正□□李□兒劉正□□□□□□

石志□□知滿李正劉□□□□□□□□

□氏□□□□□□□□□□□□□□□□

李問□興□□□□□□□□□□□□
□平□張□留□□□□□□□□□□
劉□□□寧□□□□□□□□□□□□
李動□□□□□□□□□□□□□□□□

高閏盧董遷□□氏高□□□□□□□
□劉善高貞裴順劉哥李玄李氏□□□
孫智劉信時整邊太盧正□□□張仙
劉餓兒孫家奴嚴青司正時解□□□
孫青孫貞田平時□□孫□許岳兒□道
李□□正□昇□□□孫□李青時□

□□□□□□□□□□□□□□□□
□□□□□□□□□□□□□□□□

禪寂寺智覺大師錢壹貫文運志運□運□□法□
 開泰寺賜紫□□大師施錢壹貫文法詮德□□寂宇道善常非扣
 開泰寺賜紫□□大德施錢壹貫文鑿開□寶□□法宗運鮮省運□性
 開泰寺賜紫報恩大德施壹貫錢文道式□□紹稟□感法朱路□□可成
 開泰寺希圓大德賜紫施錢壹貫文沙門法觀弘寶惠□紹躬智微惠豐
 開泰寺精修大德賜紫施錢壹貫文三學寺主□行大德□□祕□□□
 禪寂寺□□大師賜紫 三學寺律法師淨業大德賜紫開泰寺臨檀大德紹隆
 戒學院□□大師賜紫 三學寺論法師運志鎮國寺主雄進大德沙門德造
 知光院前成州管内僧政弘教大德賜紫開泰寺講法花上生經□意十方講院嚴淨
 新羅大師開泰寺□□論希見大德開泰寺尙座開教大德繼宗□□
 三學寺□法師詮常大德賜紫開泰寺□□大德繼英開泰寺智閏

鎮國寺前尙座□□大德智雄□□□子□鎮國寺□三沙門□□
 鎮國寺前寺主超悟大德□□沙門□□□

略解 熱河省寧城縣ニ屬スル遼中京遺址(大名城)ニアリ、單ニ寺僧ノ捐資ヲ刻スルノミニテ他ヲ記サ
 ズ其ノ由來全ク不明ナリ。大名城ハ遼金時代ノ中京デアアル、但シ此碑ガ遼金、何レノ時代ニ屬
 スルモノナルカ明ナラザルモ、假ニ之ヲ遼代ノ部ニ置クモノナリ、碑身高二尺一寸、幅一尺五寸。

第三期 金 時 代

三十九 赤峰·靈峰院千佛洞碑

金·皇統三年(皇紀一八〇三
西紀一一四三)

靈峯院千佛洞碑

奉議大夫驍騎尉 劉子初撰

伏聞古人有言曰士以功名爲貴然論事且作事難作事易成事難使天下士皆如言論必作
作必成者其功名豈少哉故成世之所難爲者乃人之真能事也矧茲縣之東南有山曰遮蓋
山背山而嚮溪有道場焉相傳以遼乾統三年有西山院天台法師鑿山穿石前以成殿後以
環洞焉遂卜□此山得名曰靈峯院後遭兵火寺如懸磬迄至

本朝皇統辛酉歲有僧惠學邑司等請中京資聖院僧遵說乃嗣興者實化草萊欲成金碧遠
近居民試往諭之欣然同施人歆其祥於是傾材獻力遂崇成耳各發一念願心匠成千佛石
像自爾一新頗有石國之規模也故不數年而大厦彌山凡所以尊崇經象安養聖賢無不稱
事薄俗嗟曰積弊難振大緣難成非其時不興非其人不能更二世而補破支壞粗合苟完可
謂積弊矣空山之間四旁州縣遠徹故作新費以鉅萬可謂大緣矣靈峯鐘梵非圻應有而驚
動此其興之時也休言屋上蓋屋不知錦上添花未息小大孤疑又須分疎露布子初强慕阜墳
罕窺丘似昔占鼈頭之署素遠慈和今觀螭首之文盍□溫潤

銘曰

縣之東南 有山孤嵐 名曰遮蓋 雲影氈氈 天台老子 愛彼巉巖 鑿山爲殿
豈無長鑱 環洞垂碧 周匝綿石 中蘊七寶 玻璃連壁 卜築成院 名曰靈峯

百里響應 四民影從 未逾二紀 兵火相勝 王者流離 屋如懸磬 式丁
明時 民各得宜 里人歸善 孝義且慈 命僧遵說 嗣聲孤絕 示無礙法
鼓霹靂舌 一念□定 千佛像成 我作銘詩 日月齊明

皇統三年七月十五日記 中京大定府長興縣鄉貢進士 杜彥臣書

都綱沙門曉和 匡主沙門惠學千佛 沙門遵說僧善廻□□僧惠來僧惠□僧惠□僧惠靈僧
惠彥僧惠闡僧惠度僧惠作僧惠萬僧惠溫僧惠行僧惠悟僧圓教僧恒靜僧即如僧善悟僧惠善
都提點趙孝慈邑政趙瓊舉事趙璵邑判陳彥副判趙倫許誠趙孝琪趙衍李文嵩馬嵩鄭孝安劉
壽副提點劉忠信邑長孫公彥監造邑錄梁國寧韓祥梁永和高誠張孝仙趙瓊趙公彥張君祐任
公壽劉善

略解 滿洲ニ現存スル金代ノ碑トシテ最古ノモノニ屬ス。現ニ熱河省赤峰縣西南ノ遮蓋山ニ在リ。

欽定熱河志ニ靈峰院在八溝北翁牛特境內遮蓋山山有千佛洞今名大碾子洞有金皇統三年靈峰
院千佛洞碑奉議大夫驍騎尉劉子初撰云々トアルハ是ナリ。碑陰全面ニ捐資者例ヘバ契丹山
奚頭哥奚點者等數十名ノ氏名ヲ刻セルモ大半磨滅シテ讀ミ難シ。碑身高四尺四寸幅二尺四
寸。

文獻 欽定熱河志(卷八十一寺)(卷九十七)承德府志(卷二十寺)(卷二十一古)。

四十 撫順瀋州雙城縣令劉唐明堂碑記

金・皇統四年(西紀一一八〇四)

明堂

奉直大夫行瀋州雙城縣令驍騎尉 劉唐 銘紀

三代

曾翁 名不記

祖翁 從壽 生二子 有弟無嗣

父 永堅 生七子 有弟無嗣

長兄 僧智淵

二兄 度 無嗣

三兄 庠 守鈞州參軍生五子 長男慶仁律及第帶文林郎試太子校書郎 慶仁生二子 長男僧智辯次

四兄 廩 生二子 長男慶喬會應進士舉亦故

五兄 應 生三子 次男慶福會應進士舉亦故

六兄 庸 生五子 次男慶華會備進士故

七唐進士及第帶前仕職 生三子 長男慶昌見供奉班祿候次男慶輝會備進士舉故

曾父與唐等并姪慶仁已下十八名弟兄合眷一百□四從不分居□因兵火□曠散家風

大金皇統四年二月六日鑄 奉直大夫行瀋州雙城縣令驍騎尉 劉 唐建碑

九六

略解

此碑ハ表ニ「明堂」ノ二大字ヲ刻シ裏ニ瀋州雙城縣令劉唐ノ世系ヲ刻ス。今カラ約十年前撫順炭礦古城子露天堀ヨリ出土シ現ニ奉天國立博物館ニ保管ス。此種ノ碑石ハ滿洲ニ於テハ他ニ其例ヲ見ズ。碑身高二尺七寸五分、幅一尺五寸。

四十一 朝陽宜州廳峪道院復建藏經千人邑碑記

金・皇統八年(皇紀一八〇八) 西紀一一四八

宜州廳峪道院復建藏經千人邑碑記

東海 徐 卓撰

佛經者西域天竺之迦維衛國淨飯王太子釋迦牟尼之所說也太子當周莊王九年四月八日自母右脅而生及長舍太子位出家苦身學道精進六年以來覺悟一切種智故謂之佛佛在世垂化四十九年至於天龍神鬼無不聽法後至拘尸那城娑羅雙樹間二月十五日入滅度其弟子迦葉與阿難等五百人共追撰述綴爲經教行之西土千百餘年自漢已上中國未傳逮及明帝夜夢金人飛行於殿廷以問朝臣而傅毅對曰此佛也帝遣中郎蔡愔秦景奉使天竺求之得佛經四十二章及釋迦立像并與沙門攝摩勝竺法蘭東還愔之來也以白馬負經因立白馬寺於洛城雍門西以處之而後魏晉宋齊之間梁陳周隋之際聖賢繼至經論日滋寔興於姚秦羅什大備於李唐元

獎由是空門興教與儒道爭衡下至五代降及宋遼歷夷險而其教彌光經隆替而斯道愈振凡所貯藏有五千四十八卷故名曰藏經廳峪者乃遼時耶律祥穩家之墳所也其家世積善遂卜勝地以建佛宮置以藏經其來也久雖貯於此未見宏揚先是忠顯校尉顏壽因此地之是歷觀斯經之不宣乃約土人共齋物用請名僧數十人長穿開讀至於皇統六年十月七日無何爲火災所焚其餘屋舍掃地皆盡大凡事久則絕絕則有時而繼物久則滅滅則有時而興然則繼絕興滅非其人安能爲之哉郡人馬祐者乃逸士也遷世高蹈卜居相隣自觀煨燼之餘基誓發繼興之大願遂與舊邑人顏壽等親爲倡率轉相糾合乃得千人立爲一社衆推馬祐爲邑長以顏壽等爲提點募錢易經鳩工構藏隨其卷帙貯以櫃匣其餘佛屋僧廊次第建立庶幾法無凝滯人獲頂傳上以報皇國之恩下以資吾邦之福且走一介求記於余余亦里人也既聞其事喜不知極以筆書之俾勒諸石

皇統八年歲次戊辰七月十五日立石

略解

應峪道院ノ故址ハ朝陽縣ヲ距ル東北一百九十里ノ臺頭溝山下ニアリト。欽定熱河志(卷八十二) 寺廟六

ニ在三座塔東北臺頭溝有金皇統八年宜州廳峪道院復建藏經千人邑碑記東海徐卓撰字體完善

トシ更ニ今山下石佛半損壞院基周一里許惟存舊址下アルニテ之ヲ知ル。未ダ拓本ヲ見ズ亦

現狀ヲ知ラズ。暫ラク熱河志ノ所記ニ從フ。

文獻

欽定熱河志(卷八十二) 寺廟六 承德府志(卷三十八) 塔子溝紀略(卷十一) 義縣志(卷十六) 中 朝陽縣志(卷十三) 寺

四十二 遼陽贈光祿大夫張行願墓誌

金·天德二年(皇紀一一八〇〇)

特進參知政事虞國公張浩之先父光祿公諱行願
遼陽人也曾祖樂夫故禮賓使曾祖母大氏祖弼故
金吾衛上軍祖母李氏隴西郡夫人父祁故任南海
軍節度使以孫男浩入參大政贈崇德大夫母楊氏
始封弘農范陽郡夫人後贈虞國太夫人公初以世
家充樞密院令史遷右班殿直乾統丙戌歲二月十
五日卒享年卅有六公賦性沈厚傳家清白□其早
世弗克大耀所蘊爲鄉人之嗟惜今以子貴累贈光
祿大夫聚廣陵高氏封虞國太夫人生二男長爲僧
曰慧休圓通辨正大師前東京管内都僧錄次曰浩
特進參知政事虞國公也一女爲尼曰卽圓賜紫圓
惠大德孫男四人長曰汝爲登進士第奉直大夫今
爲冀州節度副使次曰汝翼亦登詞科承事郎東京
鶴野縣主簿早卒次曰汝霖次曰汝能皆志于學曾

孫男女各一名尙幼虞國太夫人以天德二年七月
九日卒享年七十有八特知參知以下其年九月甲
戌朔十有一日甲申合葬於天井山光祿公之塋且
俾直敘公之世次與合祔之期故其言不敢繁惟述
其實以誌於石

孫汝能書

略解 大正十二年春遼陽城東韓家墳村ノ耕地ヨリ瓷製古棺ト共ニ出土ス。今棺原石共ニハ遼陽縣
圖書館ニ保管ス。參知政事張浩ハ金海陵王及世宗ノ朝ニ宰相トシテ著ハル。金史(卷八十三列)
張浩傳ニ「天德二年丁母憂起復參知政事」トアルハ此ノ墓誌ノ所記ト符合ス。原石ハ縱橫各
尺六寸五分。

文獻 遼陽縣志(卷三十五)遼東文獻徵略(卷三三)遼陽縣古蹟遺聞(七三)

四十三 錦西安昌縣永和村重修舍利塔碑銘

金·天德四年(皇紀一一八二二)

錦州安昌縣永和村東講院重修舍利塔碑銘

朝散大夫充臨海軍節度判官騎都尉太原縣開國男食邑三百戶賜金魚袋 王庭圭撰
夫扶邪歸正背僞向真出三界之迷途洗六塵之惡業唯我如來大悲之教乎粵自金人夢現天

竺名聞道雖本於西方化乃行於東國爲釋子者由是建立塔廟興崇相儀既有依歸咸知敬禮豈特一切閻浮提內八方四千城邑聚落乃至十族之鄉百家之閭星羅棋布以因緣作佛事者不可勝數是伽藍之典雖崇飾尊嚴窮極壯麗必有宰堵波以耀人之觀仰使一切見聞興發善心普生歸向以是因緣故建塔者或諸佛生處或得道處或轉法輪或般涅槃及十方如來一切若門若牙若頂上骨若身中諸舍利以至袈裟匙鉢澡瓶錫杖如上所說自然時出光明以昭異相使衆生恭敬超登菩提當知此功德不可思議其利益莫大於此錦州西百里舊有縣曰永和先隸榆州自本朝撫定後廢縣爲村今撥屬安昌縣所管原於城東依山有講院一所其佛殿僧房齋堂厨舍莊嚴排設有次序而昔嘗立觀音塔於良峯之上多歷年所風摧雨注周圍毀缺慮其顛仆衆議重修有邑人郭興仁顯武者意欲經營偶仕宦遠方迄無成績今隴西李公鴻名偉望爲國碩臣以龍虎衛上將軍出鎮河北爲邢州安國軍節度使及受代來歸以斯院乃鄉邦故刹慨然憫其功之不逮因興淨行於鄰莊崔金吾宅所奉佛牙求得舍利九粒如珠瑟瑟爛然耀目爲此舍利當極重修塔中將以永爲一切衆生敬禮祈福之處及捨助清□請命平坡淨覺寺僧善冲與本院首座僧誓隆等主其事特剗舊基而增修之疊起七層高踰六丈其陶訪工匠成於心授規於手當始興修奉安舍利是□□現圓光衆目咸觀瞻禮敬信隨緣歡喜於是富者施財貧者施力唱言而遠近檀越莫不響應如涼風既至百寶皆成自天德三年四月十四日癸日興工至當年八月十五日工就不特佛力法力之資又有見歸依善法之邦人心自化樂於從事而然不爾興舊起廢何其成功之速耶蓋嘗論之際天所覆窮地所載在閻浮提國中若寺若院若大若小如阿育王所固有定數其外號

稱舍利塔者比比皆是釋典言得佛惠者歿有舍利以凡夫持修而得欣惠尤有舍利銜齒附骨出於佛牙中是得佛之眞體將見增建之後放大光明顯化無窮則瞻蓮花妙相永存不朽之因使法界祥生同霑勝利豈小補哉錦州從事王庭圭聞之而意樂隨喜又以龍虎公見囑爲記義不可辭遂忘其淺陋而姑以應命焉於是乎書復系以銘銘曰

佛法何宗 止曰無系 唯止故淨 能趣眞際 孰悟茲理 立塔良位 易舊增新
 善善相繼 作大因緣 興大利益 上飾浮圖 下藏舍利 建得仰瞻 夜燈勤禮
 刻石紀成 以昭千世

大金國天德四年歲次壬申丙寅朔己卯日丁卯時

略解 舊錦西縣城(江家屯)ノ北十里安昌峴村(舊安昌縣)ノ東山上ニ舍利塔アリ、碑ハ其下ニ立ツ。錦西

縣志(卷一六十七)ニ「金塔在城北十里安昌峴村東山上係金天德四年重修」トアリ古クハ盛京通

志ニ「古安昌縣之永和村城基有塔有碑」トアリ又大清一統志(卷四十三)ニ「錦州城西九十里古安昌縣

之永和村城基東一塔塔下有金大定間碑即其故址」トアリ金大定間碑ハ金天德間碑ノ誤リナリ。

文獻 大清一統志(卷四十三)乾隆盛京通志(卷二十八)錦西縣志(卷六)東三省古蹟遺聞(八)同續編(二三)。

四十四 遼陽宣武將軍高松哥墓誌

金·貞元三年(西紀一一八五)

北京都轉同知高輔國遷葬父

宣武將軍前往復州千戶高 松哥并妻大氏之銘

貞元三年五月初八日甲時

同遷二夫人於內穴內合葬

乙亥歲永記

碑陰

北手下次妻高氏

中間是宣武靈

南手下正妻大氏

略解

大正十三、四年頃確實ニハ不明遼陽驛西方ノ圓山農園内ヨリ出土セル石棺内ニアリタル石刻

銘記ノ一ナリ。原石ハ今滿鐵遼陽圖書館ニ保管ス。高九寸二分、幅六寸。

文献

續滿洲舊蹟志(六〇)

四十五 朝陽興中府尹銀青改建三學寺及

供給道糧千人邑碑銘

金・大定七年(皇紀一一八二七)

篆額 □□□式學之□碑記

興中府尹銀青改建三學寺及供給道糧千人邑碑銘并序

里人 韓長嗣撰并書

將仕郎興中府都孔目官白雲

王 祁篆額

夫物不常興有時而廢物不常廢有時而興凡興廢之際繫善人不善人之爲也如不善人有爲之時當興猶廢如善人有爲之時雖廢復興茲廼必然之理也三學寺都提點崇業大師三學見經淨慧大德更案孔目官孫公同來造予門而言曰大尹銀青改建三學寺紕千人邑供給道糧請予銘之其可許乎予曰物興繫人信不虛矣然愧非才忝居治下豈敢無諾三公遂詳言於予曰三學者其來遠矣爰自於唐肇啓之也迨及有遼建三學寺於府西擇一境僧行清高者爲綱首舉連郡經律論學優者爲三法師遞開教門指引學者兵興以來殿堂廊廡掃地而無聖朝旣獲遼土設三學如故法大定五年我大尹銀青來治興中其三學法師過廳大尹問之曰不意此方有設三學寺在何處三師對曰寺廢久矣三師名位具設權於私院敷演天尹喟然歎曰不亦傷乎方今京府巨鎮若布天下設三學者有數此幸得之何不復修對曰修寺者大事也若不遇大大緣力烏能及此大尹曰吾將揆之自歷數任未嘗不於佛廟有興衰補弊者也而況三學其事非細朝廷視之尙爲重矣凡取經律論之師者差官考試本府聚五州義學各宗出題答義中選者取三人授命爲三宗法師下四方學者日興講肆不惟圖增聖曆綿長抑亦使佛法傳遠而不見廢絕者其在茲乎苟非設此縱有清涼宣律師慈恩之才孰將傳焉以至後來之人雖有清涼宣律師慈恩之志孰將學焉吾不忍見曠一日聽訟之餘出遊狼山其上有院曰祥巒雖爲荆榛願其基址頗有制度又廼柳城形勝之地改修爲三學寺信甚便矣三師欣然相謂曰大大緣力遇之今日定見成就大尹曰爾亦可矣曰然遂施俸錢及己夫匠築土構木弘揚經律論庶使人知三宗所垂之教言修行之正路耳三

師曰誠謂善哉經律論者如鼎有足不可闕一大方廣佛花嚴經即無盡修多羅之摠名也世尊始成正覺頓說是經剖裂玄微昭廓心境窮理盡性徹果該因汪洋沖融廣大悉備者其惟茲乎開真體於萬化之域顯德相於重玄之門津流衆典此為洪源星列餘經此為呆日高不可仰深不可窺雖積行菩薩上德聲聞莫能探微索隱焉可謂常恆之妙說通方之洪規稱性之極談一乘之要軌也四分律者所以防邪檢失禁亂止魔取超世之道廢戒不洪斯廼三乘之津要萬善之窟宅者也慮群生愚惑安寢冥室悠游長夜不能自覺雖有出家庶幾玄微者徒懷遠趣迷於發足是以如來開戒德之妙門指涅槃之坦路宜加勗勵明慎執持令大法久住焉誠唯識論者暢大乘之妙趣也遣疑破執修行證果括衆經之祕包羣聖之旨何滯不融無幽不燭仰之不極俯之不測遠之無智近之有識其有隱括五明搜揚八藏幽關每擁玄路未通信巨夜之銀輝實昏旦之金鏡矣此經律論者戒定慧之法耳戒以資定定以究慧相須而成凡諸衆生得證無上菩提皆不離戒定慧之蘊者也是以 大尹銀青愈加修造之意遂感士庶竭力助緣滿寺殿舍不日告成 大尹曰戒成矣慮吾改任三師學人有闕日用其將奈何當紮千人邑不問僧尼道流男女老幼每歲十月一日人各納錢二百米一斗永給道糧不亦宜乎合郡官民爭為敬從延及鄰境乏人願來預邑取父作子述之義盡天長地久之期邑無累月幾就千人其邑人姓名具書碑陰若廼吐辭為經立行為法見之者瞻仰聞之者歸依苟非有出世之道其孰能與於此以財好施於寰好興倡之則從順造之則成就苟非有服人之德其孰能與於此 釋迦如來天竺人也去中國隔數萬程一日其教來傳不拘賢愚竟為奉行誠謂有出世之道也哉 大尹銀青遼陽人也去興中不遠千里來尹斯

府一日治政之餘修三學寺紮千人邑不拘內外咸樂助辨信謂有服人之德也哉其為銘曰

凡厥萬事	有興有衰	興諸衰者	非賢其誰	府有三學	自遼而置	經律論宗
倡法之地	兵興以來	殿宇無存	三師仍設	私院敷演	大尹銀青	下車臨治
三師過廳	首問其寺	師將趨進	具告其昔	位則設矣	寺廢久焉	大尹聞之
發嘆者屢	京府巨鎮	設此有數	此幸得之	胡不復修	答曰大事	修之何由
必在所遇	大大緣力	緣若不遇	修之烏得	大尹出言	吾將揆之	師喜相謂
遇在此時	吾當佛廟	興衰補敝	況此三學	其事匪細	朝廷尙重	考試無私
學優中選	授命為師	可增聖曆	綿綿長久	又令佛法	燈燈傳後	後人受之
修行無疑	吾可惜此	不忍見墮	一日之間	聽訟之暇	號令從人	出遊于野
北登狼山	有院祥巒	沒為荆榛	殿缺僧殘	彷徨勿去	載瞻載顧	壞址遺跡
亦有制度	茲廼柳城	形勝之方	修為三學	既利且昌	爰施俸錢	及已匠梓
經營堂構	不日成矣	大尹復言	成則成歟	吾將改任	定缺學儲	欲紮千人
道糧永給	僧俗老幼	同為是邑	非此一事	延及其隣	歡欣而至	願預邑人
宜此勝事	常如今日	傳之子孫	善繼善述			

維大定七年歲在丁亥夏六月 建丁未丁卯朔十有三日巳卯良時建 天水趙栢成刻
 都維那銀青榮祿大夫行興中尹上柱國廣陵郡開國公食邑二千戶食實封貳伯戶 高思廉
 妻廣陵郡夫人高氏 二夫人高氏 長男雲堂 次男三學奴

略解 三學寺ノ舊址ハ朝陽縣城北八里ノ狼山中腹ニアリ、現ニ佑安寺(俗ニ祥鸞廟)ト稱スル小寺アリ、碑ハ其ノ山門前ニ立ツ、一字ノ磨滅ナク完全ナルモ碑陰ノ姓名ハ風蝕シ殆ンド讀ミ難シ。承德府志(朝陽縣條)ニ在縣北狼山舊爲祥鸞院金大定五年重修有興中府尹改建三學寺碑里人韓長嗣撰文并書下アルハ是ナリ。碑身高六尺七寸、幅三尺四寸。

文獻 欽定熱河志(卷八十一)卷一百十八(藝文十二) 承德府志(卷二十八) 塔子溝紀略(卷十一) 朝陽縣志(卷七) 藝文六(藝文六)

四十六 雙陽壯義王完顏婁室神道碑

金大定十七年(皇紀一八三七)

篆額 大金開府儀同三司金源郡壯義王完顏公神道碑 二十字五行

翰林直學士大中大夫知制誥兼行秘書少監

虞王府文學輕車都尉太原郡開國伯食邑七百戶賜紫金魚袋

奉上天大夫大名府路兵馬都總管判官飛騎尉賜緋魚袋

明威將軍東上閣門使兼行太廟署令上騎都尉平原縣開國子食邑五百戶

臣 任 詢書

王諱婁室字幹里衍與國同姓蓋其先曰合篤者居阿注澹水之源爲完顏部人祖洽魯直贈金吾衛上將軍以財雄鄉里枝屬浸蕃乃擇廣上徙雅撻瀨水挈鄰麻吉等七水之人皆附麗焉父白答贈金紫光祿大夫事世祖爲七水部長焉時蠢謀寇亂者構爲兇惡金紫公與同部人阿庫德協心一力拒之以附世祖王簡重剛健矯捷過人撰甲蒙胄手之所及無不超越而器識深遠幼不好弄

卓然有成人風爲鄉閭所愛年十有四金紫公知其材曰兒勝兵矣乃獻於穆宗一與語器之曰是子他日可以寄軍旅重任爾後阿拍留可蒲余罕等相繼逆命王從之屢立戰功受賞遼人蕭海哩叛入於係遼籍之女直部穆宗使王規知所在勒兵討捕王登先鏖擊蒙賞以甲冑具裝戰馬麗出曰兵侵曷曷懶甸進築九城宗子贈原王付實款帥師討之王從攻其城久而不克王言之於帥宜退彼外援絕其餉道可不攻自下從之降其城王從魏王幹帶討訛渾叛師攻其城王登自東南隅斧其樓柱流矢中手貫其肘攻猶不已士衆從之以登城遂成功居其最年二十一代父爲七水部長太祖方圖義舉問召王與同部人銀朮可間曰遼人驕矜且其見侵無厭又轄他部人陶東弗吾界吾欲先翦其外邑以張吾軍然後進伐何如王進曰遼人內外之隙其時太祖攻取寧江州王登先以戰元擢授猛安奉命總督銀朮可蒙吉等往平係遼籍女直諸部既降一部長而各部長告急於遼援兵三千且至王率其已降撻施逕進掩其不備大破之追殺千餘人明日破奚部又敗援兵三千斬其將俘獲監戰銀牌使者諸部以次平之宗室幹古魯略城咸州以其敵重使會王合兵禦之乃往敗其成兵三千於境斬其將遂會幹古魯既而聞敵兵且至王留四謀克精銳各守其一門與幹古魯濟水翼王居左擊敗其所衝追殺略盡幹古魯軍引卻退城與所留諸謀克整陳而立王返兵擣敵背大敗之咸州既下因徇地黃龍府太祖自將進達魯古城將與遼兵遇遣使馳召王以軍赴之太祖見其馬力疲極益以三百匹命居右翼明日兵交以衆寡不侔爲敵所圍者九王所向披靡輒潰圍而出竟大破之太祖將進取黃龍召諸將議方略王進曰黃龍遼之銀府所以圍邊者拒守甚堅若不行遏其巡屬使絕外援則未易可拔請

試效之太祖乃令王以軍行自遼水以北咸州以西暨諸奚部城邑悉討平之進壁府城東南扼敵軍出入且巡其邨堡凡有以應援者使不得交通度城中力屈可攻使馳奏太祖遂親御諸軍以至圍之王攻東南隅選壯乘蒐倚梯望其樓櫓乘風縱火王乃毀民家堞趨士力戰至火然韞傷足而不知諸軍繼進敵遁不守太祖嘉其功賞御馬一奴婢三百仍賜誓券恕死罪太祖之敗遼破敵兵九俱王挑戰有功天輔及韓魯古阿思等平乾顯路攻克顯州遂與遼大帥耶律瀆戰於蒺藜山大破之遂下川成徽三州徙其人民於咸州黃龍之地於是太祖命王為黃龍路統牧皇弟遼王統諸軍以平中京王為先鋒至山敗其節度使雅里斯之兵三千借完顏等帥師徇地奚部所向輒克始與余篤以騎二千襲遼主於鴛鴦灤遼主遁去追至白水弗及獲其內帑輜重大軍圍其西京城堅拒守王與皇弟闍母攻東而製攻具以三木駢犖為洞垣右長廊使士卒行其下以塞墮塹又作樓車鞏之以革施四輪其上出陴堞以闕敵諸軍乘之而遂克城與闍母徇地天德雲內東勝寧邊四州及其旁諸部悉降之叛人阿克東于是始獲都統韓魯以諸軍次白水王營中夜有光如炬起矛王戒嚴曰將有重敵明日聞夏人出兵三萬援遼過雲內矣韓魯以諸軍會天德遼主前後遣騎數百迎敵竟為所掩惟數騎得還時方暑雨韓魯與諸帥議方略皆曰彼衆我寡宜請濟師於朝比其至姑擇草牧以休養士馬王獨曰敵據我前儻吾軍若縱之其勢益張我雖不戰亦必來爭利若劫取新降人民則沮吾士氣所請濟師豈能遽集耶願得精騎一千與辭不失拔離速二將以偕見可則戰難則固壘以俟合軍宗室付古迺河之曰爾安輕舉我軍既寡馬力疲甚將何交戰王曰制敵如救烈火一後其時反為所乘則益難為功宜必迎戰付古迺拔

佩刀勃然曰諸帥不欲爾敢拂衆耶王厲聲曰我獨欲戰者非為身計蓋國家大事耳阿昆乃欲屈忠勤之志而沮諸軍之氣乎亦挺刀相向諸帥大驚起并之韓魯以二將與王偕行將至耶俞水登高以望夏軍隊伍不整方濟水遣使馳報韓魯曰今觀敵衆而無威易與耳將挑戰僞遁以致之請速以師進王乃分所將為二旅更出引卻其繼出進退以誘之退凡過水乃再整行列奮銳氣馳擊敵兵遂卻退我大軍亦至合擊之敵乃大潰追至耶俞水殺數千人敵赴間結陣俄水河之東降四部族迭刺部既降復叛討平之太祖平燕皇子宗望由間道東下至昌平以取糧餉太祖魯暨皇子宗望引兵追襲以王為先鋒道出龍門擒其都統耶律大石至白水又擒之仁又破西山巨盜趙公直出師于朔漠之境生擒公直天會初遼主播越應朔間韓魯遣將分兵三路追襲追之疾馳六十里及之于風山遼主以其騎陳而立王馳之其衆潰遼主以六十餘騎韓王戒士卒曰無馬出其馬胄而詔書所以招諭之意遼主遂獲以歸

□使請降輒名□□使馳奏王不能平□□辨之執政□□
於石馬遂獲遼君厥功茂焉自今或罹罪□□罰餘釋勿論藏之明府有如□□徇國戮力
敵於雁門圍代州克之執其將□嗣本進降忻州又降戍將耿守思等太□□王領先鋒軍取馬邑破
遣王以軍與之協力遇宋將樊□之衆十萬於□城破之又敗□□而宋之援兵日集銀朮可獨不能辦宗翰
靈石攻拔汾州招石州及諸縣邑降之宗翰以大军□□反轡奮擊大破之遂獲九孛董軍趨汾州掩平遙介休
橋活女於是自津遡流行三十里見河水□□津復遣子活女與諸將繼之突葛速等破敵降河陽而宋人既撤河
洛京及鄭州合大军圍汴與孛董□□爲神不擊自遁諸軍畢濟遂取
□□冒圍出戰王見其鋒銳不以逆擊使活女率精兵橫截之敵衆亂王乃督諸軍進戰手中流
矢整轡挺鎗馳擊自若敵大敗奔城而城中□□爲諸
軍所覆既克宋帥府俾王統諸軍西赴陝津討河東未附郡縣至澠池大破宋師范致虛勤王之師
三十萬僵尸盈溝致虛僅以數十騎遁去遂克陝府濟河□□又破敵二萬降解州攻河中城堅拒

守王使其弟倚梯間登陴俄援甲士三人上與敵格鬪諸軍繼進克之蒲人西走先出者焚橋而
去餘溺於河使並流拯之活其卒五百人於是置蒲解二守以進士攝諸縣長吏招撫散亡以活女
領二猛安軍留鎮中京又降絳慈隰石四州而還元帥府將平陝西以王嘗請之使詣闕圖上方略
還率諸路軍合萬人以行出慈州乘冰渡河而南復與范致虛軍十六萬遇于朝邑大破之遂降同
華進破重敵於潼關徇地京兆敗敵數萬於長樂坡遂克京兆擒其經制使傅亮傳降鳳翔隴州鳳
翔尋叛進軍城下破其援兵十餘萬攻拔之還敗敵三萬於武功日中復敗三萬於近地又破十五
萬於渭南北趣鄜延徇下諸郡招降折可求收麟府豐三州及諸城堡克晉寧軍殺其守徐徽言京
西陝府叛復討平之又破重敵於渭水終南略地西北宋將吳玠率軍二十萬來拒遇於武河戰十
有四合而敵氣始衰遂大破之陝府又叛往討之既成圍使以薪芻絕池築甬列衝棚臨城攻之池
水忽涸王戒將士曰敵泄池水必突地欲焚甬也嚴備之既而煙出於塹遂撤攻具而退須臾火發
甬爲所焚敵復引水自固王使以沙囊塞塹於是梯衝並進數日攻克擒其將李□□及援兵之將
趙士伯戮之鄜延復叛于是王已感末疾睿宗皇帝時爲元帥將親平陝右使王先討定鄜延而宋
將張浚率步騎十八萬壁富平睿宗皇帝會諸軍迎敵王至見敵游兵千餘踰溝來覘乃率百餘騎
邀擊而設伏於阨以輕騎誘之出將前伏發返轡夾擊之斬馘略盡執生口以獻遂領左翼及敵兵
遇於兩溝之間自日中戰至於昏六合而後敗之始合右翼引邵王援之乃復明日睿宗皇帝賞賚
有功將士願謂王曰力疾鏖戰以徇國家遂破大敵雖古名將何以加也悉以帝筵所用金銀酒具
及細堅甲冑副以馬鎧戰馬七匹賞之由是疾增劇以天會八年十二月九日卒於涇州回□之西

原年五十有三軍中哭之如親喪焉計聞太宗震悼詔遣親衛馳驛護其喪歸葬於濟州之東南與吉里復遣皇子鶻沙虎宗子銀朮可迓之車駕還自中京道出終南之際親至祭奠臨哭久之所以贈賻者良厚天會十四年追贈使相官制行改贈開府儀同三司又追封莘王正隆二年改封金源郡配曰溫都氏追封王夫人子男七人長曰活女官至儀同三司京兆尹本路兵馬都總管曰韓魯光祿大夫迭刺部節度使曰謀衍崇進留守東京曰什古廼金吾衛上將軍留守北京孫男仕者曰斛魯鎮國上將軍世襲猛安曰度刺世襲謀克曰齊古符寶祇候曰撒葛祝太子內直郎曰辭烈宿衛士王鶻勇果毅濟以明略始自伐遼迄於克宋率身先行陣前數千百戰未嘗不捷獨追獲遼主至於取汴篋馬以涉大河威名震懾南北自國初迄今言將帥臣無能出其右者大定十六年天子思其功烈詔圖像太祖原廟明年大袷配享太宗廟庭諡曰壯義又敕詞臣譔次之建碑墓隧臣竊惟王之考金紫公在世祖戡難定亂時爲不二心之臣書勳史冊王以忠貞才武輔佐太祖太宗征伐功無與二稱頌至今傳所謂世濟其美者歟銘曰

金興受命 實始翦遼 武元載旆 疇若戎昭 王惟世臣 焯焯忠藎 視敵無前
 身先行陳 武元致屆 順天應人 天討有罪 生此虎臣 靡堅不摧 靡強不踏
 薄伐雲朔 至於漠北 匪學孫吳 出奇縱橫 以寡覆衆 殄殲夏兵 掩追亡遺
 屢執醜虜 反轡風山 卒獲遼主 迨及伐宋 經營太原 所在寇敵 如雲之屯
 王鋒一臨 如覩之雪 膚公之奏 奚營三捷 宋既畫疆 乃復渝盟 王弗解甲
 師弗留行 宋阻洪河 舟梁旣撤 靡杭一葦 長驅而入 先之鞏洛 合圍汴梁

困獸搏鬪 擊之而僵 亦旣克汴 趣師關陝 貔貅裹糧 金湯失險 富平之役
 王身厲疾 威猶靡及 以死勤事 雖疾亦力 勁敵何有 力戰乃克
 寇壘旣清 陝右遂平 王誠有功 維昔先王 千載如生

略解 楊寶ノ柳邊紀略(卷四)ニ船廠西二百里薄屯山有金完顏婁室神道碑高八尺八寸濶四尺五寸厚一尺二寸頂高三尺南面縷蛟龍其陰殘毀其陽篆二十字作五行「トアリ吉林通志(卷一百三)ニ碑舊在伊通州北伊通邊門南地名石碑池今已佚尺寸無考トアリ碑身ハ久シキ以前旣ニ所在ヲ失シ最風ノミ殘リ今ヤ其ノ行方ハ探查スルニ由ナシ。碑文ハ吉林通志ト柳邊紀略ニ各出入アリ、今ヤ拓本ヲ見ルニ由ナクシテ缺字ト空白トヲ區別シ難シ。本文ハ大體柳邊紀略ニ據レリ。
 文獻 柳邊紀略(卷四) 吉林通志(卷一百三) 遼東文獻徵略(卷四ノ)。

四十七 舒蘭貞憲王完顏希尹神道碑

金大定十七年(皇紀一八三七)

篆額 大金故尙書左丞相金源郡貞憲王完顏公神道碑 二十字五行
 大金故左丞相金源郡貞憲王完顏公神道碑
 翰林直學士大中大夫知制誥兼行秘書少監
 虞王府文學輕車都尉太原郡開國伯食邑七百戶賜紫金魚袋 臣 王彥潛奉敕撰

奉直大夫大名府路兵馬都總管判官

臣任詢書

明威將軍上閣門使東行大廟署令騎都尉

今天子紹休 聖緒圖任今太尉左丞相濮國公守道

亦重其世功耳上嘗因清燕顧謂丞相曰朕視 祖宗實錄見乃祖丞相

之謂詩曰文武受命召公維翰無曰子小子召公是似書曰世選爾勞子不掩爾善茲子大享于先

王爾祖其從與享之豈不然哉故左丞相贈金源郡王

昭祖同諱以其賢明 昭祖與之為友國

世祖嘗曰吾有桓篤何事不成贈開府儀同三司戴國公

祭禮會於移懶河部長神徒門家因其兄弟建伐遼之議特

行與 太祖嘉悅賜襲衣御馬 詔頒行之 皇弟遼王杲都統內外諸軍攻下中京

比其還也師圍寧江州命王以軍夷暨因攻克之及出家店

製字以進 太祖嘉悅賜襲衣御馬 詔頒行之 皇弟遼王杲都統內外諸軍攻下中京

王與 兵北安 招集 衛士 烈 遼來投附詳 取之 宗翰於

遼兵拒鬪我前 軍王以千軍繼至戰敗之勦殺甚衆悉獲其甲冑輜重軍及鴛鴦濼遼主已

居之地不及而還杲遣王 諸帥捷奏 太祖 西南路招討部族諸遷向內地稱旨而還

太祖以王從義征以來功多賜之金器天會二年遼主越在陰山宗翰統諸帥以銳師掩襲

戰比昏王遇三敗之遼主分三隊而逸 王以偏師又襲之於沙漠 其不備而及之遼主驚遁

惟一二臣從 獲其八寶妃嬪公主及群侍從與諸部族之人為先 經略使嘗權西南西北兩路

都統 言 遼為援據有天德雲內六館之地并招納我已獲奚契丹人我方事滅遼姑置

之弗取夏為宋所侵求援於我 王 者辭意不遜王復書責讓且理索當還之

人尚復遷延至克宋建立 楚畫大河為界遂盡復舊疆並還我官民由先

宋人渝盟奏下大學問罪王與左副元帥宗翰師趣河東而至城邑關口拒守者攻之降則撫之分

遣諸將破宋之諸路援兵先 原明年將舉師不留行既克汴諸將帥爭取珍異王獨先收宋圖

籍捷奏 太宗嘉其功賜誓券以寵異之無何宋康王構自立於淮陽我軍 復渡河即澶漢

至淮陽遣精騎逾淮 及揚州構僅以輕舸渡江遁去還軍駐雲中王偕宗翰如燕就右副元

帥 議再 南伐前重九二日王往緡山閱馬道見騎者二人物色頗異詰之戰懼失次搜衣領中

得元帥都監耶律余篤反書約燕京統軍使高六遼 元帥九日出獵因伏兵舉事王馳報二帥遂

執高六鞫之辭伏王馳一日而至西京窮治反者無遠近悉捕誅之遣兵追捕余篤已

